茨城県教育財団文化財調査報告第169集

# 十万原地区市街地開発事業
# 地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

## ニガサワ遺跡

作業室用

平成12年3月

茨城県住宅供給公社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第169集

# 十万原地区市街地開発事業
# 地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

## ニガサワ遺跡

平成12年3月

茨城県住宅供給公社
財団法人　茨城県教育財団

ニガサワ遺跡遠景

ニガサワ遺跡出土遺物

# 序

茨城県水戸市藤井町字十万原地内において，十万原市街地開発事業が茨城県住宅供給公社によって計画されています。これは，21世紀の新しい街づくりのモデルとして，地区の環境特性を活かしつつ，これからの時代の新しい生活ニーズを先取りし，多様な機能が備わった個性的で魅力的な街づくりを目指すものであります。

その事業予定地内にニガサワ遺跡が所在していたため，財団法人茨城県教育財団は，茨城県住宅供給公社から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成10年4月から9月まで発掘調査を実施してまいりました。

本書は，ニガサワ遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化の向上の一助として，ご活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県住宅供給公社からいただいた多大なるご協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，水戸市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

# 例　　言

1　本書は，茨城県住宅供給公社の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成10年4月から平成10年9月まで発掘調査を実施した，茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の414ほかに所在するニガサワ遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成10年4月1日～平成10年9月30日

整理　平成11年9月1日～平成12年3月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第1課長沼田文夫の指揮のもと，調査第2班長中山忠久，主任調査員小林孝，菱沼良幸が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員森野谷悟の指揮のもと，主任調査員小林孝が担当した。

5　発掘調査及び整理に際し御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

# 凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋50,800m，Y＝＋50,400mの交点を基準点（A１a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A１区」，「B２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ1，2，3……0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A１a1区」，「B２b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　土坑－SK　溝－SD　ピット－P

遺物　土器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品－M　拓本記録土器－TP

土層　撹乱－K

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

竈　焼土・繊維土器　炉・黒色処理　粘土　赤彩

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　－－－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺物観察表の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の1，遺構は原則的に60分の1に縮尺して掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

(3)　「主軸」は，炉・竈を持つ竪穴住居跡については，炉・竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例　N－10°－E，N－10°－W)。

(4)　土器の計測値の表示は，A－口径　B－器高　C－底径　D－高台・脚部径　E－高台・脚部高とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，残存率，実測番号（Pなど），出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

# 抄　　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | じゅうまんばらちくしがいちかいはつじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書 |
| 副書名 | ニガサワ遺跡 |
| 巻次 | I |
| シリーズ名 | 茨城県教育財団文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第169集 |
| 著者名 | 小林　孝 |
| 編集機関 | 財団法人　茨城県教育財団 |
| 所在地 | 〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029－225－6587 |
| 発行機関 | 財団法人　茨城県教育財団 |
| 所在地 | 〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029－225－6587 |
| 発行日 | 2000（平成12）年3月21日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 標高 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ニガサワ遺跡 | 茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の414ほか | 08201<br>－<br>111 | 36度<br>27分<br>25秒 | 140度<br>23分<br>53秒 | 28<br>～<br>32m | 19980401<br>～<br>19980930 | 9,158㎡ | 十万原地区市街地開発事業に伴う事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| ニガサワ遺跡 | 集落跡 | 縄文 | 集石遺構　7基 | 縄文土器片<br>石器（石鏃・石匙・石皿） | 縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。縄文時代の集石遺構や古墳時代の前期，中期の住居跡が確認されている。 |
| | | 弥生 | 土坑　1基 | 弥生土器（広口壺） | |
| | | 古墳 | 竪穴住居跡　36軒 | 土師器（坏・高坏・器台・甕・壺・ミニチュア土器・手捏土器）<br>土製品（紡錘車・土錘） | |
| | | | 土坑　1基<br>溝　2条 | 石製品（紡錘車） | |
| | | 平安 | 竪穴住居跡　7軒 | 土師器（坏・甕・椀）<br>須恵器（坏） | |
| | その他 | 時期不明 | 土坑　15基 | | |

# 目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
挿図目次，表目次，写真図版目次
第1章　調査経緯……1
　第1節　調査に至る経過……1
　第2節　調査経過……1
第2章　位置と環境……2
　第1節　地理的環境……2
　第2節　歴史的環境……2
第3章　調査の成果……2
　第1節　遺跡の概要……6
　第2節　基本層序……6
　第3節　遺構と遺物……9
　　1　竪穴住居跡……9
　　(1)　古墳時代……9
　　(2)　平安時代……96
　　2　集石遺構……109
　　3　上　　坑……112
　　4　溝……115
　　5　遺構外出土遺物……116
　第4節　ま と め……120
写真図版

# 挿 図 目 次


第1図　ニガサワ遺跡周辺遺跡分布図……4
第2図　基本土層図……6
第3図　ニガサワ遺跡調査区設定図……7
第4図　ニガサワ遺跡遺構全体図……8
第5図　第1号住居跡実測図……10
第6図　第1号住居跡出土遺物実測図……11
第7図　第2号住居跡実測図……13
第8図　第2号住居跡出土遺物実測図(1)……14
第9図　第2号住居跡出土遺物実測図(2)……15
第10図　第4号住居跡・出土遺物実測図……17
第11図　第5号住居跡実測図……18
第12図　第5号住居跡出土遺物実測図……19
第13図　第6号住居跡・出土遺物実測図……20
第14図　第7号住居跡実測図……22
第15図　第7号住居跡出土遺物実測図……23
第16図　第8号住居跡実測図……25
第17図　第8号住居跡出土遺物実測図……26
第18図　第9号住居跡実測図……27
第19図　第9号住居跡出土遺物実測図……28
第20図　第10号住居跡実測図……30
第21図　第10号住居跡出土遺物実測図……31
第22図　第12号住居跡実測図……32
第23図　第13号住居跡実測図……33
第24図　第13号住居跡出土遺物実測図(1)……35
第25図　第13号住居跡出土遺物実測図(2)……36
第26図　第13号住居跡出土遺物実測図(3)……37
第27図　第14号住居跡実測図……39
第28図　第14号住居跡出土遺物実測図……40
第29図　第15号住居跡・出土遺物実測図……41
第30図　第17号住居跡・出土遺物実測図……43
第31図　第18号住居跡実測図……45
第32図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)……46
第33図　第18号住居跡出土遺物実測図(2)……47
第34図　第19号住居跡実測図……50
第35図　第19号住居跡出土遺物実測図……51
第36図　第20号住居跡実測図……53
第37図　第20号住居跡出土遺物実測図……54
第38図　第21号住居跡実測図……56
第39図　第21号住居跡出土遺物実測図……57
第40図　第22号住居跡実測図……58
第41図　第22号住居跡出土遺物実測図……59
第42図　第24号住居跡実測図……60
第43図　第24号住居跡出土遺物実測図……61
第44図　第25号住居跡・出土遺物実測図……63
第45図　第26号住居跡実測図……65
第46図　第26号住居跡出土遺物実測図……66
第47図　第27号住居跡実測図……67
第48図　第27号住居跡出土遺物実測図……68
第49図　第28号住居跡実測図……70
第50図　第30号住居跡実測図……71
第51図　第30号住居跡出土遺物実測図……73
第52図　第31号住居跡実測図……74
第53図　第31号住居跡出土遺物実測図……75
第54図　第32号住居跡・出土遺物実測図……77
第55図　第33号住居跡実測図……78
第56図　第33号住居跡出土遺物実測図……79
第57図　第34号住居跡実測図……80
第58図　第35号住居跡・出土遺物実測図……82
第59図　第36号住居跡・出土遺物実測図……83
第60図　第38・39号住居跡実測図……85
第61図　第39号住居跡出土遺物実測図……87
第62図　第41号住居跡実測図……88
第63図　第41号住居跡出土遺物実測図……89
第64図　第42号住居跡・出土遺物実測図(1)……91
第65図　第42号住居跡出土遺物実測図(2)……92
第66図　第43号住居跡実測図……94
第67図　第43号住居跡出土遺物実測図……95
第68図　第3号住居跡実測図……97
第69図　第3号住居跡出土遺物実測図……98
第70図　第11号住居跡・出土遺物実測図……99

第71図　第16号住居跡・出土遺物実測図 ……101
第72図　第23号住居跡・出土遺物実測図 ……103
第73図　第29号住居跡・出土遺物実測図 ……104
第74図　第37号住居跡・出土遺物実測図 ……106
第75図　第40号住居跡実測図 ……107
第76図　第１～７号集石遺構実測図 ……111
第77図　第２・５号集石遺構出土遺物実測図 …112
第78図　第１号土坑・出土遺物実測図 ……112
第79図　第16号土坑・出土遺物実測図 ……114
第80図　第１・２号溝断面図 ……115
第81図　第１号溝出土遺物実測図 ……115
第82図　遺構外出土遺物実測図(1) ……117
第83図　遺構外出土遺物実測図(2) ……118
第84図　遺構外出土遺物実測図(3) ……119
第85図　ニガサワ遺跡集落変遷図 ……122

## 表　目　次

表１　ニガサワ遺跡周辺遺跡一覧表……5
表２　ニガサワ遺跡住居跡一覧表……108・109
表３　ニガサワ遺跡土坑一覧表 ……114

## 写真図版目次

ＰＬ１　調査前風景，遺構確認状況
ＰＬ２　遺構完掘全景，第１号住居跡完掘状況
ＰＬ３　第１号住居跡遺物出土状況，第２号住居跡完掘状況
ＰＬ４　第２号住居跡遺物出土状況，第７号住居跡完掘状況
ＰＬ５　第18号住居跡遺物出土状況，第25号住居跡完掘状況
ＰＬ６　第８・９号住居跡完掘状況，第13号住居跡遺物出土状況
ＰＬ７　第17・19号住居跡完掘状況，第18号住居跡遺物出土状況
ＰＬ８　第20・27号住居跡完掘状況，第25号住居跡遺物出土状況
ＰＬ９　第27・30号住居跡遺物出土状況，第33号住居跡完掘状況
ＰＬ10　第35・39・42号住居跡完掘状況
ＰＬ11　第42・43号住居跡遺物出土状況，第43号住居跡完掘状況
ＰＬ12　第３・23号住居跡完掘状況，第37号住居跡遺物出土状況
ＰＬ13　第１・39号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第２・９・13・16・43号住居跡遺物出土状況，第42号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ14　第１～７号集石遺構，第16号土坑遺物出土状況
ＰＬ15　第１・２号住居跡出土遺物
ＰＬ16　第２・４・５号住居跡出土遺物
ＰＬ17　第５～９号住居跡出土遺物
ＰＬ18　第７～10・13号住居跡出土遺物
ＰＬ19　第13号住居跡出土遺物

ＰＬ20　第13～15号住居跡出土遺物
ＰＬ21　第15・17・18号住居跡出土遺物
ＰＬ22　第18～20号住居跡出土遺物
ＰＬ23　第20～22・24号住居跡出土遺物
ＰＬ24　第25～27号住居跡出土遺物
ＰＬ25　第30・32・33号住居跡出土遺物
ＰＬ26　第33・35・36・39・41号住居跡出土遺物
ＰＬ27　第41・42号住居跡出土遺物
ＰＬ28　第42・43号住居跡出土遺物
ＰＬ29　第３・11・16・23・29号住居跡・第１号土坑・第１号溝出土遺物
ＰＬ30　第２・５号集石遺構・遺構外(1)出土遺物
ＰＬ31　遺構外出土遺物(2)
ＰＬ32　遺構外出土遺物(3)

# 第1章　調　査　経　緯

## 第1節　調査に至る経過

茨城県住宅供給公社は，水戸市十万原地区において，21世紀の新しい街づくりのモデルとして，「次世代を担う複合機能都市の形成」を目標とし，十万原地区市街地開発事業を計画した。

平成8年10月11日，茨城県土木部都市局住宅課から茨城県教育委員会あてに，十万原地区市街地開発事業地域内における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会があった。これに対して茨城県教育委員会は，平成9年10月15日から23日にかけて現地踏査と試掘調査を行った。平成9年12月1日，茨城県教育委員会から茨城県土木部都市局住宅課あてに，十万原地区市街地開発事業地内にニガサワ遺跡が所在する旨回答した。平成10年1月8日，当初埋蔵文化財の所在の有無についての照会は，茨城県土木部都市局住宅課が取扱ってきたが，事業主体が茨城県住宅供給公社であることから，今後の取扱い業務については茨城県住宅供給公社が行う旨協議した。平成10年2月13日，茨城県教育委員会と茨城県住宅供給公社が同事業に係わるニガサワ遺跡の取り扱いについて，文化財保護の立場から協議を重ねた。

その結果，現状保存が困難であることから，平成10年3月13日，茨城県教育委員会は茨城県住宅供給公社あてに，ニガサワ遺跡を記録保存とする旨回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県住宅供給公社から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成10年4月1日から平成10年9月30日までニガサワ遺跡の発掘調査を実施することになった。

## 第2節　調査経過

ニガサワ遺跡の発掘調査は，平成10年4月1日から平成10年9月30日までの6か月にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を月ごとに記述する。

4月　発掘調査を開始するため，現場事務所や倉庫の設置，調査器材の搬入，補助員投入等の諸準備を行った。27日から補助員を投入し，諸施設の整備，遺跡内の清掃作業を行った。

5月　1日から試掘調査を実施した。20日からは，業者委託による立木の伐開作業を開始した。

6月　8日から重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。その結果，古墳時代の集落跡の存在が確認された。26日から方眼杭打ち測量を実施した。

7月　3日に遺構確認状況の写真撮影を行い，住居跡4軒の遺構調査を開始した。6日に，基準杭打ちを実施し，23日には，第12号住居跡の完掘状況の写真撮影を行った。

8月　3日から中央部の包含層で確認した住居跡12軒の調査を実施した。黒色帯になっており遺構が確認しにくいため，井桁にトレンチを入れながら調査を進めた。

9月　住居跡と並行して土坑及び集石の調査を行った。25日に完掘全景の航空写真撮影を実施した。26日には，現地説明会を実施し，遺構，遺物を公開した。28日から撤収作業を始め，安全対策を含め30日には，一切の現地調査を終了した。

# 第2章　位置と環境

## 第1節　地理的環境

ニガサワ遺跡は、茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の414ほかに所在している。

水戸市は、茨城県のほぼ中央に位置し、東は東茨城郡大洗町、西は笠間市、南は東茨城郡内原町・同郡茨城町に、北はひたちなか市、那珂郡那珂町、東茨城郡常北町に接している。

当遺跡の所在する水戸市藤井地区は、市の北西部に位置し、東・西・北の三方を常北町に接している。常北町の地形は、西から東に丘陵性山地、台地、沖積低地に大別される。西部の丘陵性山地は、八溝山地の南の鷄足山塊の東縁部にあたり、標高200m程度の低山が連なる。鷄足山塊は、主に砂岩、頁岩の互層からなり、一部にチャートや石灰岩をはさんでいる。また、丘陵性山地周辺部には、凝灰岩、砂岩、泥岩等からなる地層が分布しており、台地の基盤岩となっている。常北町の台地は、那珂西台地あるいは石塚台地と呼ばれる洪積台地であり、市街地の大部分がここに形成されている。台地は、標高40～50m程度で低地との比高は約20mあり、急崖に囲まれている。町の東部を南に流れる那珂川と東に流れる藤井川、西田川等の那珂川の支流群は、台地を開析し沖積低地を形成している。低地は主に水田に利用されている。

ニガサワ遺跡は、那珂西台地の一部である十万原台地の東端、西田川右岸の標高30m前後の河岸段丘上の中位段丘に位置し、西側の台地は畑地が広がり、東側の低地は水田として利用されている。調査前の現況は、畑地や山林である。

## 第2節　歴史的環境

ニガサワ遺跡付近は、那珂川とその支流群によって開析された台地が展開し、そのため原始・古代より格好な居住の場として利用されており、十万原台地には当遺跡のほかにも多数の遺跡が存在する。ここでは、ニガサワ遺跡周辺の主な遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡としては、水戸市十万原台地上のドウゼンクボ遺跡〈11〉、二の沢遺跡〈12〉、十万原遺跡〈17〉の3か所が知られている。特に、二の沢遺跡からは刃器が採集されている。

縄文時代の遺跡は、水戸市十万原台地上のドウゼンクボ遺跡、二の沢遺跡、十万原遺跡、ポンポン遺跡〈10〉、那珂川右岸の藤井町遺跡〈18〉、清水台遺跡〈20〉、南駒形遺跡〈21〉、塙遺跡〈25〉、鳴沢大塚遺跡〈27〉、下宿遺跡〈32〉、馬場尻遺跡〈35〉等が知られている。十万原遺跡は早期から前期の遺跡として考えており、沈線文系土器の三戸式土器が豊富に出土している。藤井地区周辺の遺跡としては、常北町の中妻遺跡〈8〉、那珂西遺跡〈16〉、後畑遺跡〈5〉、外ノ内・大神遺跡〈7〉、増井本郷遺跡〈22〉等が挙げられる。

弥生時代になると遺跡数は少なくなり、十万原台地上のポンポン遺跡、ドウゼンクボ遺跡、那珂川右岸の馬場尻遺跡などが知られている程度である。藤井地区周辺の遺跡としては、常北町の片山遺跡、風輩前遺跡、上人野遺跡〈3〉などが挙げられる。

古墳時代の遺跡としては、今回調査したニガサワ遺跡〈1〉、ニガサワ古墳群〈14〉、二の沢古墳群〈13〉等が挙げられる。二の沢古墳群では、2基の円墳が確認されている。藤井地区周辺の遺跡としては、飯富地区の御立山古墳群、常北町の風輩前遺跡、塙井古墳〈23〉、南青山古墳群、長峰古墳群、石塚古墳群等が知られている。

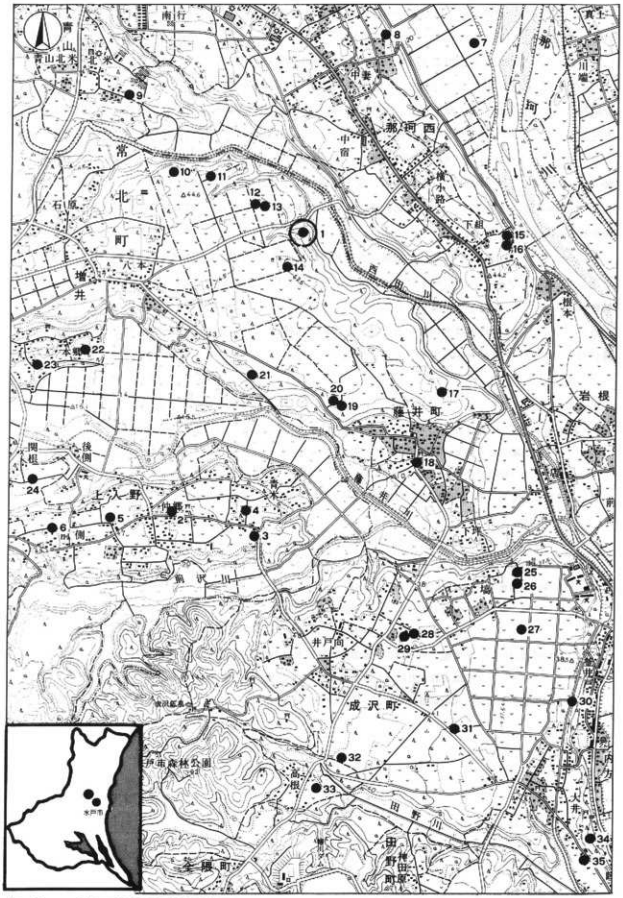
奈良・平安時代の遺跡としては，水戸市の台渡廃寺跡がある。この寺は，「徳輪寺」，「仲寺」と呼ばれた那珂郡の「郡の寺」であり，これまでの調査で塔跡，門跡，工房跡，構列等が確認されており，さらに寺の北側には，那珂郡の郡衙の存在も想定されている。また，南西約6kmの前沢川上流には木葉下窯跡（水戸市）があり，現在までに1.5km四方に金山支群，三ケ野支群，高取山支群の3支群が確認されている。これらの窯跡は，8世紀初頭から9世紀後半まで操業していたと考えられている。当窯跡からは台渡廃寺に供給していたとみられる瓦も出土しており，台渡廃寺や那珂郡衙とかかわりのある官窯としての性格を有していたものと考えられている。さらに，南東3kmの那珂川右岸の台地上には，火葬骨を納めた蔵骨器が密集して発見された飯富火葬墓跡〈30〉がある。常北町内では，中妻遺跡，北米遺跡〈9〉，那珂西遺跡，増井遺跡，上入野遺跡，青木遺跡〈4〉，後個遺跡，前個遺跡〈6〉，仲郷遺跡〈2〉等が確認されている。仲郷遺跡の第35号土坑からは，甲冑の小札152点が出土している。

平安時代から中世にかけては，この地域は常陸大掾氏，那珂氏，佐竹氏の勢力下にあり，各種の抗争の舞台となった。そのため，各氏の一族や臣下の城館が各所に造られた。常北町内にある石塚城跡や県指定の那珂西城跡〈15〉は今でも堀や土塁の跡を留めている。

近世になると，この地域は水戸藩領となり，佐竹氏，大掾氏，江戸氏の一族や家臣で帰農した者や，戦国以降に移住した武士や農民も加わり近世の村を形成した。

参考文献


- 水戸市史編さん委員会『水戸市史　上巻』水戸市　1963年9月
- 常北町史編さん委員会『常北町史』常北町　1988年3月
- 大山年次，蜂須紀夫『茨城県　地学のガイド』コロナ社　1977年8月
- 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』茨城県　1979年3月
- 茨城県史編集会『茨城県史料　考古資料編　弥生時代』茨城県　1991年3月
- 茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』茨城県　1974年2月
- 茨城県史編集会『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』茨城県　1995年3月
- 茨城県教育財団「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集　1996年3月
- 茨城県教育財団「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第124集　1997年6月
- 茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』2版　1990年3月




第1図　ニガサワ遺跡周辺遺跡分布図　　1：25,000　地形図「石塚」　国土地理院

表1　ニガサワ遺跡周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 県遺跡番号 | 時代 旧石 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 鎌倉・室町 | 江戸 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ニガサワ遺跡 | 当遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 | 仲郷遺跡 | | | | | | ○ | ○ | |
| 3 | 上入野遺跡 | 4576 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 4 | 青木遺跡 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 後側遺跡 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 6 | 前側遺跡 | | | | | | ○ | | |
| 7 | 外ノ内・天神遺跡 | 4571 | | ○ | | ○ | | | |
| 8 | 中妻遺跡 | 4577 | | ○ | | | | | |
| 9 | 北米遺跡 | 4578 | | | | | ○ | | |
| 10 | ポンポン遺跡 | 2598 | | | ○ | | | | |
| 11 | ドウゼンクボ遺跡 | 2597 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 12 | 二の沢遺跡 | 2599 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 13 | 二の沢古墳群 | 2600 | | | | ○ | | | |
| 14 | ニガサワ古墳群 | 2602 | | | | ○ | | | |
| 15 | 那珂西城跡 | 293 | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 16 | 那珂西遺跡 | 287 | | ○ | | | ○ | | |
| 17 | 十万原遺跡 | 2603 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 18 | 藤井町遺跡 | 32 | | ○ | ○ | | | | |

| 番号 | 遺跡名 | 県遺跡番号 | 時代 旧石 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 鎌倉・室町 | 江戸 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 清水台古墳群 | 120 | | ○ | | ○ | | | |
| 20 | 清水台遺跡 | 33 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 21 | 南駒形遺跡 | 34 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 22 | 増井木郷遺跡 | 4581 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 23 | 増井古墳 | 292 | | | | ○ | | | |
| 24 | 関根遺跡 | 4575 | | ○ | | ○ | | | |
| 25 | 塙遺跡 | 30 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 26 | 神生館跡 | 134 | | | | | | ○ | ○ |
| 27 | 鳴沢町大塚遺跡 | 2641 | | ○ | | ○ | | | |
| 28 | 鳴沢町大塚古墳群 | 2640 | | | | ○ | | | |
| 29 | 飯富遺跡 | 2618 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 30 | 飯富火葬墓跡 | 2618 | | | | | ○ | | |
| 31 | 塚山古墳群 | 119 | | | | ○ | | | |
| 32 | 下宿遺跡 | 31 | | ○ | | | | | |
| 33 | 高根遺跡 | 2605 | | | | ○ | ○ | | |
| 34 | 大井下古墳群 | 117 | | | | ○ | | | |
| 35 | 馬場尻遺跡 | 2642 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |

# 第3章　調査の成果

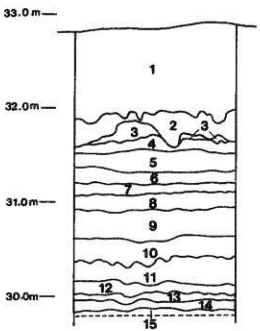
## 第1節　遺跡の概要

ニガサワ遺跡は，藤井川と西田川に挟まれた舌状台地の東端，西田川右岸の標高30mほどの河岸段丘上の中段に位置する。調査面積は9,158㎡で，現況は畑と山林である。

本遺跡は，縄文時代，古墳時代，平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査により，竪穴住居跡43軒（古墳時代36軒，平安時代７軒），土坑17基，溝２条，集石遺構７基を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に54箱出土した。縄文土器片，弥生土器片，土師器（坏・高坏・器台・甑・甕・ミニチュア土器・手捏土器），須恵器（坏），土製品（紡錘車・土錘・管状土錘），石器（石鏃・石匙・磨石・石皿），石製品（紡錘車），金属製品（刀子・鎌）等が出土している。

## 第2節　基本層序




**第２図　基本土層図**

調査区域内（Ｃ２h9区）にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った（第２図）。

第１層は，黒色の耕作土で，厚さは85～100cmである。

第２層は，黄白色粒子少量と赤色粒子微量を含む褐色の層で，七本桜軽石層である。粘性は弱く，締まりは強い。厚さは４～40cmである。

第３層は，赤褐色粒子多量と黄白色粒子微量を含む赤褐色の層で，今市軽石層である。粘性は弱く，締まりは強い。厚さは４～20cmである。

第４層は，黄褐色のローム層である。粘性，締まりとも強い。厚さは５～16cmである。

第５層は，褐色のローム層で，第１黒色帯の上部である。粘性，締まりとも強い。厚さは15～25cmである。

第６層は，５層よりわずかに明るい褐色のローム層で，第１黒色帯の下部である。粘性，締まりとも強い。厚さは10～20cmである。

第７層は，黄褐色のハードローム層である。姶良Tn火山灰を含む層と思われる。粘性，締まりとも強い。厚さは10cm前後である。

第８層は，第２黒色帯の上部で，暗い黄褐色のハードローム層である。粘性，締まりとも強い。厚さは15～20cmである。

第９層は，第２黒色帯の下部で，褐色のハードローム層である。粘性，締まりとも強い。厚さは30cm前後で

ある。

第10層は，明黄褐色のローム層である。粘性，締まりとも強い。厚さは15～30cmである。

第11層は，黄褐色の鹿沼パミス層である。粘性は弱く，締まりは強い。厚さは15～27cmである。

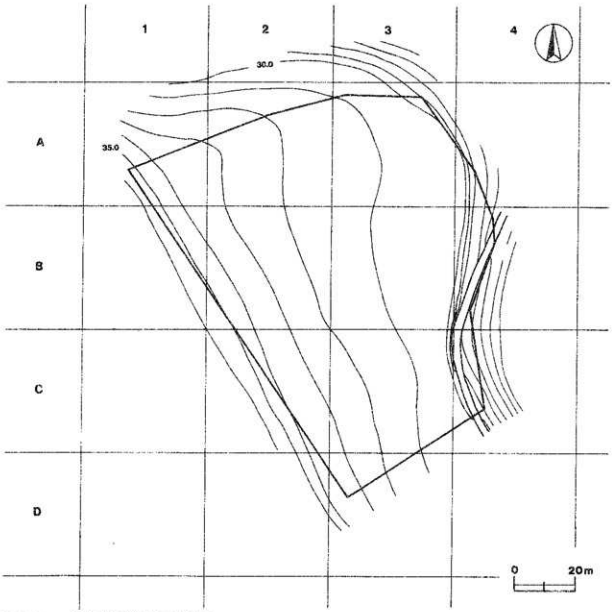
第12層は，赤褐色の鹿沼パミス層である。粘性は弱く，締まりは強い。厚さは5～15cmである。

第13層は，黄褐色粒子を多量に含んだ黄橙色の層で，箱根－東京軽石層と考えられる。粘性は強く，締まりは弱い。厚さは10cm前後である。

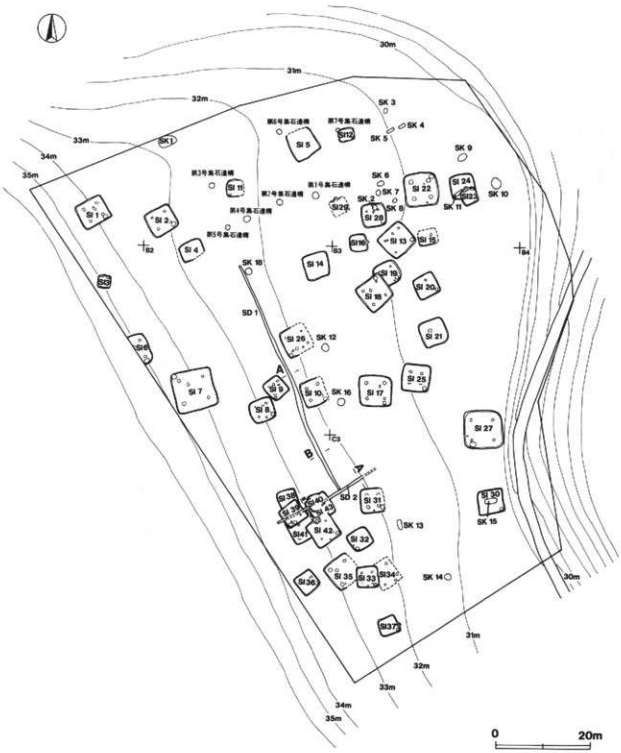
第14層は，黄白色粒子を少量含んだにぶい黄褐色の粘土層である。粘性は強く，締まりは普通である。厚さは10cm前後である。

第15層は，礫を微量含んだ灰黄褐色の常総粘土層である。粘性は強く，締まりは普通である。厚さは5cm前後である。

遺構は，2層上面で確認した。




第3図　ニガサワ遺跡調査区設定図




第４図　ニガサワ遺跡遺構全体図

## 第３節　遺構と遺物

### １　竪穴住居跡

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡36軒，平安時代の住居跡７軒を確認した。以下，確認した住居跡の状態と出土遺物について記載する。

#### (1)　古墳時代

**第１号住居跡**（第５～６図）

**位置**　調査区の北西部，Ａ１ｉ８区。

**規模と平面形**　長軸6.18m，短軸5.58mの長方形である。

**主軸方向**　Ｎ－39°－Ｗ

**壁**　壁高は24～34cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　確認した壁下すべてに巡っている。上幅10cm前後，下幅５cm前後，深さ５cm前後で，断面形はＵ字形である。

**床**　ほぼ平坦で，炉の周辺がよく踏み固められている。

**ピット**　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ４は径55～75cmの円形で，深さ83～99cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，長径110cm，短径40cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**

1　極暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，長径93cm，短径83cmの楕円形で，深さは23cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

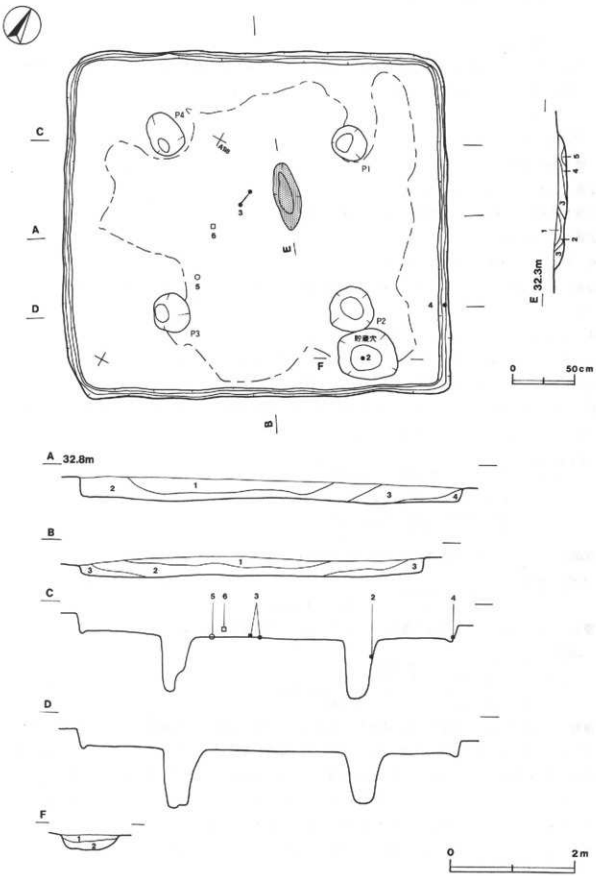
**覆土**　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

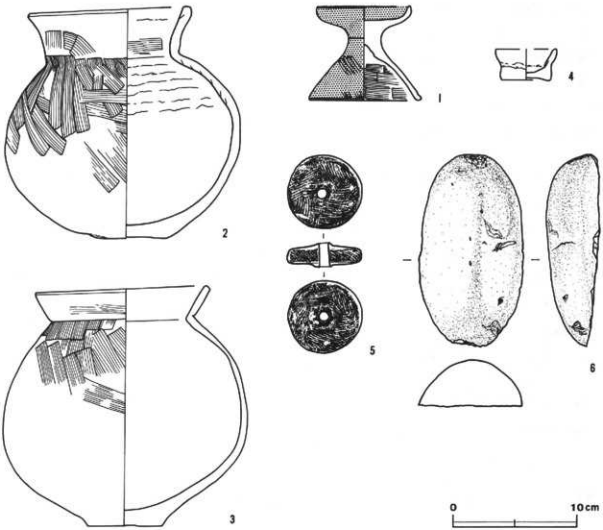
1　黒　　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子微量

**遺物**　土師器片300点，土製品１点（紡錘車），石器１点（磨石），流れ込んだ縄文土器片154点，弥生土器片３点が出土している。第６図１の土師器器台は，炉の覆土中から正位の状態で出土している。２の土師器甕は貯蔵穴の覆土中層から斜位の状態で，３の土師器甕は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。４の土師器手捏土器は，東コーナー部の壁溝内から逆位の状態で出土している。５の土製紡錘車は，中央部の床面から出土している。６の磨石は，中央部の覆土中層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。




第5図　第1号住居跡実測図




**第6図　第1号住居跡出土遺物実測図**

第1号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6図 1 | 器台 土師器 | A 7.4<br>B 7.6<br>D 8.8 | 脚部一部破損。脚部はハの字状に開く。器受部は皿状に開き，口縁部は垂直に立ち上がる。 | 器受部内・外面横ナデ。脚部外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。内面ハケ目調整。脚部内面以外赤彩。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P1　80%<br>PL15<br>炉覆土中 |
| 2 | 甕 土師器 | A 12.8<br>B 18.7<br>C 6.1 | 口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整後，横ナデ。体部外面ハケ目調整。内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P2　95%<br>PL15 外面煤付着<br>貯蔵穴覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | A 13.6<br>B 19.4<br>C 6.0 | 体部一部欠損。やや突出した平底。体部は球状を呈する。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ハケ目調整後，横ナデ。体部外面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P3　75%<br>PL15 外面煤付着<br>中央部床面 |
| 4 | 手捏土器 土師器 | A [4.9]<br>B 2.5<br>C 3.9 | 鉢形。突出した平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面とも指ナデ。体部内・外面に輪積み痕。 | 砂粒・赤色粒子・長石<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P4　70%<br>PL15<br>東コーナー部覆土内 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6図5 | 土製紡錘車 | 6.0 | 2.0 | 0.8 | 64.0 | 中央部床面 | DP1　PL15 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6図6 | 磨石 | 15.5 | 8.4 | (4.3) | (705.0) | 安山岩 | 中央部覆土中層 | Q1　PL15 |

**第２号住居跡**（第７～９図）

**位置**　調査区の北西部，Ａ２11区。

**規模と平面形**　長軸5.86m，短軸5.52mの方形である。

**主軸方向**　N－13°－W

**壁**　壁高は20～32cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　確認した壁下すべてに巡っている。上幅６～12cm，下幅３～６cm，深さ３～８cmで，断面形はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，炉の周辺がよく踏み固められている。中央部と北東から南西にかけて焼土塊が，西コーナー部に炭化材小片が内側に向かってみられる。

**ピット**　４か所（P1～P4）。P1～P4は径48～55cmの円形で，深さ33～68cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径60cm，短径45cmの楕円形で，床面を６cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 赤 | 褐 | 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子微量 |
| 2 | 赤 | 褐 | 色　ローム粒子多量，焼土粒子中量 |
| 3 | 暗 | 赤褐 | 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，長径115cm，短径85cmの楕円形で，深さは32cmである。

**貯蔵穴土層解説**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒 | 褐 | 色　炭化物・粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒 | 褐 | 色　炭化粒子中量，ローム粒子微量 |
| 3 | 褐 | | 色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量 |

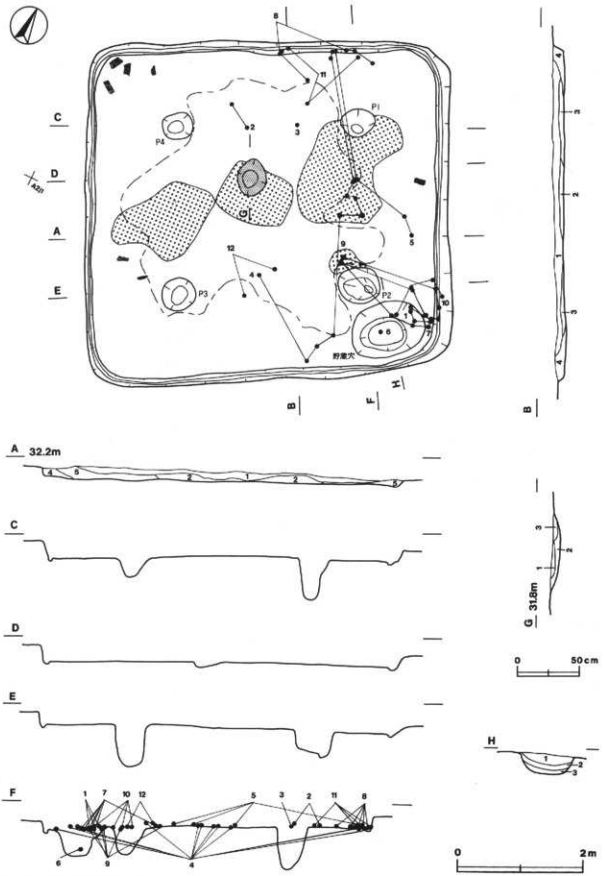
**覆土**　５層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

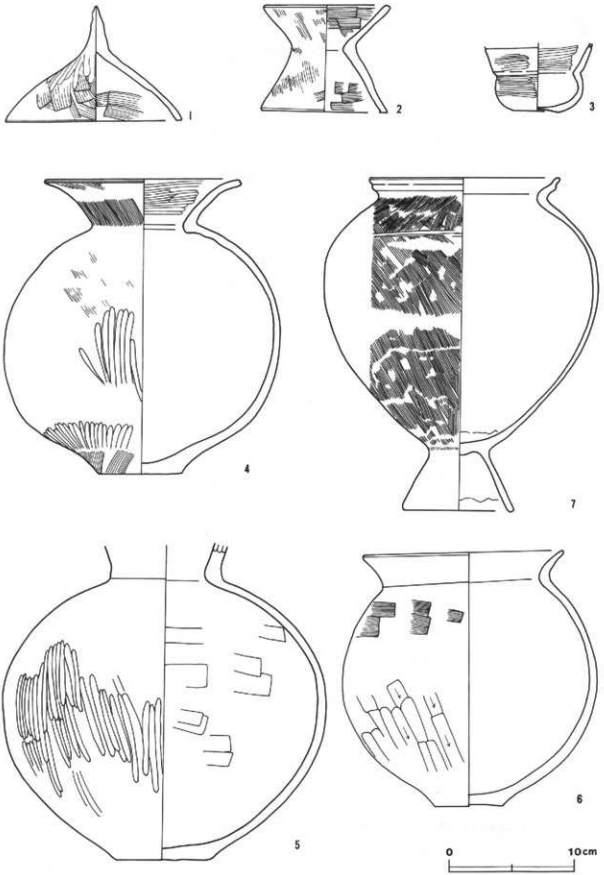
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒 | | 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒 | 褐 | 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 | 黒 | 褐 | 色　炭化材少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 | 黒 | 褐 | 色　炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 5 | に | ぶい赤褐 | 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子少量 |

**遺物**　土師器片596点，**礫**２点，炭化材，流れ込んだ縄文土器片82点，弥生土器片２点が出土している。土師器片は，東部の床面から集中して出土している。第８・９図に示した土器はいずれも土師器である。１の**壺**は，東コーナー部の床面から出土している。２の器台は北部の床面から横位の状態で，３の**甕**は北部の床面から正位の状態で出土している。４の壺は東部の床面から，５の壺は東部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。６の**甕**は，貯蔵穴の覆土下層から斜位の状態で出土している。７・９・10の台付**甕**は東コーナー部の床面から，８・11の台付**甕**は北壁際の床面から出土している。12の台付**甕**の口縁部破片は，中央付近の覆土下層から出土している。

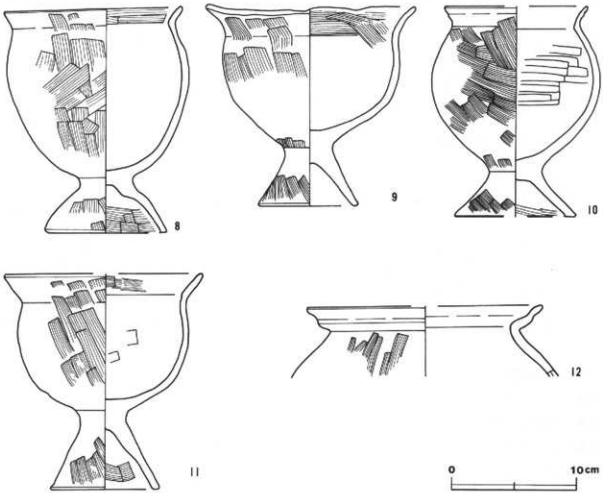
**所見**　床面に焼土塊や炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。




第７図　第２号住居跡実測図




第８図　第２号住居跡出土遺物実測図(1)




**第9図　第2号住居跡出土遺物実測図(2)**

第2号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第8図 1 | 蓋 土師器 | A 14.1<br>B 9.4 | 天井部一部欠損。天井部は逆漏斗状を呈する。 | 天井部外面ハケ目調整後，ヘラナデ。内面ハケ目調整。 | 砂粒・赤色粒子・雲母にぶい黄橙色 普通 | P5 80%<br>PL15<br>東コーナー部床面 |
| 2 | 器台 土師器 | A 9.8<br>B 8.7<br>D 10.2 | 器受部一部欠損。脚部はハの字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。 | 器受部外面ハケ目調整後，ナデ。内面ハケ目調整。脚部外面ハケ目調整後，ナデ。内面ハケ目調整。 | 砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通 | P6 80%<br>PL15<br>北西部床面 |
| 3 | 壺 土師器 | B (5.6)<br>C 3.5 | 口縁部一部欠損。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石・石英にぶい褐色 普通 | P7 80%<br>PL15<br>北部床面 |
| 4 | 壺 土師器 | A 15.4<br>B 23.8<br>C 6.6 | 口縁部・体部一部欠損。やや突出した平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面ハケ目調整，内面ヘラ磨き。体部外面中位ヘラ磨き・下位ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒・長石にぶい橙色 普通 | P9 80%<br>PL15<br>東部床面 |
| 5 | 壺 土師器 | B (25.7)<br>C 7.4 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・石英橙色 普通 | P10 60%<br>PL15<br>東部床面 |
| 6 | 甕 土師器 | A 16.0<br>B 20.6<br>C 5.4 | 完形。平底。体部は球状を呈し中位に最大径を持つ。頸部はくの字状にくびれ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目調整後，ナデ，下位ヘラ削り。 | 砂粒・長石・石英にぶい褐色 普通 | P8 100%<br>PL15<br>貯蔵穴覆土下層 |

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第8図<br>7 | 台付甕<br>土師器 | A 15.4<br>B 26.8<br>D 9.0 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。体部は内弾して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部はS字状で，外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面羽状のハケ目調整，内面ナデ。脚台部内・外面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P11　80%<br>PL16<br>東コーナー部床面 |
| 第9図<br>8 | 台付甕<br>土師器 | A 14.1<br>B 13.2<br>D 9.8 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開く。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ハケ目調整，内面ナデ。脚台部内・外面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P12 70%<br>PL16<br>北壁際床面 |
| 9 | 台付甕<br>土師器 | A 17.0<br>B 16.3<br>D 8.0 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開く。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面上位，脚台部ハケ目調整。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P13 70%<br>PL16<br>東コーナー部床面 |
| 10 | 台付甕<br>土師器 | A [11.4]<br>B 16.8<br>D [11.6] | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開く。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のハケ目調整，内面ヘラ削り。脚台部内・外面斜位のハケ目調整。 | 砂粒・長石<br>にぶい褐色<br>普通 | P14 80%<br>PL16<br>東コーナー部床面 |
| 11 | 台付甕<br>土師器 | A [15.3]<br>B 17.3<br>D 8.7 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開く。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ。脚台部内・外面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P15 55%<br>PL16<br>北壁際床面 |
| 12 | 台付甕<br>土師器 | A [18.6]<br>B ( 5.7) | 口縁部片。体部上位は胴部に向かって内傾する。口縁部はS字状で，外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜位のハケ目調整。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P16　5%<br>中央部付近覆土下層 |

### 第4号住居跡（第10図）

**位置**　調査区の北西部，B 2 a 3区。

**規模と平面形**　長軸4.93m，短軸3.96mの長方形である。

**長軸方向**　N－65°－E

**壁**　壁高は22～32cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦である。北西部に粘土塊がみられる。

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

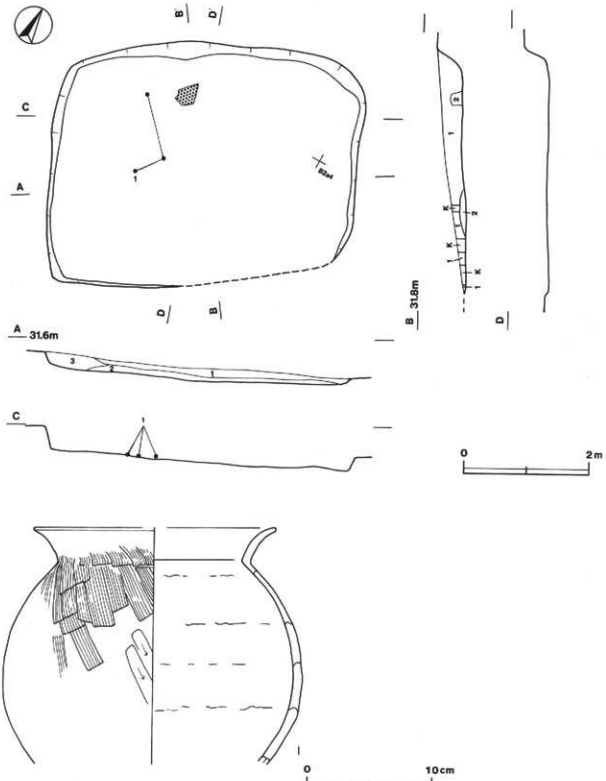
土層説明
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子少量

**遺物**　土師器片99点，礫14点，流れ込んだ縄文土器片17点，弥生土器片５点が出土している。第10図１の土師器甕は，中央部付近の覆土下層と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

**所見**　本跡ではかまや柱穴を確認できなかった。時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。

### 第４号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10図<br>1 | 甕<br>土師器 | A [19.4]<br>B (19.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弾して立ち上がり，頸部はくの字状にくびれる。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面上位にかけて斜位のハケ目調整。中位ヘラ削り。体部内面輪積み痕。 | 砂粒・雲母・礫<br>にぶい褐色<br>普通 | P22　30%<br>PL16<br>中央部付近覆土下層 |




**第10図　第４号住居跡・出土遺物実測図**

**第５号住居跡**（第11・12図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｅ9 区。

**規模と平面形**　北壁は，削平されており確認できなかった。長軸[6.27]m，短軸5.69m の長方形と推定される。

**長軸方向**　N－30°－W

**壁**　壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦である。

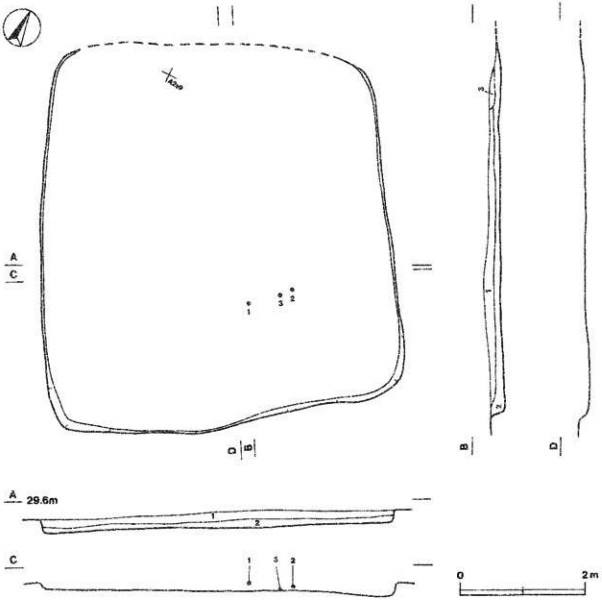
**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

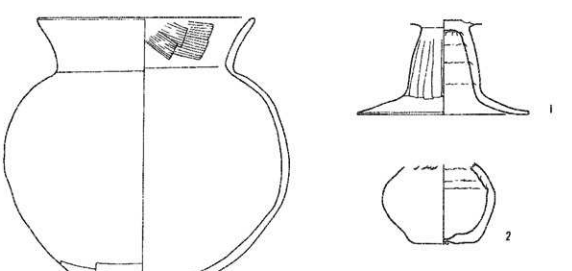
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

**遺物**　土師器片361点，礫1点，流れ込んだ縄文土器片101点が出土している。第12図1の土師器高坏は，中央部付近の覆土上層から，2の土師器坩は，中央部付近の覆土中層から出土している。3の土師器甕は，中央部付近の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡では柱穴や炉を確認できなかった。遺物は，床面からの出土はほとんどなく，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から判断して中期（5世紀前葉）またはそれ以前と考えられる。




**第11図　第5号住居跡実測図**




**第12図　第５号住居跡出土遺物実測図**

第５号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12図 1 | 高坏 土師器 | B（7.6） D 13.6 | 脚部片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。 | 脚部外面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。脚部内面輪積み痕。 | 砂粒・長石・石英 橙色 普通 | P23 40% PL16 中央部付近覆土上層 |
| 2 | 壺 土師器 | B（6.5） C 5.0 | 口縁部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面ナデ，内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・赤色粒子 明褐褐色 普通 | P24 70% PL16 中央部付近覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | A 17.4 B 22.0 C（6.9） | 底部・体部一部欠損。平底。体部は球状を呈する。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内面ハケ目調整後，横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通 | P25 80% PL17 中央部付近覆土下層 |

**第６号住居跡（第13図）**

**位置**　調査区の北西部，Ｂ２ｆ１区。

**規模と平面形**　中央部から西側が調査区域外のため，平面形は確認できなかった。確認できたのは東西(3.04)m，南北6.78mである。

**壁**　壁高は10cm前後で，外傾して立ち上がる。

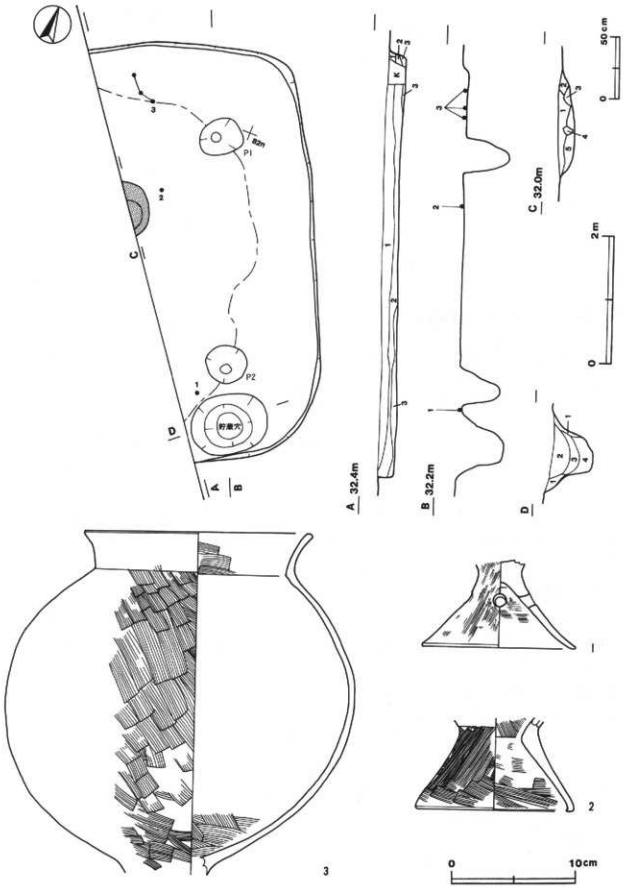
**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

**ピット**　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１・Ｐ２は径55cm前後の円形で，深さ65～73cmであり，北・南東コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　西半分は調査区域外になっているため確認できなかった。確認できた部分は長径（86）cm，短径（30）cmで楕円形と推定され，床面を13cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**

1　黒　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
5　赤 褐 色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量，ローム粒子少量




第13図　第６号住居跡・出土遺物実測図

**貯蔵穴** 南東コーナー部で確認され，長径120cm，短径95cmの楕円形で，深さは70cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1 暗 褐 色 ローム中ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

**標土** 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物** 土師器片133点，流れ込んだ縄文土器片3点，弥生土器片2点が出土している。第13図1の土師器器台は南東部の床面から横位の状態で，2の土師器器台は中央部の床面から出土している。3の土師器甕は，北西壁際の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。

**所見** 本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図 1 | 器台 土師器 | B（7.1） D 12.4 | 脚受部欠損。脚部はラッパ状に下方に開き，中位に4孔が空けられている。 | 脚部内・外面ハケ目調整後，ナデ。 | 砂粒・長石・小礫にぶい褐色 普通 | P26 50% PL17 南東部床面 |
| 2 | 器台 土師器 | B（7.5） D 12.6 | 脚部片。脚部はラッパ状に開く。器受部中央に単孔。 | 脚部内・外面ハケ目調整。 | 砂粒・長石・赤色粒子 褐色 普通 | P27 50% PL17 中央部床面 |
| 3 | 甕 土師器 | A 27.9 B（27.9） | 底部欠損。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ハケ目調整後，横ナデ。体部外面ハケ目調整，内面下位ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・白色粒子 褐色 普通 | P28 70% PL17 北西壁際床面 |

## 第7号住居跡（第14・15図）

**位置** 調査区の西部，B2h3区。

**規模と平面形** 長軸8.90m，短軸8.51mの方形である。

**主軸方向** N－19°－W

**壁** 壁高は15～35cmで，外傾して立ち上がる。

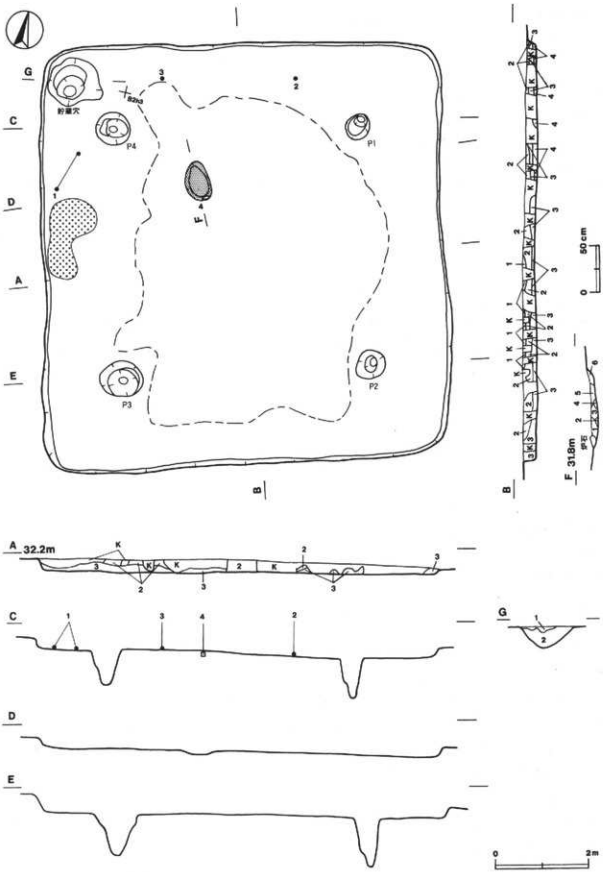
**床** ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。西部に焼土塊がみられる。

**ピット** 4か所（P1～P4）。P1～P4は径55～80cmの円形で，深さ75～109cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉** 中央部からやや北西寄りに位置し，長径82cm，短径55cmの楕円形で，床面を8cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。炉石が，炉の長軸に直行するように炉床の南縁に据えられ，上面は火熱を受け赤変し，一部煤が付着している。

**炉土層解説**
1 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
2 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4 赤 褐 色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
5 極暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量

**貯蔵穴** 北西コーナー部で確認され，長径115cm，短径100cmの楕円形で，深さは46cmである。




第14図　第７号住居跡実測図

**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

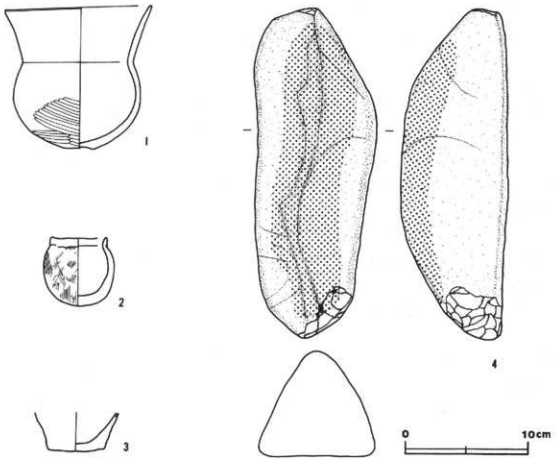
**覆土**　4層からなる。撹乱が激しいが，確認できる覆土はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片337点，石器1点（炉石），流れ込んだ縄文土器片10点が出土している。第15図1の土師器坩は西壁際の床面から横位の状態で，2のミニチュア土器甕は北壁際の床面から正位の状態で出土している。3の手捏土器は，北壁際の床面から出土している。4は炉石で，出土状況は上述のとおりである。

**所見**　床面に焼土塊がみられることから，本跡は焼失家屋と考えられる。ミニチュア土器や手捏土器が出土していることから，祭祀との関連が推測される。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第15図　第7号住居跡出土遺物実測図**

第7号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図<br>1 | 坩<br>土師器 | A 11.7<br>B 11.5<br>C 2.4 | 体部一部欠損。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P29　90%<br>PL17<br>西壁際床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図 2 | ミニチュア土師器 | A 4.4<br>B 5.5 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頂部でくびれ，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P30 95%<br>PL17<br>北壁際床面 |
| 3 | 手捏土器<br>土師器 | B (3.1)<br>C 4.5 | 口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面とも指頭によるナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P31 70%<br>PL17<br>北壁際床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅 (cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第15図4 | 砥 | 石 | 26.5 | 9.8 | 8.7 | 2430 | 安山岩 | 炉内 | Q 1 PL18 |

**第8号住居跡**（第16・17図）

**位置**　調査区の西部，B 2 i 7 区。

**規模と平面形**　長軸5.07m，短軸4.75mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－22°－W

**壁**　壁高は22～26cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。北東部に焼土塊，東部に炭化材小片が内側に向かってみられる。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径26～40cmの円形で，深さ65～85cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形で，深さは30cmであり，南壁に寄った位置で確認されている。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北東寄りに位置し，長径40cm，短径35cmの楕円形で，床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子中量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土中ブロック微量

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，長径93cm，短径68cmの不整楕円形で，深さは45cmである。

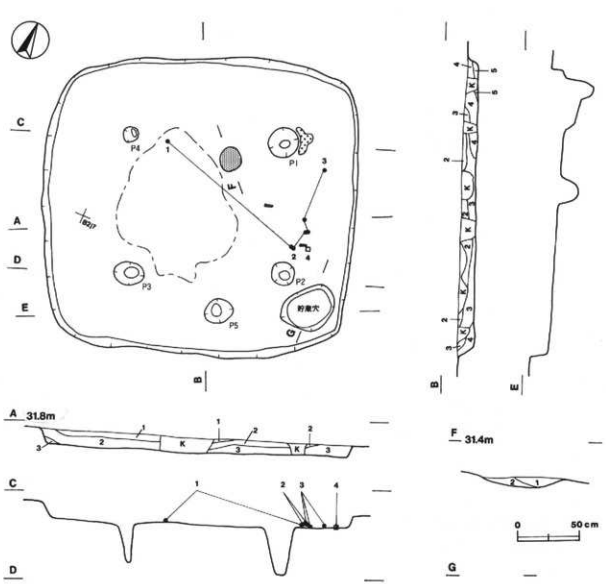
**貯蔵穴土層解説**
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒　色　ローム粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・粒子少量

**覆土**　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量

**遺物**　土師器片216点，石器1点（砥石），炭化材．流れ込んだ弥生土器片4点が出土している。第17図1の土師器の甕は，中央部と東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甕は，東部の覆土下層から出土している。3の土師器壺は，東部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。4の砥石は，東部の覆土下層から出土している。

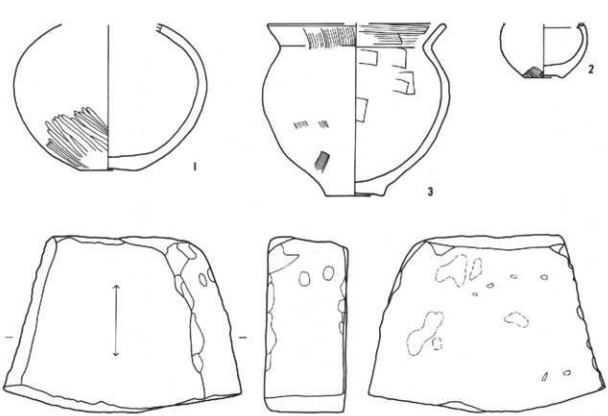
**所見**　床面に焼土塊や炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第16図　第８号住居跡実測図**

第８号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17図<br>1 | 坩<br>土師器 | B (11.8)<br>C 4.4 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面下位ヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P32 30%<br>東部覆土下層 |
| 2 | 坩<br>土師器 | B ( 4.4)<br>C 3.0 | 底部から体部にかけての破片。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面下位ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P33 35%<br>東部覆土下層 |
| 3 | 甕<br>土師器 | A [14.0]<br>B 13.9<br>C 4.6 | 体部・口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整後，ナデ。体部外面ハケ目調整後，ナデ。内面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P34 40%<br>PL17<br>東部覆土下層 |




**第17図　第８号住居跡出土遺物実測図**

| 図版番号 | 種　別 | 計測値 | | | | 石　質 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅 (cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第17図4 | 砥　石 | (14.2) | (19.0) | 6.5 | (2840) | 砂　岩 | 東部覆土下層 | Q６　PL18 |

**第９号住居跡**（第18・19図）

**位置**　調査区の西部，Ｂ２ｈ８区。

**規模と平面形**　長軸4.42m，短軸4.22m の方形である。

**主軸方向**　Ｎ－38°－Ｗ

**壁**　壁高は26～62cmで，外傾して立ち上がる。

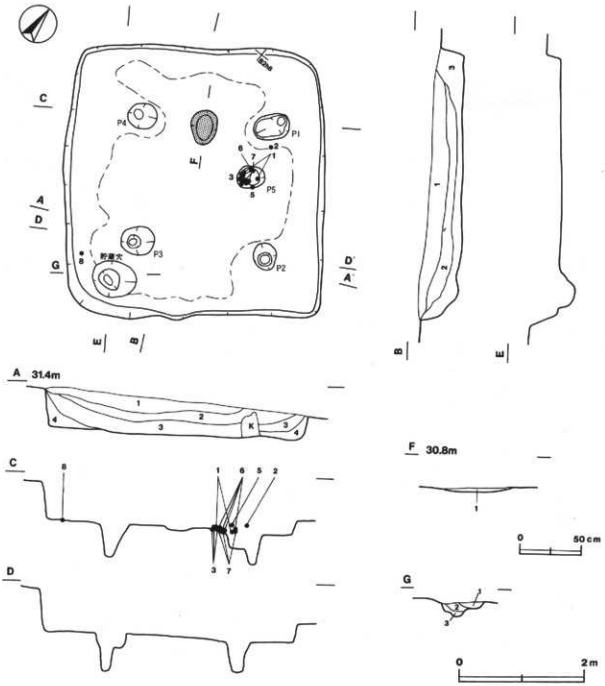
**床**　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

**ピット**　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１は長径58cm，短径40cmの楕円形で，深さ53cmである。Ｐ２～Ｐ４は径42～50cmの円形で，深さ50～63cmである。それぞれ各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。Ｐ１とＰ２の間に位置するＰ５は，径33cmの円形で，深さは30cmである。性格は不明である。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径55cm，短径40cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**

１　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量




**第18図　第９号住居跡実測図**

**貯蔵穴**　南コーナー部で確認され，長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さは30cmである。

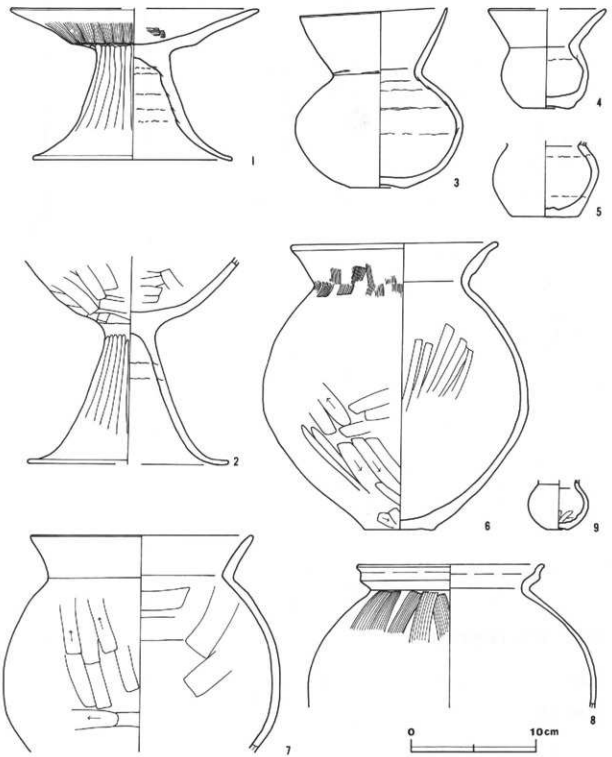
**貯蔵穴土層解説**

1　黒　　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

**覆土**　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量




第19図　第９号住居跡出土遺物実測図

**遺物**　土師器片480点，流れ込んだ縄文土器片６点が出土している。土師器片は，中央部の覆土中層から下層にかけて集中して出土している。第19図に示した上器はいずれも土師器である。１・２の高坏は，東部の覆土下層から逆位・横位の状態で出土している。３の坦は東部の床面から，４の坦は覆土中から出土している。５の甕は東部の覆土下層から正位の状態で，６・７の甕は，東部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。８の台付甕は，南コーナー部の床面から出土している。９のミニチュア土器壺は覆土中からの出土である。

**所見**　覆土中から出土している上器は，住居廃絶後に投棄されたと考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。

第９号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図 1 | 高坏 土師器 | A [19.8] B 11.2 D 16.0 | 脚部・坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ハケ目調整，内面ハケ目調整後，ナデ。脚部外面ヘラ削り。内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通 | P35 45% PL17 東部覆土下層 |
| 2 | 高坏 土師器 | B (16.7) D [16.0] | 脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。 | 坏部内・外面ヘラ削り。脚部外面ヘラ磨き，内面に輪積み痕。脚部内・外面横ナデ。 | 砂粒 橙色 普通 | P36 25% 東部覆土下層 |
| 3 | 坦 土師器 | A 11.9 B 14.5 C 4.5 | 口縁部・体部一部欠損。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は樋状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ちあがる。 | 口縁部，体部内・外面横ナデ。体部内面に輪積み痕。 | 砂粒・小礫 にぶい黄橙色 普通 | P37 90% PL17 東部床面 |
| 4 | 坦 土師器 | A (8.4) B 8.1 C 4.0 | 口縁部・体部一部欠損。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がり，頂部でくびれ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石 橙色 普通 | P38 60% PL17 覆土中 |
| 5 | 小形甕 土師器 | B (6.1) C 5.4 | 口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通 | P39 80% 東部覆土下層 |
| 6 | 甕 土師器 | A 17.2 B 23.2 C 5.5 | 口縁部・体部一部欠損。やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部ハケ目調整。体部外面下位・内面ヘラ削り。 | 砂粒・長石・小礫 にぶい黄橙色 普通 | P40 90% PL18 東部床面 |
| 7 | 甕 土師器 | A 17.8 B (17.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通 | P41 45% PL18 東部床面 |
| 8 | 台付甕 土師器 | A 14.8 B (11.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はS字状で端部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通 | P42 10% PL18 南コーナー部床面 |
| 9 | ミニチュア壺 土師器 | B (3.9) C 1.9 | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ナデ，内面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通 | P43 40% PL18 覆土中 |

**第10号住居跡**（第20・21図）

**位置**　調査区の中央部，Ｂ２h0 区。

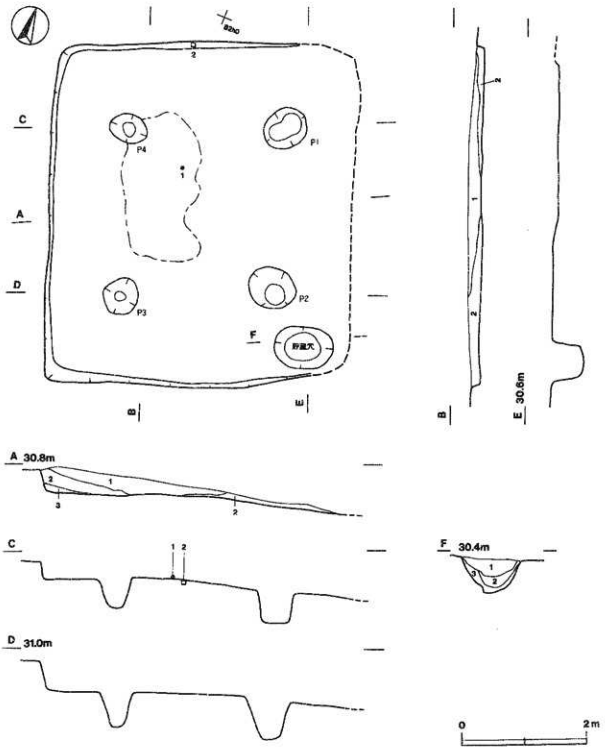
**規模と平面形**　長軸5.60m，短軸［4.94］ｍの長方形と推定される。

**長軸方向**　Ｎ－20°－Ｗ

**壁**　北東壁は，削平のため確認できなかった。壁高は10～50cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部西側が踏み固められている。

**ピット**　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ４は径50～70cmの円形で，深さは48～69cmである。それぞれ各コーナー




**第20図　第10号住居跡実測図**

に寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，長径96cm，短径67cmの楕円形で，深さは50cmである。

**貯蔵穴土層解説**

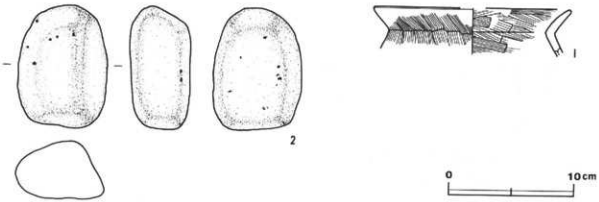
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量

**遺物**　土師器片27点，石器1点（磨石）が出土している。第21図1の土師器甕は，中央部付近の床面から出土している。2の磨石は，北壁際の床面から出土している。

**所見**　本跡では炉を確認できなかった。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第21図　第10号住居跡出土遺物実測図**

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図 1 | 甕 土師器 | A［15.6］ B（3.8） | 口縁部片。頂部はくの字状にくびれ，口縁部は外頃する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通 | P44　5% 中央部付近床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第21図 2 | 磨石 | 9.9 | 7.1 | 4.7 | 543.0 | 安山岩 | 北壁際床面 | Q7　PL18 |

**第12号住居跡**（第22図）

**位置**　調査区の北央部，A3e1区。

**重複関係**　第7号集石遺構の南東部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸3.20m，短軸2.62mの長方形である。

**長軸方向**　N－74°－E

**壁**　壁高は19cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

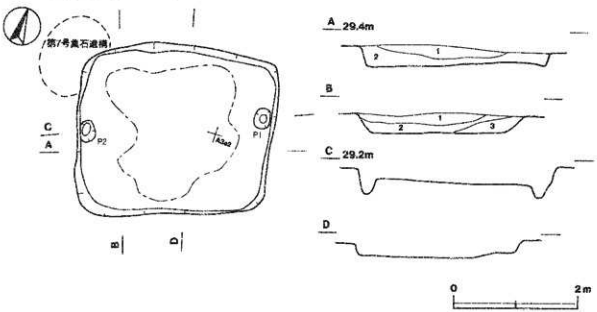
**ピット**　2か所（P1・P2）。P1・P2は径30cm前後の円形で，深さは22cm前後である。それぞれ東壁・西壁際中央に位置している。規模と配置から，主柱穴と考えられる。

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

**遺物**　土師器片63点，流れ込んだ縄文土器片10点が出土している。

**所見**　本跡では炉を確認できなかった。遺物が細片で図示できないため時期は限定できないが，出土土器から判断して古墳時代と考えられる。




**第22図　第12号住居跡実測図**

**第13号住居跡**（第23～26図）

**位置**　調査区の中央部，A 3 j4 区。

**規模と平面形**　長軸6.34m，短軸6.10m の方形である。

**主軸方向**　N－33°－W

**壁**　壁高は28～46cmで，外傾して立ち上がる。

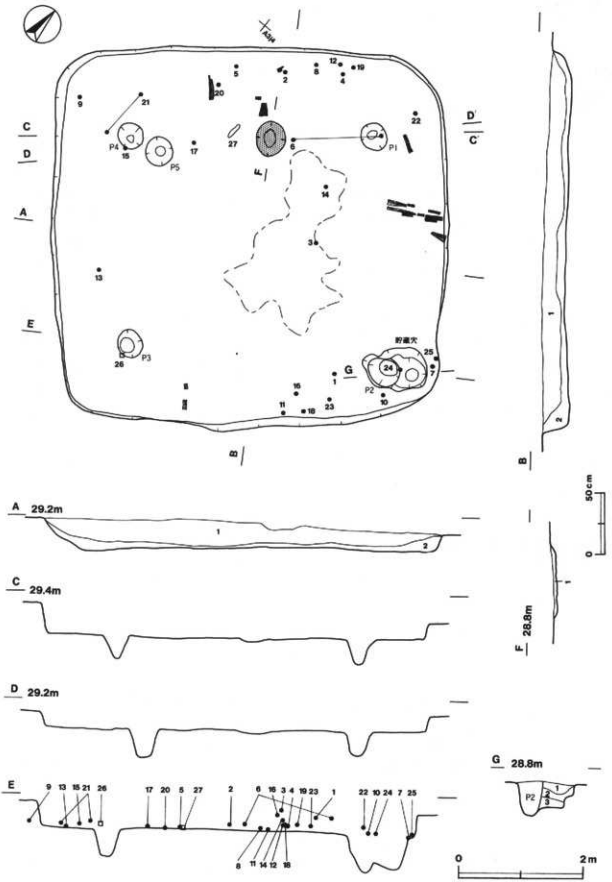
**床**　ほぼ平坦で，中央部分がよく踏み固められている。北部と東部の床面から炭化材小片が内側に向かって傾斜した状態で出土している。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4 は径40～45cmの円形で，深さ47～116cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。P4 の中央寄りに位置する P5 は径40cmの円形で，深さ94cmであり，補助柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径55cm，短径45cmの楕円形で，床面を 4 cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。炉石が，炉の西側から出土し，上面が火熱を受け一部に煤が付着している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，径78cm前後の円形で，深さは40cmである。




第23図　第13号住居跡出土遺物実測図

**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

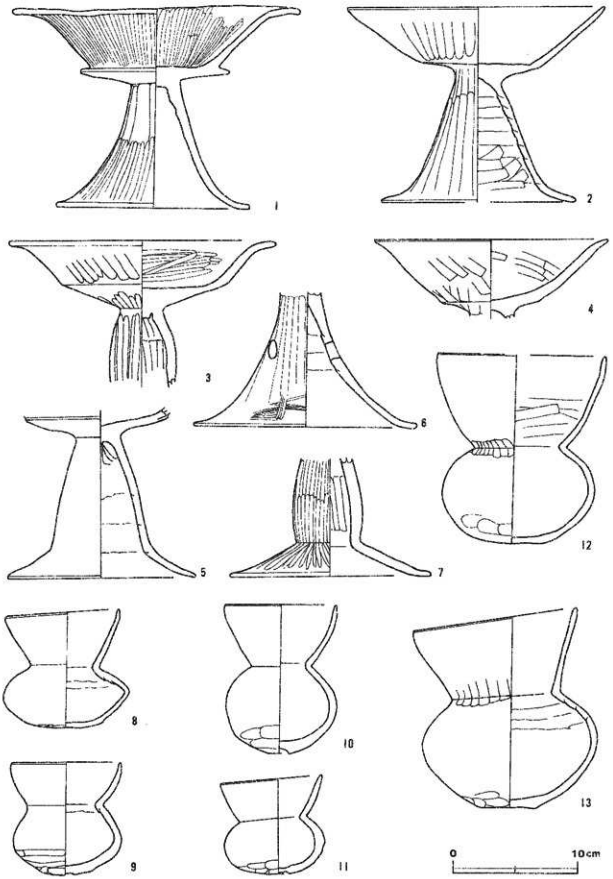
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，炭化粒子微量

**遺物**　土師器片1168点，石器2点（磨石・炉石），流れ込んだ縄文土器片100点が出土している。上師器片は，東部と北部に集中して出土している。第24～26図に示した土器はいずれも土師器である。1の高坏は東部の覆土中層から逆位の状態で，2の高坏は北西壁際の覆土下層から斜位の状態で出土している。3の高坏は中央部の覆土上層から，4・6の高坏は北部の覆土下層から，5の高坏は北西壁際の床面から，7の高坏は東コーナー部の床面から出土している。8・12の坩は，北壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。9の坩は西コーナー部の床面から正位の状態で，10の坩は東コーナー部の床面から横位の状態で，11の坩は南東壁際の床面から横位の状態で出土している。13の坩は南西部の床面から，14の坩は中央部付近の覆土中層から出土している。15の坩は西部の覆土下層から，16の坩は南東壁際の覆土上層から，18の坩は南東壁際の覆土下層から，17の坩は西部の床面から出土している。19の壺は北壁際の覆土下層から，20の甕は北西部の床面から，21の甕は西部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で，22の甕は北コーナー部の覆土下層から出土している。23の甕は南東壁際の覆土下層から正位の状態で，24の甕は貯蔵穴の覆土上層から正位の状態で出土している。25の甑は，東コーナー部の床面から斜位の状態で出土している。26の炉石は，南コーナー部の覆土下層から出土している。27の炉石は，炉の西側から出土している。

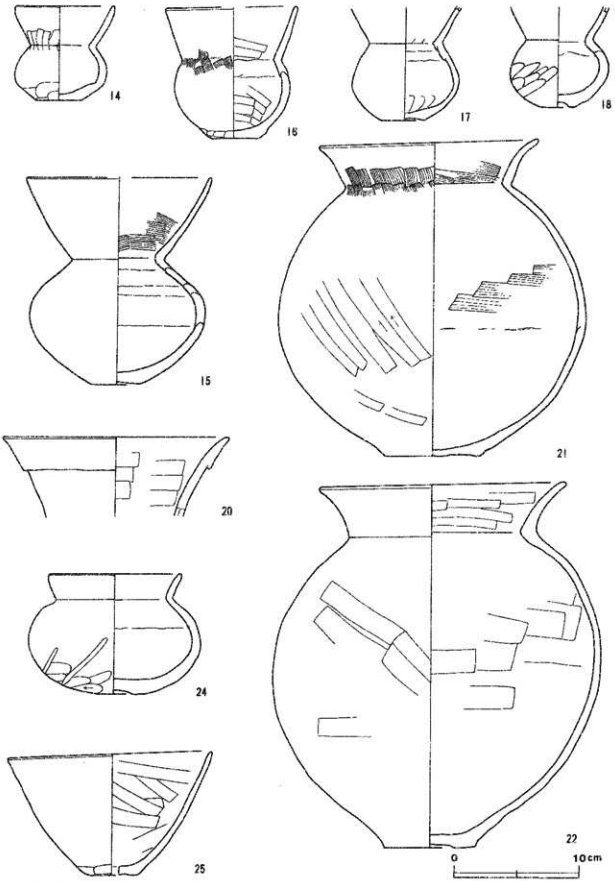
**所見**　床面から炭化材が出土していることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表

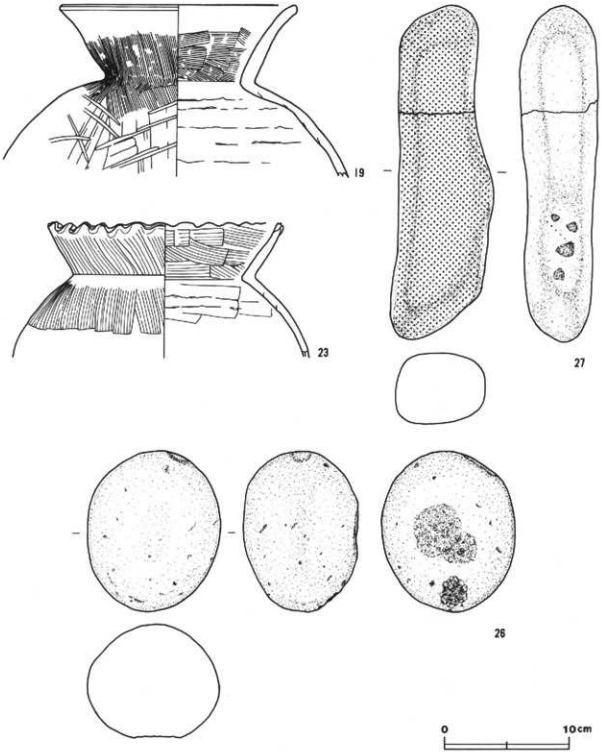
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>1 | 高坏<br>土師器 | A 23.0<br>B 16.3<br>D 15.4 | 裾部・坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。坏部外面下位に突帯をもつ。 | 口縁部から坏部内・外面ヘラ磨き。脚部上位ヘラ削り，中位から下位ヘラ磨き，内面横ナデ。 | 砂粒・長石・白色粒子<br>明赤褐色<br>普通 | P47　95%<br>PL18<br>東部覆土中層 |
| 2 | 高坏<br>土師器 | A 20.6<br>B 15.7<br>D [15.5] | 脚部・口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がる。坏部外面下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。脚部内・外面ヘラ削り。坏部内面剥離，調整不明。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>明赤褐色<br>普通 | P48　75%<br>PL18<br>北西壁際覆土下層 |
| 3 | 高坏<br>土師器 | A 21.4<br>B (12.0) | 裾部欠損。脚部はエンタシス状を呈する。坏部は内弾して立ち上がり，口縁部は外反する。坏部外面下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>明黄褐色<br>普通 | P49　70%<br>PL19<br>中央部覆土上層 |
| 4 | 高坏<br>土師器 | A 18.8<br>B (6.4) | 坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ，坏部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>明黄褐色<br>普通 | P188　40%<br>PL19<br>北部覆土下層 |
| 5 | 高坏<br>土師器 | B (13.6)<br>D 15.2 | 脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾する。 | 坏部内面剥離，調整不明。脚部外面横ナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P189　56%<br>PL18<br>北西壁際床面 |
| 6 | 高坏<br>土師器 | B (10.8)<br>D 17.8 | 脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。 | 脚部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き。裾部内面ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P190　35%<br>PL19<br>北部覆土下層 |




第24図　第13号住居跡出土遺物実測図(1)




第25図　第13号住居跡出土遺物実測図(2)




**第26図　第13号住居跡出土遺物実測図(3)**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>7 | 高　坏<br>土師器 | B ( 9.5)<br>D 16.0 | 坏部欠損。脚部はエンタシス状を呈する。裾部は水平に大きく開く。 | 脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P50　40%<br>東コーナー部床面 |
| 8 | 坩<br>土師器 | A 8.0<br>B 9.7<br>C 3.1 | 完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラ削り。体部外面ナデ，下位ヘラ削り。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P51　100%<br>PL19<br>北壁際覆土下層 |

| 図版番号 | 器 種 | 計測値(cm) | 器 形 の 特 徴 | 手 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>9 | 坦<br>土 坩 器 | A 8.7<br>B 9.1<br>C 2.0 | 完形。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は内弯気味に立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石・石英<br>明赤褐色<br>普通 | P52 100%<br>PL19<br>西コーナー部床面 |
| 10 | 坦<br>土 鉢 器 | A 8.9<br>B 12.0<br>C 1.8 | 口縁部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P53 95%<br>PL19<br>東コーナー部床面 |
| 11 | 坦<br>土 鉢 器 | A 8.1<br>B 7.8 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・長石・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P54 95%<br>PL19<br>南東壁際床面 |
| 12 | 坦<br>土 鉢 器 | A [13.4]<br>B 15.2 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は内弯気味に大きく開く。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラ削り。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P55 80%<br>PL19<br>北壁際覆土下層 |
| 13 | 坦<br>土 鉢 器 | A 13.4<br>B 16.0<br>C 4.5 | 体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>明褐色<br>普通 | P56 75%<br>PL19<br>南西部床面 |
| 第25図<br>14 | 坦<br>土 鉢 器 | A 7.8<br>B 7.6<br>C 3.6 | 体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部，体部外面下位へラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P57 65%<br>PL19<br>中央付近覆土中層 |
| 15 | 坦<br>土 鉢 器 | A [14.6]<br>B 16.6<br>C 3.8 | 口縁部・体部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面横ナデ，内面ハケ目調整。体部内・外面ナデ。内面中位・上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P131 50%<br>PL19<br>西部覆土下層 |
| 16 | 坦<br>土 鉢 器 | A [10.7]<br>B 16.7<br>C 3.8 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。体部外面上位ハケ目調整，下位へラ削り。内面ヘラナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P192 60%<br>南東壁際覆土上層 |
| 17 | 坦<br>土 鉢 器 | B ( 9.3)<br>C 3.3 | 口縁部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P193 60%<br>西部床面 |
| 18 | 坦<br>土 鉢 器 | B ( 8.0)<br>C 2.0 | 口縁部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P194 60%<br>南東壁際覆土下層 |
| 第26図<br>19 | 壺<br>土 壺 器 | A 19.2<br>B (13.8) | 体部中位から欠損。体部は内弯して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はやや外反する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部下位へラ削り後，ヘラ磨き。内面横ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>赤褐色<br>普通 | P60 30%<br>PL19<br>北壁際覆土下層 |
| 第25図<br>20 | 壺<br>土 鉢 器 | A 18.0<br>B ( 6.4) | 口縁部の破片。口縁部は折り返しと思われる複合口縁。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石・石英<br>橙色<br>普通 | P195 20%<br>PL20<br>北西部床面 |
| 21 | 壺<br>土 鉢 器 | A 17.3<br>B 25.5<br>C 7.7 | 体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾し，端部は外反する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面へラ削り，内面ハケ目調整。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・石英<br>橙色<br>普通 | P58 80%<br>PL20<br>西部覆土下層 |
| 22 | 壺<br>土 鉢 器 | A 19.4<br>B 29.4<br>C 7.4 | 体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P59 75%<br>PL20<br>北コーナー部覆土下層 |
| 第26図<br>23 | 壺<br>土 鉢 器 | A 19.0<br>B (10.8) | 体部上位から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾して立ち上がる。端部は跳状を呈する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面上位ハケ目調整，内面ヘラ削り。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P61 25%<br>PL18<br>南東壁際覆土下層 |
| 第25図<br>24 | 壺<br>土 鉢 器 | A 10.4<br>B 9.7<br>C 3.0 | 口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り，内面ナデ。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P62 95%<br>PL20<br>貯蔵穴覆土上層 |
| 25 | 甕<br>土 鉢 器 | A 16.3<br>B 10.0<br>C 4.0 | 口縁部一部欠損。早礼式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位，内面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P63 85%<br>PL20<br>東コーナー部床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第26図26 | 磨石 | 18.0 | 10.7 | 9.3 | 1780 | 安山岩 | 南コーナー部土下層 | Q10 Pl.26 |
| 27 | 炉石 | 26.9 | 8.0 | 6.4 | 2000 | 安山岩 | 炉の西側付近 | Q9 |

**第14号住居跡**（第27・28図）

**位置**　調査区の中央部，B 2 b0 区。

**規模と平面形**　長軸5.38m，短軸5.17m の方形である。

**長軸方向**　N－18°－W

**壁**　壁高は22～34cmで，外傾して立ち上がる。

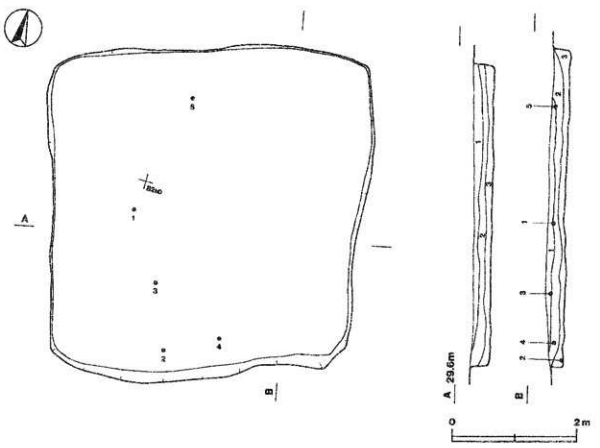
**床**　ほぼ平坦である。

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

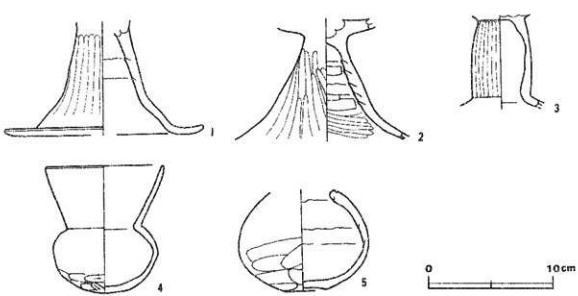
土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量

**遺物**　土師器片180点，流れ込んだ縄文土器片56点が出土している。第28図に示した土器はいずれも土師器である。1・3の高坏は中央部付近の覆土上層から，2の高坏は南壁際の床面から出土している。4の坩は南壁際の覆土中層から斜位の状態で，5の坩は北部の覆土上層から出土している。

**所見**　本跡では炉や柱穴を確認できなかった。時期は，出土土器から判断して中期（5世紀前半）と考えられる。




第27図　第14号住居跡実測図




**第28図　第14号住居跡出土遺物実測図**

第14号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第28図 1 | 高坏 土師器 | B（9.2） D（16.0） | 脚部から裾部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。 | 脚部外面ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通 | P64 20% 中央部付近覆土上層 |
| 2 | 高坏 土師器 | B（9.9） | 脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。 | 脚部外面ヘラ磨き。脚部内面上位ヘラナデ，下位ヘラ磨き。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・白色粒子 明赤褐色 普通 | P65 35% 南壁際床面 |
| 3 | 高坏 土師器 | B（7.6） | 脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈する。 | 脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒・長石 橙色 普通 | P65 10% 中央部付近覆土上層 |
| 4 | 坩 土師器 | A 9.4 B 10.3 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒 にぶい褐色 普通 | P67 98% PL20 南壁際覆土中層 |
| 5 | 坩 土師器 | B（8.2） C 3.2 | 口縁部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面中位から下位にかけてヘラ削り，内面ナデ。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P68 60% 北部覆土上層 |

**第15号住居跡（第29図）**

**位置**　調査区の中央部，A 3 j 6 区。

**規模と平面形**　北部から東部にかけて削平されている。長軸［3.90］m，短軸［3.44］m の長方形と推定される。

**主軸方向**　N－8°－W

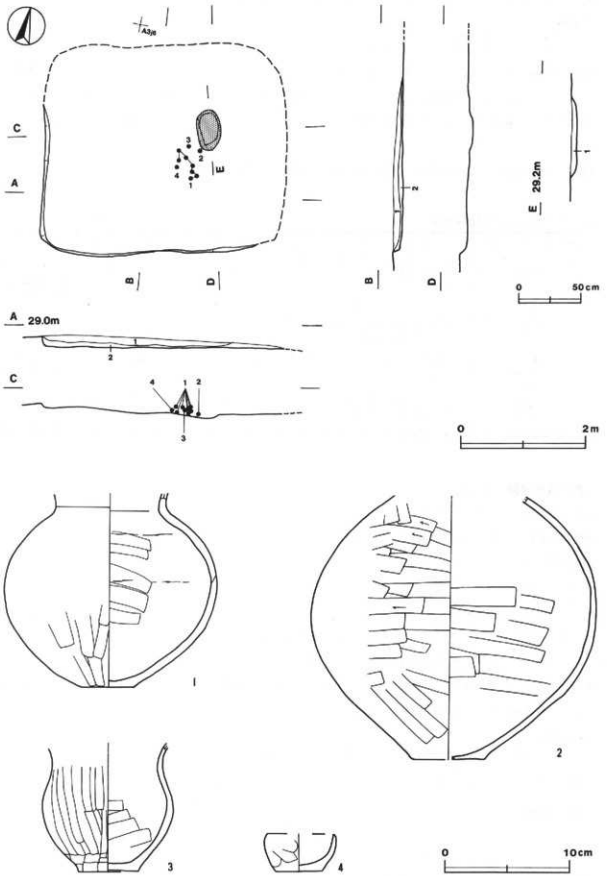
**壁**　壁高は8～10cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦である。

**炉**　中央部からやや東寄りに位置し，長径63cm，短径40cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量




第29図　第15号住居跡・出土遺物実測図

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片106点，流れ込んだ縄文土器片18点が出土している。第29図に示した土器はいずれも土師器である。1の壺は，中央部の床面から圧潰でつぶれた状態で出土している。2の壺は中央部の覆土下層から，3の甕は中央部の覆土中層から正位の状態で出土している。4の手捏土器は，中央部の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して中期（5世紀）と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図<br>1 | 壺<br>土師器 | B (15.6)<br>C　4.1 | 底部から頸部にかけての破片。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部内・外面ヘラ削り。体部内面中位・上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石によい橙色<br>普通 | P70　70%<br>PL20<br>体部外面煤付着<br>中央部床面 |
| 2 | 壺<br>土師器 | B (21.3)<br>C [ 6.3] | 底部から体部にかけての破片。やや突出した平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石によい橙色<br>普通 | P69　65%<br>PL20<br>中央部覆土下層 |
| 3 | 甕<br>土師器 | B (10.4)<br>C　4.8 | 口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P71　65%<br>中央部覆土中層 |
| 4 | 手捏土器<br>土師器 | A [ 5.4]<br>B　3.1<br>C　3.7 | 口縁部一部欠損。歪形。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 内・外面とも指頭によるナデ。 | 砂粒・雲母・長石によい黄橙色<br>普通 | P72　90%<br>PL21<br>中央部覆土下層 |

**第17号住居跡（第30図）**

**位置**　調査区の中央部，B 3 h3 区。

**規模と平面形**　長軸6.81m，短軸6.58m の方形である。

**主軸方向**　N－0°

**壁**　壁高は10～28cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

**ピット**　4か所（P1～P4）。P1～P4は径60cm前後の円形で，深さ66～72cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

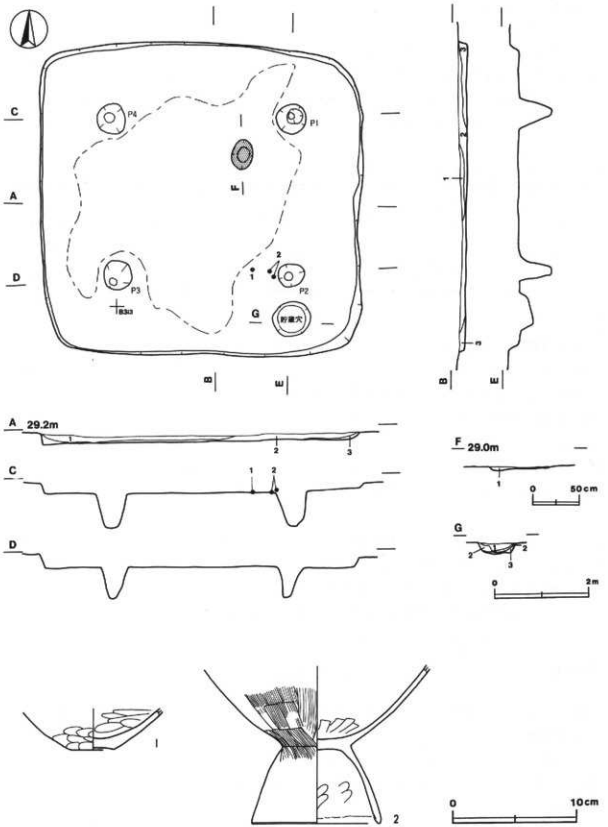
**炉**　中央部からやや北東寄りに位置し，長径63cm，短径45cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**
1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認された。径73cmの円形で，深さは21cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　黒　　色　ローム中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。




第30図　第17号住居跡・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　　色　ローム小ブロック・粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量

**遺物**　土師器片102点，流れ込んだ縄文土器片５点，弥生土器片１点が出土している。第30図１は土師器甕の底部であるが，周辺部が使用により摩耗しており皿に転用されたものと考えられる。南東部の床面から出土している。２の上師器台付甕は，南東部の床面から横位の状態で出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図 1 | 甕 土師器 | B（3.3） C　3.4 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通 | P77　5% 南東部床面 |
| 2 | 台付甕 土師器 | B（12.8） D　10.2 | 脚台部から体部にかけての破片。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。 | 体部外面下位斜位のハケ目調整，内面ヘラナデ，脚台部内面ナデ，外面斜位のハケ目調整。 | 砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通 | P78　20% PL21 南東部床面 |

## 第18号住居跡（第31～33図）

**位置**　調査区の中央部，Ｂ３ｃ３区。

**重複関係**　本跡が，第19号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸6.33m，短軸6.22m の方形である。

**主軸方向**　Ｎ－35°－Ｗ

**壁**　壁高は25～42cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。西部・北部の床面から炭化材小片が内側に向かって出土している。

**ピット**　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は径40～50cmの円形で，深さ50～67cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南東壁寄りに位置するＰ５は径28cmの円形で，深さ20cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径56cm，短径47cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

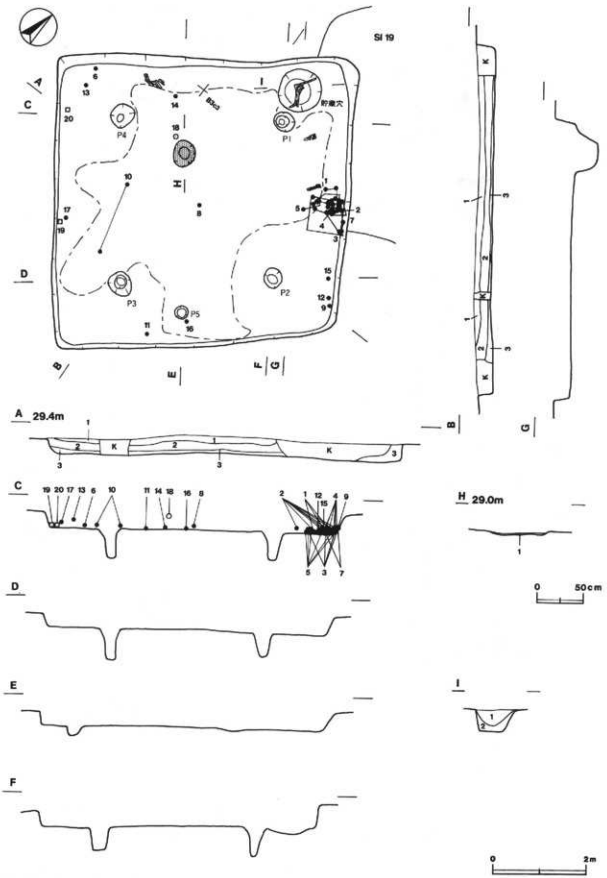
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化材微量

**貯蔵穴**　北東コーナー部で確認され，径90cmの円形で，深さは47cmである。底面から炭化材が出土している。

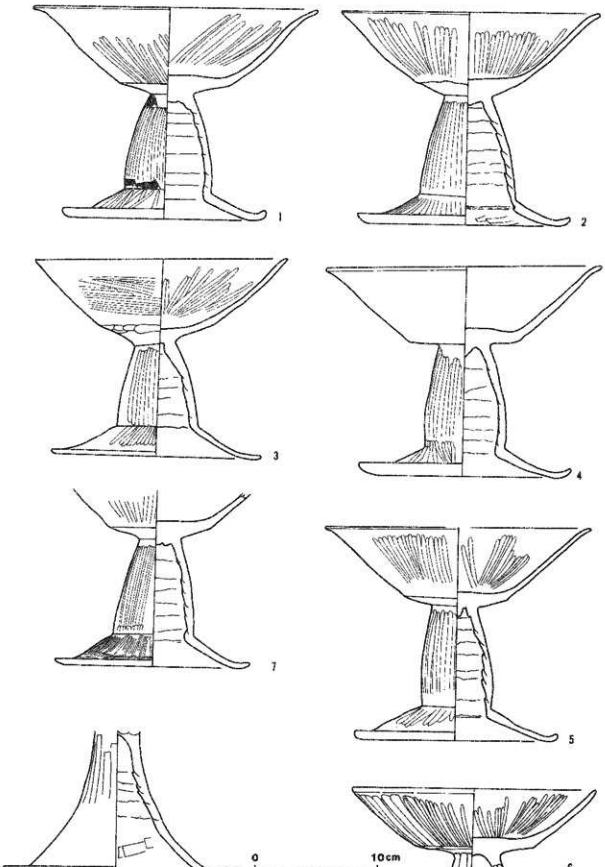
貯蔵穴土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・炭化材微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・炭化材少量

**覆土**　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

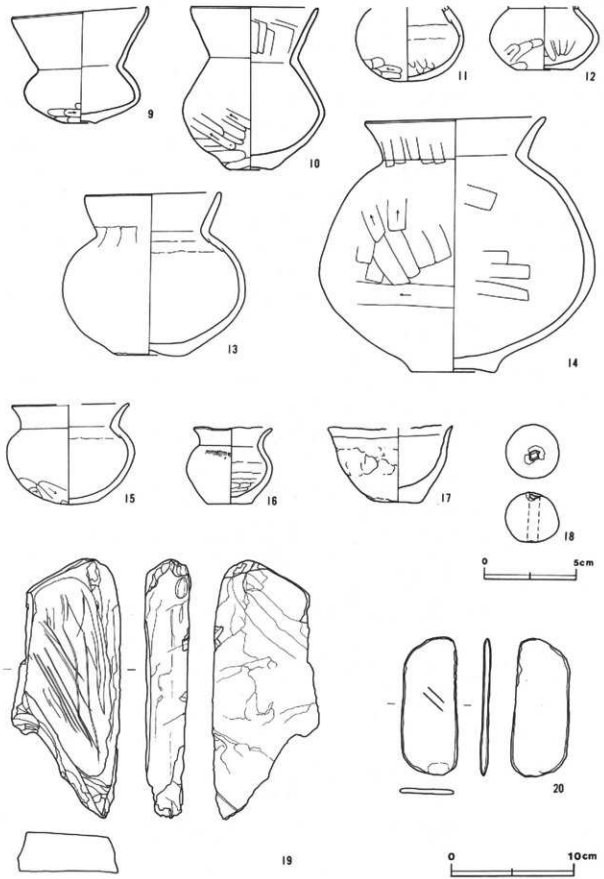
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量




第31図　第18号住居跡実測図




第32図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)




第33図　第18号住居跡出土遺物実測図(2)

**遺物**　土師器片581点，土製品１点（球状土錘），石器２点（砥石・穂摘具），炭化材，流れ込んだ縄文土器片23点が出土している。土師器片は，西部から東部にかけての覆土下層から集中して出土している。第32・33図に示した土器はいずれも土師器である。１～３の高坏は北東壁際の床面から横位の状態で，４・５・７の高坏は北東壁際の床面から出土している。６の高坏は西コーナー部の覆土下層から横位の状態で，８の高坏は中央部の覆土下層から正位の状態で出土している。９の坩は東コーナー部の床面から正位の状態で，10の坩は西部の覆土下層から出土している。11の坩は南東壁際の床面から逆位の状態で，12の坩は，東コーナー部の床面から正位の状態で出土している。13の壺は，西コーナー部の覆土中層から斜位の状態で出土している。14の甕は，北西部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。15の小形甕は，東コーナー部の覆土下層から正位の状態で出土している。16のミニチュア土器甕は，南東部の床面から正位の状態で出土している。17の手捏土器は，南西壁際の覆土下層から出土している。18の球状土錘は，中央部付近の覆土上層から出土している。19の砥石は南西壁際の床面から，20の穂摘具は西コーナー部の床面から出土している。

**所見**　床面から炭化材が出土していることから，焼失家屋と考えられる。北東壁際から出土した高坏は，人為的に重ねられており，何らかの祭祀行為が行われた可能性が考えられる。時期は，出土土器から判断して中期（５世紀前半）と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図<br>1 | 高坏<br>土師器 | A 22.7<br>B 17.0<br>D 16.4 | 坏部一部破損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。坏部下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。裾部外面ヘラ磨き，内面ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子に富む赤褐色<br>普通 | P80　80%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 2 | 高坏<br>土師器 | A 20.8<br>B 17.1<br>D 17.2 | 裾部・坏部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P81　85%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 3 | 高坏<br>土師器 | A 20.2<br>B 16.2<br>D 17.0 | 脚部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。坏部外面下位ヘラ削り。脚部外面ヘラ磨き。内面ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P82　80%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 4 | 高坏<br>土師器 | A 22.5<br>B 17.2<br>D 17.2 | 坏部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。坏部下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。内面ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P83　70%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 5 | 高坏<br>土師器 | A [21.2]<br>B 17.2<br>D 16.4 | 裾部・坏部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。坏部下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き。内面横ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P84　60%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 6 | 高坏<br>土師器 | A 19.6<br>B ( 6.7) | 坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P196　45%<br>PL21<br>西コーナー部覆上下層 |
| 7 | 高坏<br>土師器 | B (19.1)<br>D 15.6 | 裾部・坏部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり，下位に稜をもつ。 | 坏部外面ヘラ磨き，内面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。内面ナデ。脚部内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい褐色<br>普通 | P85　55%<br>PL21<br>北東壁際床面 |
| 8 | 高坏<br>土師器 | B (11.7)<br>D 18.1 | 脚部の破片。脚部はラッパ状に下方に開く。 | 脚部内・外面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部内面輪積み痕。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P197　40%<br>中央部覆上下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図<br>9 | 壺<br>土師器 | A 11.0<br>B 9.5<br>C 2.4 | 口縁部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P86 90%<br>PL21<br>東コーナー部床面 |
| 10 | 壺<br>土師器 | A 10.2<br>B 13.2<br>C 3.4 | 体部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は内弾して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P87 70%<br>PL21<br>西部覆土下層 |
| 11 | 壺<br>土師器 | B ( 6.0) | 口縁部欠損。丸底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄色<br>普通 | P198 50%<br>南東壁際床面 |
| 12 | 壺<br>土師器 | B ( 5.1)<br>C 4.4 | 口縁部欠損。平底。体部は内弾して立ち上がり，中位に最大径をもつ。 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | P199 50%<br>東コーナー部床面 |
| 13 | 壺<br>土師器 | A 11.0<br>B 13.2<br>C 5.7 | 口縁部一部欠損。平底。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部ヘラナデ。体部外面ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P88 80%<br>PL21<br>西コーナー部覆土中層 |
| 14 | 甕<br>土師器 | A 14.2<br>B 20.5<br>C 6.8 | 体部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈し，下位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい褐色<br>普通 | P89 80%<br>PL22<br>北西部床面 |
| 15 | 小形甕<br>土師器 | A ( 9.6)<br>B 8.1 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・小礫<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P90 80%<br>PL22<br>東コーナー部覆土下層 |
| 16 | ミニチュア土師器 | A 6.4<br>B 6.2<br>C 3.6 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目調整後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P91 95%<br>PL22<br>南東部床面 |
| 17 | 手捏土師器<br>土師器 | A (10.1)<br>B 6.2<br>C 4.1 | 鉢状。口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部，体部内・外面指頭によるナデ。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P200 70%<br>PL22<br>南西壁際覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径 (cm) | 長さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第33図18 | 球状土錘 | 2.9 | 2.7 | 0.6 | 18.6 | 中央部与近覆土上層 | DP2 PL22 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅 (cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第33図19 | 砥石 | (20.7) | ( 8.2) | 3.3 | (900.0) | 粘板岩 | 南西壁際床面 | Q11 PL22 |
| 20 | 敲磨具 | 11.1 | 4.6 | 0.6 | 53.0 | 粘板岩 | 西コーナー部床面 | Q12 PL22 |

### 第19号住居跡（第34・35図）

**位置**　調査区の中央部，B 3 b4 区。

**重複関係**　南西部を第18号住居に掘り込まれている。

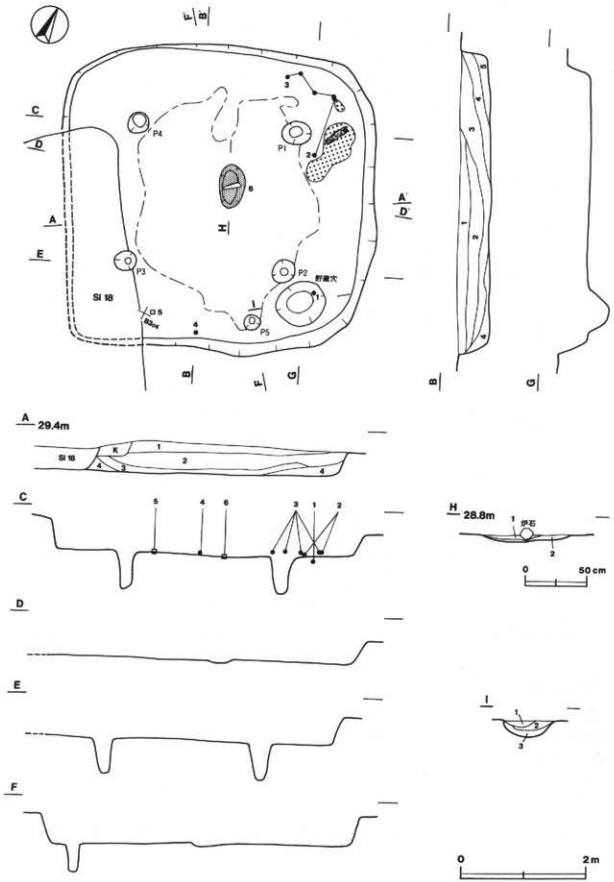
**規模と平面形**　長軸5.06m，短軸4.87m の隅丸方形である。

**主軸方向**　N－18°－W

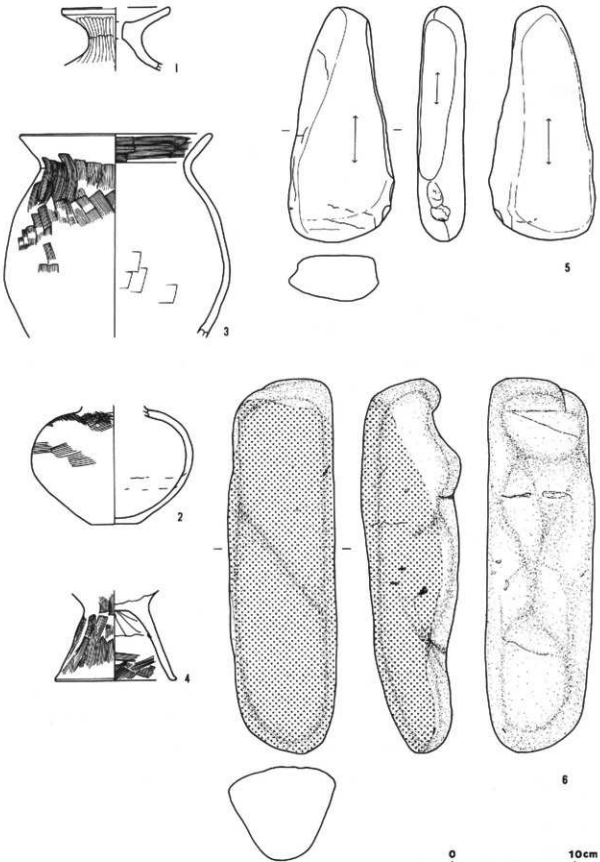
**壁**　壁高は36～50cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，炉の周辺がよく踏み固められている。北東部に焼土塊と比較的大きめの炭化材が内側に向かってみられる。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径35cm前後の円形で，深さ60cm前後であり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁寄りに位置するP5は径25cmの円




第34図　第19号住居跡実測図




第35図　第19号住居跡出土遺物実測図

形で，深さ43cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部に位置し，長径70cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。炉石が，炉の長軸に直交するように炉床の中央に据えられ，上面の一部に煤が付着している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，長径83cm，短径70cmの楕円形で，深さは32cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量

**覆土**　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量
3　黒　　色　ローム小ブロック・粒子微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片165点，石器2点（砥石・炉石），炭化材，流れ込んだ縄文土器片24点が出土している。第35図に示した土器はすべて土師器である。1の器台は，貯蔵穴内から正位の状態で，2の坩は北東コーナー部の床面から出土している。3の甕は北壁際の覆土下層から土圧でつぶれた状態で，4の台付甕は南壁際の床面から出土している。5の砥石は，南部の床面から出土している。6は炉石で，出土状況は上記のとおりである。

**所見**　床面に焼土塊や炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図 1 | 器台 上師器 | A（8.6） B（5.1） | 脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開き，器受部は皿状を呈する。器受部底部中央に暴孔がある。 | 器受部外面ヘラ磨き，内面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P92 45% PL22 貯蔵穴内 |
| 2 | 坩 土師器 | B（9.5） C 3.8 | 口縁部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面ハケ目調整後，ナデ。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通 | P93 70% 北東コーナー部床面 |
| 3 | 甕 上師器 | A 15.2 B（16.4） | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。甕部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ハケ目調整。体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P94 50% PL22 北壁際覆土下層 |
| 4 | 台付甕 土師器 | B（7.3） D 9.8 | 脚台部片。脚台部はハの字状に開く。 | 脚台部内・外面ハケ目調整。脚台部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石にぶい褐色 普通 | P95 20% 南壁際床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図 5 | 砥石 | 18.8 | 8.5 | 3.8 | 845.0 | 砂岩 | 南部の床面 | Q14 PL22 |
| 6 | 炉石 | 30.2 | 8.0 | 8.8 | 2600 | 安山岩 | 炉内 | Q13 PL22 |

**第20号住居跡**（第36・37図）

**位置**　調査区の中央部，B 3 c 6 区。

**規模と平面形**　長軸4.73m，短軸4.70m の方形である。

**主軸方向**　N－26°－W

**壁**　壁高は47～59cmで，外傾して立ち上がる。

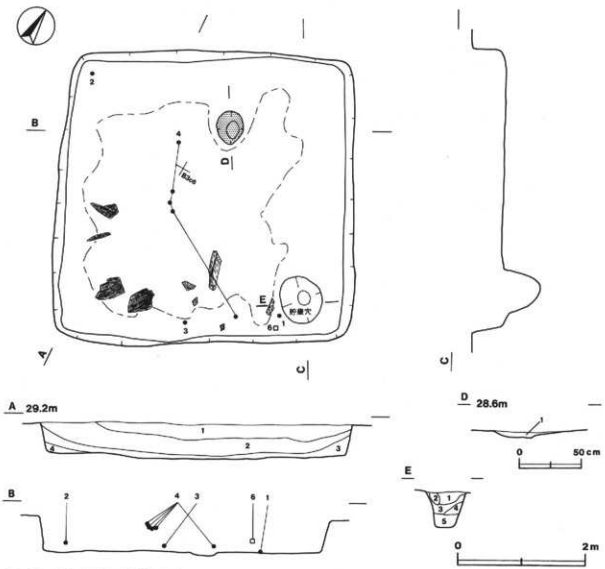
**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。南部の床面から比較的大きめの炭化材が内側に向かって出土している。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，長径53cm，短径42cmの楕円形で，床面を 4 cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材少量，焼土粒子微量

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，径70cmの円形で，深さは55cmである。




**第36図　第20号住居跡実測図**

**貯蔵穴土層解説**

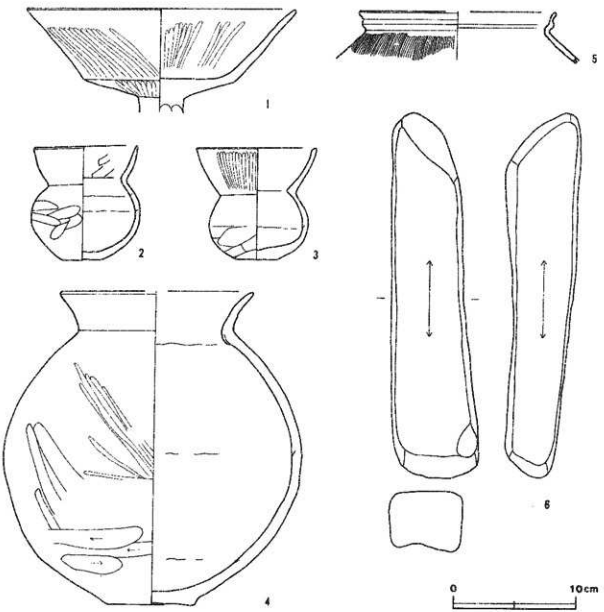
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　白色粘土小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量

**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　土師器片366点，石器1点（砥石），炭化材，流れ込んだ縄文土器片32点が出土している。第37図に示した土器はいずれも土師器である。1の高坏は，東コーナー部の床面から逆位の状態で出土している。2の坩は西コーナー部の覆土下層から，3の坩は南東壁際の覆土下層から，ともに横位の状態で出土している。4の甕




**第37図　第20号住居跡出土遺物実測図**

は，中央部の覆土中層と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。5の台付甕は覆土中から出土している。6の砥石は，東壁際の覆土下層から出土している。

**所見**　床面から炭化材が出土していることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第37図 1 | 高坏 土師器 | A 21.4<br>B (8.3) | 脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P96 45%<br>PL22<br>東コーナー部床面 |
| 2 | 壺 土師器 | A 8.4<br>B 9.2<br>C 3.4 | 口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P97 95%<br>PL22<br>西コーナー部覆土下層 |
| 3 | 壺 土師器 | A 9.6<br>B 9.1<br>C (3.2) | 口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。 | 口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。体部内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・長石・赤色粒子<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P98 95%<br>PL22<br>南東壁際覆土下層 |
| 4 | 甕 土師器 | A (15.6)<br>B 25.3<br>C 7.0 | 口縁部・体部一部欠損。やや突出した平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位にかけてヘラ磨き。下位ヘラ削り，内面ナデ。体部内面に輪積み痕。 | 砂粒・長石<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P99 40%<br>PL23<br>中央部覆土中層 |
| 5 | 台付甕 土師器 | A (15.8)<br>B (4.1) | 口縁部の破片。口縁部はS字状で，外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・長石<br>灰黄褐色<br>普通 | P100 5%<br>覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第37図 6 | 砥石 | 29.3 | 7.3 | 4.8 | 1670 | 砂岩 | 東壁際覆土下層 | Q15 PL23 |

## 第21号住居跡（第38・39図）

**位置**　調査区の中央部，B3e6区。

**規模と平面形**　長軸5.45m，短軸5.42mの方形である。

**主軸方向**　N－22°－W

**壁**　壁高は36～52cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

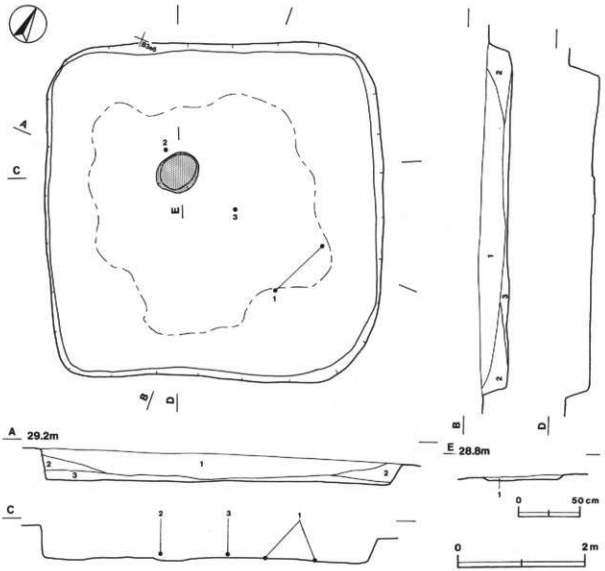
**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径70cm，短径60cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片833点，石器1点（磨石），流れ込んだ縄文土器片64点が出土している。土師器片は，覆土中層から下層にかけて多く出土している。第39図1の土師器坏は，東部の床面から出土している。2・3の土師器



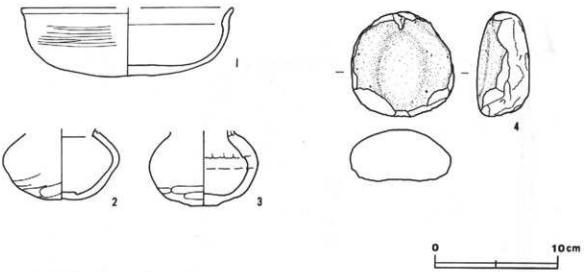

**第38図　第21号住居跡実測図**

坩は，中央部の覆土下層から横位・正位の状態で，それぞれ出土している。4の磨石は，覆土中から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して中期（5世紀中葉）と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第39図 1 | 坏 土師器 | A［17.0］ B 5.5 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面剥離，調整不明。 | 砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通 | P101 45% 東部床面 |
| 2 | 坩 土師器 | B（5.7） | 口縁部欠損。丸底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面下位ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通 | P102 70% 中央部覆土下層 |
| 3 | 坩 土師器 | B（6.0） C 2.2 | 口縁部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。 | 体部外面下位ヘラ削り。内面中位に輪積み痕。 | 砂粒・長石・雲母橙色 普通 | P103 70% 中央部覆土下層 |




**第39図　第21号住居跡出土遺物実測図**

| 図版番号 | 種　別 | 計測値 長さ(cm) | 幅 (cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石　質 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第39図4 | 磨　石 | (8.4) | (8.3) | (4.2) | (395.0) | 砂　岩 | 覆土中 | Q16　PL23 |

**第22号住居跡**（第40・41図）

**位置**　調査区の北東部，A 3 g5 区。

**規模と平面形**　長軸7.05m，短軸6.84m の隅丸方形である。

**主軸方向**　N－8°－W

**壁**　壁高は18～30cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　北壁の下を除いて巡っている。上幅12～20cm，下幅５～10cm，深さ６～10cmで，断面形はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

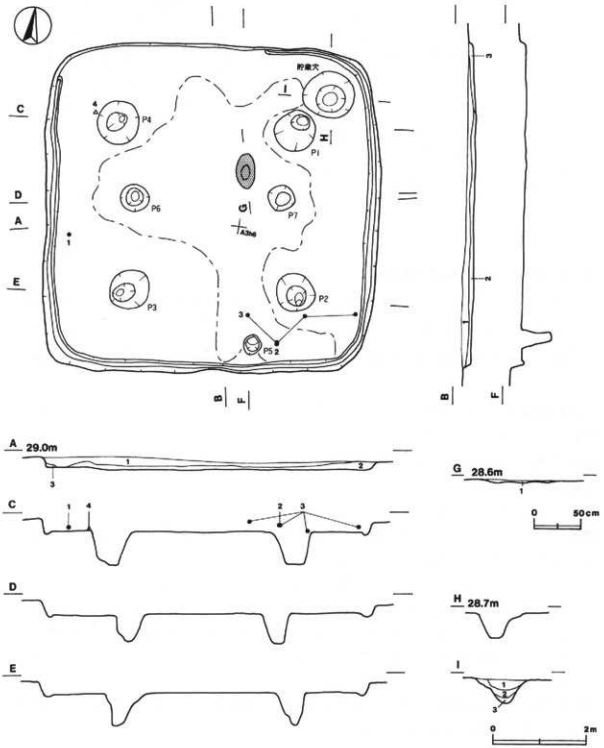
**ピット**　７か所（P1～P7）。P1～P4は径80～90cmの円形で，深さ62～70cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。P6・P7は径55cm前後の円形で，深さは53～65cmである。P6はP3とP4の，P7はP1とP2の中間にあり，位置的にいずれも補助柱穴の可能性がある。P5は径35cmの円形で，深さ63cmである。南壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北東寄りに位置し，長径73cm，短径41cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**
1　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

**貯蔵穴**　北東コーナー部で確認され，径100cmの円形で，深さは50cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量




**第40図　第22号住居跡実測図**

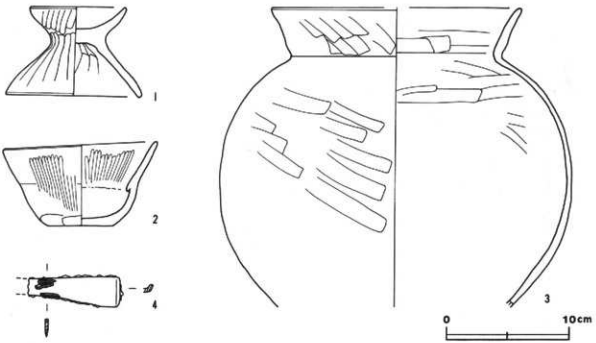
**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

**遺物**　土師器片426点，鉄製品１点（鎌），流れ込んだ縄文土器片190点が出土している。土師器片は，覆土中層から下層にかけて多量に出土している。第41図１の土師器器台は，西壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。２の土師器坩，３の土師器甕は，南東部の覆土中層から，それぞれ出土している。４の鎌は，北東部の床面から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（４世紀後半）と考えられる。




**第41図　第22号住居跡出土遺物実測図**

第22号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第41図 1 | 器台 土師器 | A 7.8<br>B 7.3<br>D 11.0 | 口縁部一部欠損。脚部はハの字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。 | 口縁部外面ヘラ削り，内面ナデ。体部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色<br>普通 | P104 98%<br>PL23<br>西壁際覆土下層 |
| 2 | 坩 土師器 | A 12.5<br>B 6.8<br>C 5.2 | 体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り。 | 砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色<br>普通 | P105 75%<br>PL23<br>南東部覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | A (20.0)<br>B (24.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母にぶい黄橙色<br>普通 | P106 30%<br>PL23<br>南東部覆土中層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第41図4 | 鎌 | (7.8) | 2.6 | 0.3 | (16.0) | 北東部床面 | M2 |

**第24号住居跡**（第42・43図）

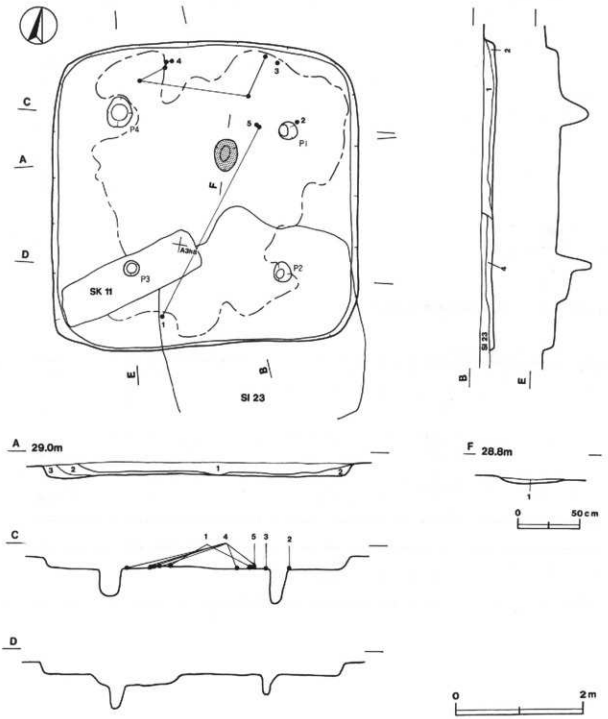
**位置**　調査区の北東部，Ａ３ｇ８区。

**重複関係**　南東部を第23号住居に，南西部を第11号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸4.96m，短軸4.90m の方形である。

**主軸方向**　Ｎ－７°－Ｗ

**壁**　壁高は16～20cmで，外傾して立ち上がる。




**第42図　第24号住居跡実測図**

**床**　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。

**ピット**　4か所（P1～P4）。P1～P4は径25～45cmの円形で，深さ35～65cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，長径52cm，短径36cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**

1　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

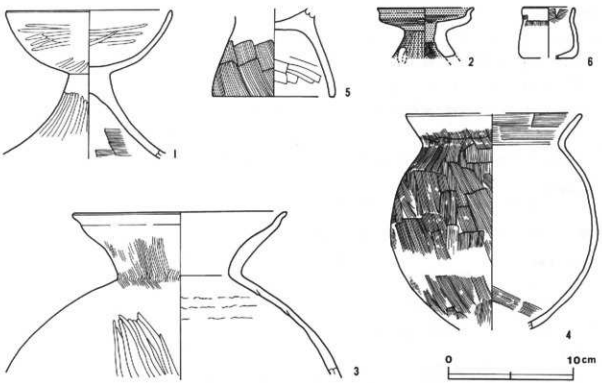
**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量

**遺物**　土師器片116点，流れ込んだ縄文土器片25点が出土している。第43図に示した土器はいずれも土師器である。1の高坏は，南壁際の床面と北東部の床面から出土した破片が接合したものである。2の器台は北東部の床面から出土している。3の壺は北壁際の床面から斜位の状態で，4の甕は北壁際の床面から出土している。5の台付甕は，北東部の床面から出土している。6のミニチュア土器甕は，覆土中から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第43図　第24号住居跡出土遺物実測図**

第24号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図<br>1 | 高坏<br>土師器 | A 13.3<br>B (11.9) | 脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き。内面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・長石・白色粒子<br>橙色<br>普通 | P110　45%<br>PL23<br>南壁際床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図 2 | 器台 上師器 | A 7.7<br>B (4.0) | 脚部一部欠損。脚部は小さな角度で開き，中位に3孔が穿けられている。器受部は堆状に廻く。口縁部は直立し，器受部底部中央に単孔がある。 | 器受部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整。器受部内・外面，脚部外面赤彩。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色<br>普通 | P112 60%<br>PL23<br>北東部床面 |
| 3 | 壺 土師器 | A 17.2<br>B (13.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面ハケ目調整，内面ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色<br>普通 | P114 30%<br>PL23<br>北壁際床面 |
| 4 | 甕 土師器 | A [14.2]<br>B (17.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状にくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面・内面下位ハケ目調整。 | 砂粒<br>褐色<br>普通 | P113 60%<br>PL23<br>北壁際床面 |
| 5 | 台付甕 上師器 | B (7.1)<br>D 9.8 | 脚台部の破片。脚台部はハの字状に開く。 | 脚台部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石にぶい橙色<br>普通 | P111 30%<br>北東部床面 |
| 6 | ミニチュア甕 土師器 | A 4.0<br>B 4.1<br>C 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部内・外面指頭によるナデ。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P115 40%<br>PL23<br>覆土中 |

## 第25号住居跡（第44図）

**位置**　調査区の中央部，B 3 g5 区。

**規模と平面形**　長軸5.78m，短軸5.67m の方形である。

**主軸方向**　N－8°－E

**壁**　壁高は12～36cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。北西部に粘土塊がみられる。

**ピット**　4か所（P1～P4）。P1～P4は径55cm前後の円形で，深さ55～65cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや東寄りに位置し，長径55cm，短径38cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，径112cmの円形で，深さ54cmである。

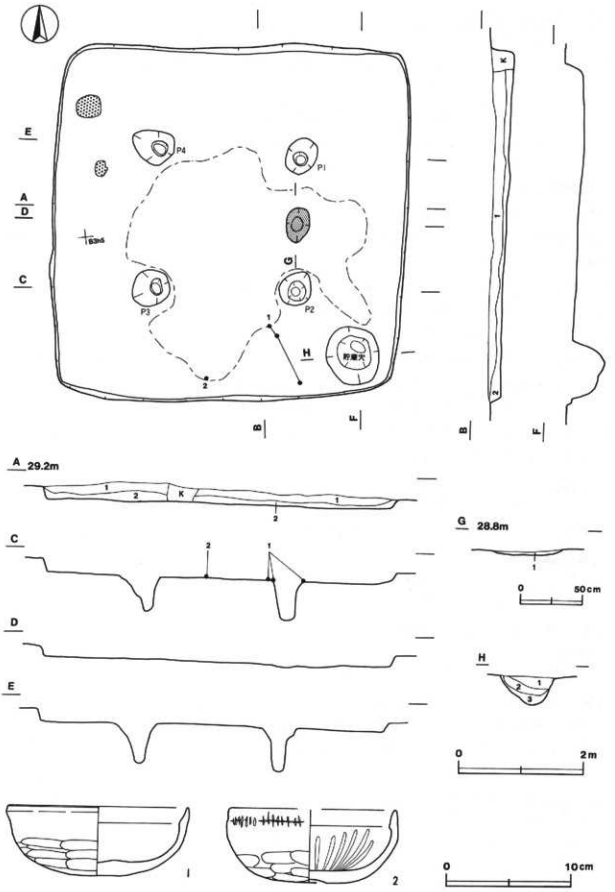
**貯蔵穴土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　土師器片605点，流れ込んだ縄文土器片13点，弥生土器片3点が出土している。土師器片は，東部と南部の覆土中層から下層にかけて多量に出土している。第44図1・2の土師器坏は，南部の床面から，それぞれ出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して中期（5世紀中葉）と考えられる。




第44図　第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第44図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 14.4<br>B 5.6 | 口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P116 80%<br>PL24<br>南部床面 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A [13.4]<br>B 5.9<br>C 2.5 | 口縁部・体部一部欠損。底部中央に指圧はどのくぼみがある。体部は内彎してよち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面横ナデ後，キザミ，内面横ナデ。体部外面ヘラ磨り，内面粗いヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P117 55%<br>PL24<br>南部床面 |

## 第26号住居跡（第45・46図）

**位置**　調査区の中央部，B 2 e 9 区。

**規模と平面形**　一辺［5.92］m の方形と推定される。

**主軸方向**　N－24°－W

**壁**　東壁は削平されており，残存しない。壁高は3～23cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から西部にかけてよく踏み固められている。

**ピット**　7か所（P1～P7）。P1～P4は径33～46cmの円形で，深さ37～59cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁寄りに位置するP5は径40cmの円形で，深さ20cmである。位置的に出入り口に伴う施設と考えられる。P3・P4の内側に位置するP6・P7は径60cmと45cmの円形で，深さは48cmと79cmである。補助柱穴の可能性もある。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，径46cmの円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

**貯蔵穴**　南コーナー部で確認され，径76cmの円形で，深さ37cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・粒子少量

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

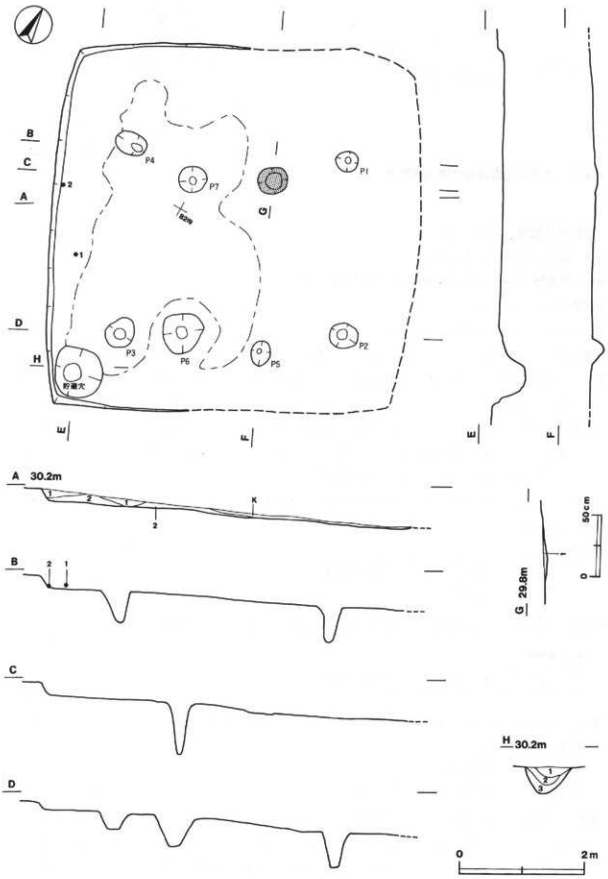
**土層解説**
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

**遺物**　土師器片73点，流れ込んだ縄文土器片1点が出土している。第46図1の土師器高坏は，西部の覆土下層から逆位の状態で出土している。2の土師器高坏は，西壁際の床面から出土している。

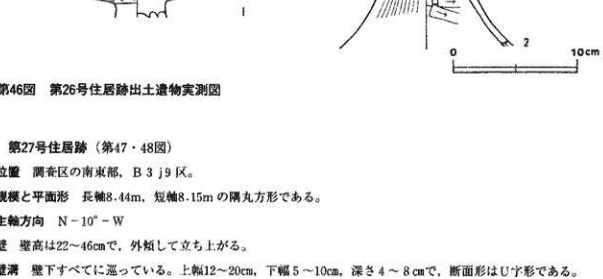
**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して中期（5世紀）と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第46図<br>1 | 高坏<br>土師器 | A 21.2<br>B（7.4） | 脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P118 50%<br>PL24<br>西部覆土下層 |
| 2 | 高坏<br>土師器 | B（9.9） | 脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。 | 脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。 | 砂粒・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P119 30%<br>西壁際床面 |




第45図　第26号住居跡実測図




**第46図　第26号住居跡出土遺物実測図**

**第27号住居跡**（第47・48図）

**位置**　調査区の南東部，B３j９区。

**規模と平面形**　長軸8.44m，短軸8.15mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－10°－W

**壁**　壁高は22～46cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　壁下すべてに巡っている。上幅12～20cm，下幅５～10cm，深さ４～８cmで，断面形はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。南西コーナー部に粘土の高まりや焼土塊がみられる。

**ピット**　５か所（P１～P５）。P１～P４は径55cm前後の円形で，深さ55～65cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP５は径28cmの円形で，深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，径60cmの円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐色　ローム粒子中量

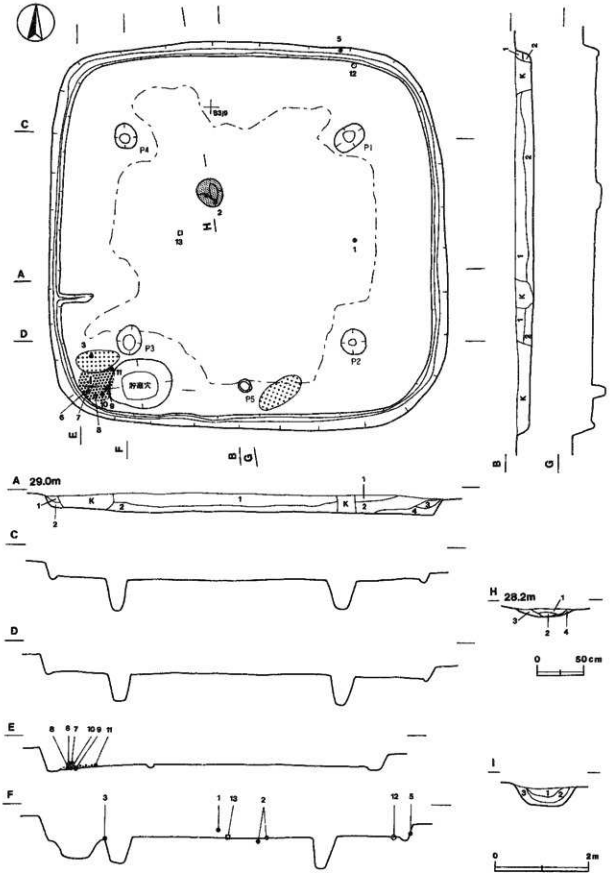
**貯蔵穴**　南西コーナー部で確認され，長径132cm，短径102cmの楕円形で，深さは36cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　黒褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量

**覆土**　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

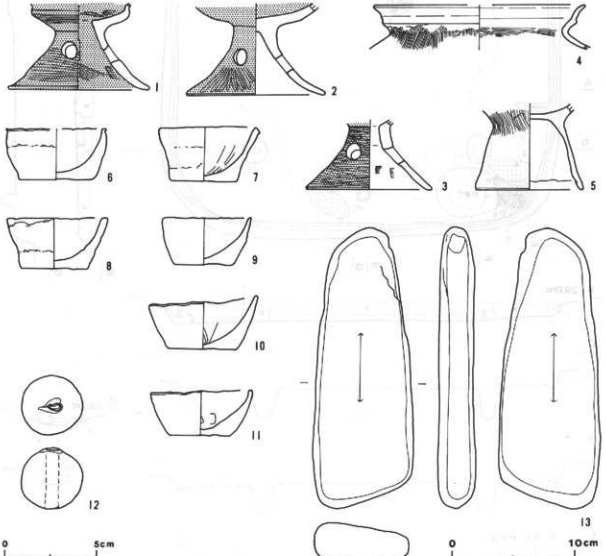
**遺物**　土師器片571点，土製品１点（球状土錘），石器１点（砥石），流れ込んだ縄文土器片42点，弥生土器片42点が出土している。覆土下層から床面にかけて多量の土師器片が出土している。第48図に示した土器はいずれも土師器である。１の器台は，東部の覆土下層から出土した破片と貯蔵穴の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の器台は，炉内から出土している。３の器台は，南西部の床面から正位の状態で出土している。４の台付甕は，覆土中から出土している。５の台付甕は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。




第47図　第27号住居跡実測図

6～11は手捏土器である。6～10は，南西コーナー部に位置する粘土の高まりの上に東西方向に等間隔にあり，原位置を保っているものとみられる。6・10は正位の状態で，7・9は横位の状態で，8は逆位の状態で出土している。11は南西部の床面から出土している。12の球状土錘は，北東コーナー部の床面から出土している。13の砥石は，中央部床面から出土している。

**所見**　南西コーナー部の粘土の高まりの上から手捏土器が出土し，その前面に火を焚いた跡とみられる焼土が確認されていることから，何らかの祭祀行為が行われた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第48図　第27号住居跡出土遺物実測図**

第27号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図<br>1 | 器台<br>土師器 | B（6.9）<br>D 11.3 | 口縁部・脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開き中位に3孔が空けられている。器受部は皿状を呈し，口縁部はほぼ直立し，器受部中央に単孔がある。 | 口縁部内・外面横ナデ。器受部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>に富い橙色<br>普通 | P120　70%<br>PL24<br>東部覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図2 | 器台 土師器 | B (7.4)<br>D 11.0 | 器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，中位に3孔が空けられている。坏部は椀状を呈する。 | 器受部内・外面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。内面横ナデ。器受部内・外面，脚部外面赤彩。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P121 50%<br>PL24<br>炉内 |
| 3 | 器台 土師器 | B (5.6)<br>D 10.0 | 器受部欠損。脚部はラッパ状に開き，中位に3孔が空けられている。器受部中央に單孔がある。 | 脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整後，横ナデ。脚部外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P122 70%<br>PL24<br>南西部床面 |
| 4 | 台付甕 土師器 | A [17.2]<br>B (3.6) | 口縁部の破片。口縁部はS字状で，外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面上位ハケ目調整。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P123 5%<br>覆土中 |
| 5 | 台付甕 土師器 | B (7.0)<br>D 8.5 | 脚台部片。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。 | 脚台部外面ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P124 10%<br>北東コーナー部<br>覆土下層 |
| 6 | 手捏土器 土師器 | A [8.0]<br>B 4.2<br>C 5.7 | 鉢形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい褐色<br>普通 | P127 85%<br>PL24<br>南西コーナー部 |
| 7 | 手捏土器 土師器 | A 7.8<br>B 4.4<br>C 5.4 | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P129 85%<br>PL24<br>南西コーナー部 |
| 8 | 手捏土器 土師器 | A 8.0<br>B 4.2<br>C 5.4 | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P130 75%<br>PL24<br>南西コーナー部 |
| 9 | 手捏土器 土師器 | A 7.2<br>B 3.9<br>C 4.6 | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>にぶい褐色<br>普通 | P126 90%<br>PL24<br>南西コーナー部 |
| 10 | 手捏土器 土師器 | A 8.8<br>B 4.4<br>C 5.6 | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P128 90%<br>PL24<br>南西コーナー部 |
| 11 | 手捏土器 土師器 | A 8.2<br>B 3.8<br>C 4.8 | 鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面とも指頭による粗いナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P125 80%<br>PL24<br>南西部床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 長さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第48図12 | 球状土錘 | 3.3 | 3.3 | 0.7 | 33.8 | 北東コーナー部床面 | DP3 PL24 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第48図13 | 砥石 | 22.5 | 8.2 | 3.1 | 920.0 | 砂岩 | 中央部床面 | Q18 PL24 |

### 第28号住居跡（第49図）

**位置**　調査区の中央部，A3i3区。

**重複関係**　北部を第2号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸5.07m，短軸4.94mの方形である。

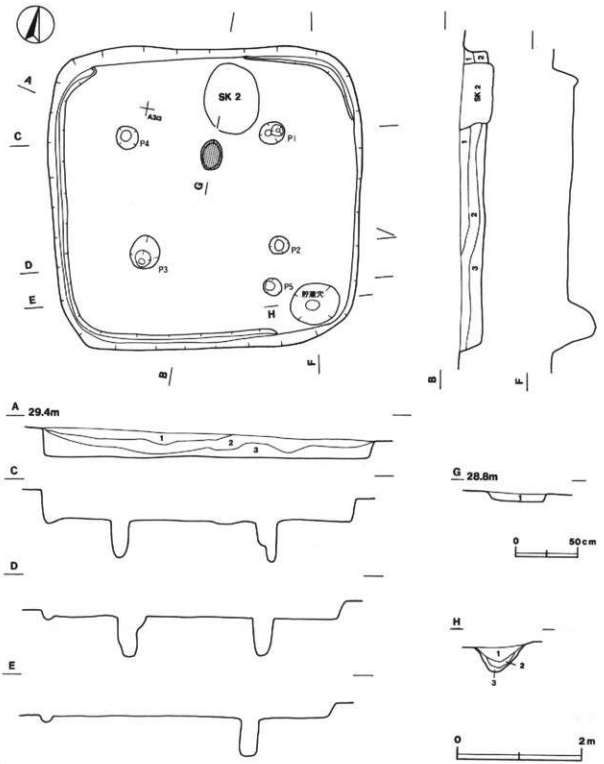
**主軸方向**　N－6°－W

**壁**　壁高は23～56cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　北東コーナー部の壁下と南壁から北西コーナーにかけての壁下で確認された。上幅11～18cm，下幅4～8cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形である。

**床**　ほぼ平坦である。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径30～53cm前後の円形で，深さ59～61cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁寄りに位置するP5は径31cmの




**第49図　第28号住居跡実測図**

円形で，深さ60cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，長径46cm，短径35cmの楕円形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

**炉土層解説**

1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，長径80cm，短径67cmの楕円形で，深さは44cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

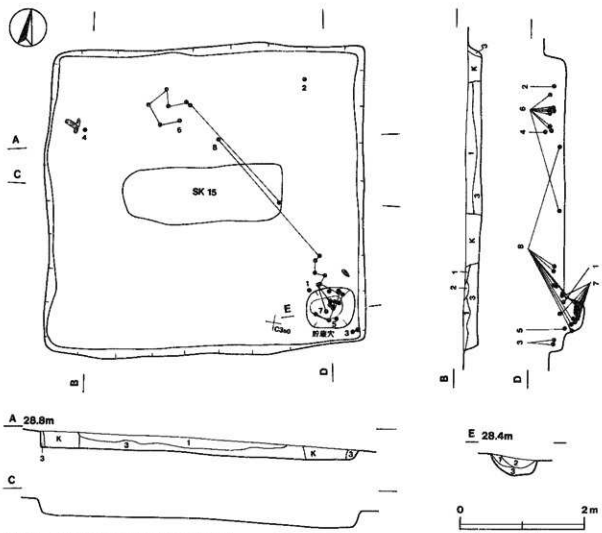
**土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

**遺物**　土師器片102点，流れ込んだ縄文土器片90点が出土している。

**所見**　遺物が細片で図示できないため時期は限定できないが，遺構の形態や土師器の様相から判断して前期～中期と考えられる。

## 第30号住居跡（第50・51図）

**位置**　調査区の南東部，C 3 d9 区。




第50図　第30号住居跡出土遺物実測図

**重複関係**　中央部を第15号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸5.12m，短軸4.94mの方形である。

**長軸方向**　N－12°－W

**壁**　壁高は23～35cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦である。北西部と南東部の床面から炭化材小片が内側に向かって出土している。

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，長軸75cm，短軸65cmの隅丸長方形で，深さは33cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量
2　灰　白　色　粘土粒子多量，粘土中ブロック・小ブロック中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

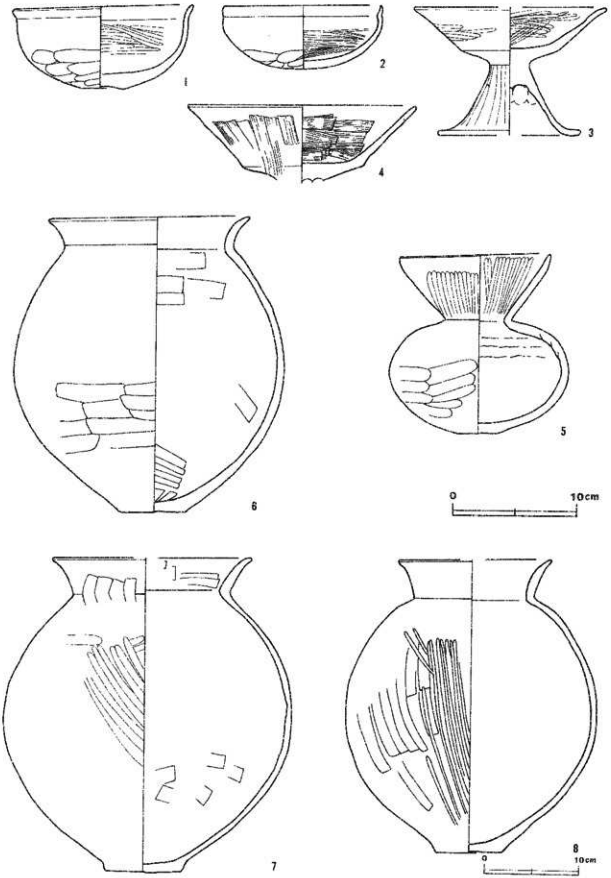
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量

**遺物**　土師器片262点，流れ込んだ縄文土器片7点が出土している。第51図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は南東部の床面から，2の坏は北東部の覆土中層から，それぞれ逆位の状態で出土している。3の高坏は南東コーナー部の覆土中層から，4の高坏は西部の覆土層から出土している。5の坩は，南東部の床面から横位の状態で出土している。6の甕は，北部の覆土中層から出土している。7・8の甕は，ともに貯蔵穴の覆土中層から土圧でつぶれた状態でともに出土している。

**所見**　炉やピットは確認できなかった。床面から炭化材が出土しており，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して中期（5世紀中葉）と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第51図 1 | 坏 土師器 | A 14.7<br>B 6.8<br>C 3.5 | 口縁部一部欠損。底部に指頭ほどのくぼみがある。体部は内弾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通 | P131 98%<br>PL25<br>南東部床面 |
| 2 | 坏 土師器 | A 12.6<br>B 5.1 | 体部一部欠損。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通 | P132 95%<br>PL25<br>北東部覆土中層 |
| 3 | 高坏 土師器 | A [15.4]<br>B 10.3<br>D [10.9] | 脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラナデ，内面に指頭圧痕。 | 砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通 | P133 40%<br>PL25<br>南東コーナー部覆土中層 |
| 4 | 高坏 土師器 | A 18.4<br>B ( 6.3) | 坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ハケ目調整後，ナデ。 | 砂粒・赤色粒子 橙色 普通 | P134 40%<br>PL25<br>西部覆土上層 |
| 5 | 坩 土師器 | A 12.0<br>B 14.5<br>C 3.2 | 口縁部一部欠損。底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通 | P135 95%<br>PL25<br>南東部床面 |
| 6 | 甕 土師器 | A 16.2<br>B 23.8<br>C 5.3 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弾して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒 にぶい黄橙色 普通 | P136 50%<br>PL25<br>北部覆土中層 |
| 7 | 甕 土師器 | A [20.7]<br>B 33.3<br>C 7.8 | 口縁部・体部一部欠損。突出した平底。体部は内弾して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内面ヘラナデ。頸部ヘラ削り。体部外面上位ヘラナデ・中位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通 | P137 65%<br>PL25<br>貯蔵穴内 |



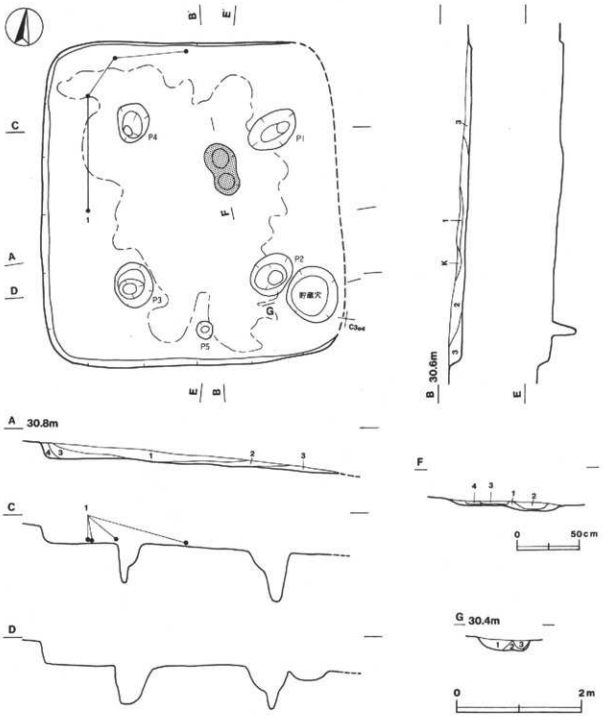

第51図　第30号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第51図<br>8 | 甕<br>土師器 | A [16.1]<br>B 30.9<br>C 6.8 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色<br>普通 | P138 60%<br>PL25<br>貯蔵穴内 |

**第31号住居跡**（第52・53図）

**位置**　調査区の南部，C 3 d3 区。

**規模と平面形**　長軸5.22m，短軸［4.87］m の方形と推定される。




**第52図　第31号住居跡実測図**

**主軸方向**　N－13°－W

**壁**　東壁は削平されており，残存しない。壁高は7～35cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径55～70cm前後の円形で，深さ63～85cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は径30cmの円形で，深さ38cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北寄りに位置し，長径85cm，短径40cmの瓢箪形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
3　赤　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，焼土大ブロック少量
4　暗　赤　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，径82cmの円形で，深さは17cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

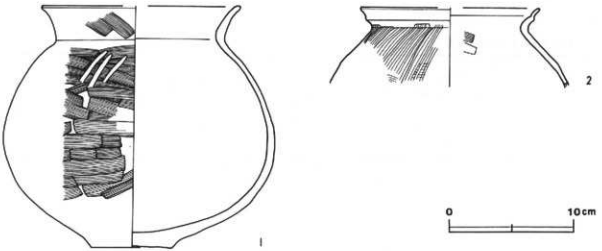
**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物**　土師器片146点，流れ込んだ縄文土器片1点が出土している。第53図1の土師器甕は，北壁際の覆土下層から出土した破片と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器台付甕の口縁部破片は，覆土中から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第53図　第31号住居跡出土遺物実測図**

第31号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図 1 | 壺 土師器 | A [15.7] B 14.5 C 6.4 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部外面ハケ目調整後，横ナデ。内面横ナデ。体部外面横方向のハケ目調整。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P139 50% 北壁際覆土下層 |
| 2 | 台付甕 土師器 | A [14.4] B ( 6.3) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位は内傾する。口縁部はS字状口縁で，外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜め方向のハケ目調整，内面上位ハケ目調整後，ナデ。 | 砂粒・長石にぶい橙色 普通 | P149 5% 覆土中 |

## 第32号住居跡（第54図）

**位置**　調査区の南部，C 3 f 2 区。

**規模と平面形**　長軸4.57m，短軸4.26mの方形である。

**長軸方向**　N－57°－E

**壁**　壁高は8～27cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

**ピット**　1か所。南西壁際に位置するP1は径30cmの円形で，深さ33cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴**　南コーナー部で確認され，径75cmの円形で，深さは20cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

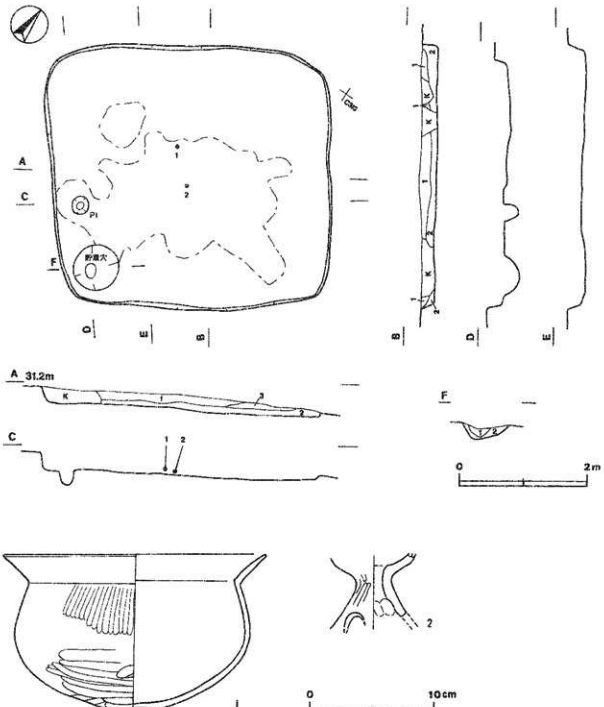
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器35点が出土している。第54図1の土師器鉢は，中央部の覆土下層から出土している。2の土師器器台は，中央部の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図 1 | 鉢 土師器 | A 21.0 B 12.5 C 4.0 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ磨き・下位ヘラナデ，内面ナデ。 | 砂粒・長石 橙色 普通 | P141 85% PL25 中央部覆土下層 |
| 2 | 器台 土師器 | B ( 6.1) | 脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。器受部は皿状を呈する。 | 器受部外面ナデ，内面横ナデ。脚部外面ヘラ削り，内面に指頭圧痕。 | 砂粒・長石にぶい橙色 普通 | P142 30% 中央部覆土下層 |




第54図　第32号住居跡・出土遺物実測図

**第33号住居跡**（第55・56図）

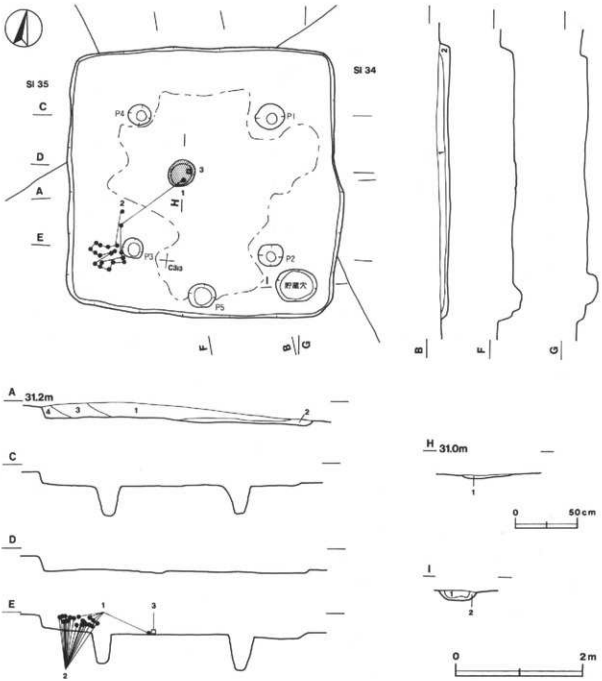
**位置**　調査区南部，C 3 h3 区。

**重複関係**　本跡は，第34号住居跡の北西部と第35号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸4.40m，短軸4.32m の方形である。

**主軸方向**　N－16°－W

**壁**　壁高は12～26cmで，外傾して立ち上がる。




**第55図　第33号住居跡実測図**

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径33～40cm前後の円形で，深さ45～58cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は径40cmの円形で，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや西寄りに位置し，長径48cm，短径40cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。炉石が，炉の長軸に直交するように北側に据えられ，上面は火熱を受け一部煤が付着している。

**炉土層解説**
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

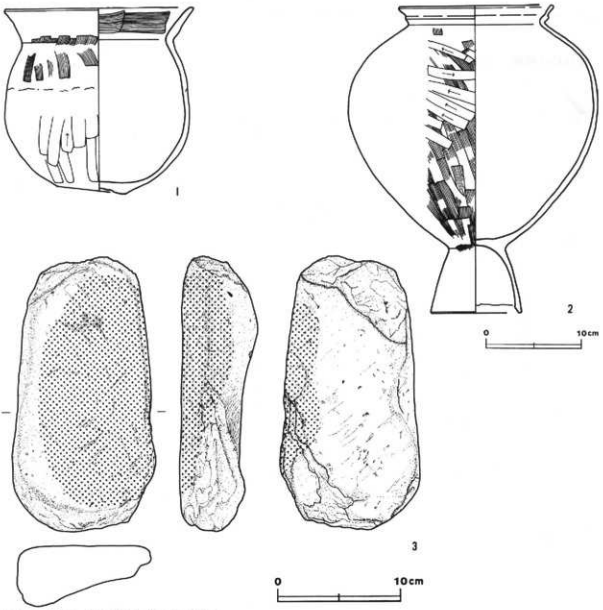
**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，長径63cm，短径53cmの楕円形で，深さは30cmである。

**貯蔵穴土層解説**
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粒子微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量

**遺物**　土師器片92点，石器1点（炉石）が出土している。第56図1の土師器甕は，炉内と南西部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2の土師器台付甕は，南西コーナー部の覆土下層から土圧でつぶれた




**第56図　第33号住居跡出土遺物実測図**

状態で出土している。3は炉石で，出土状況は上記のとおりである。

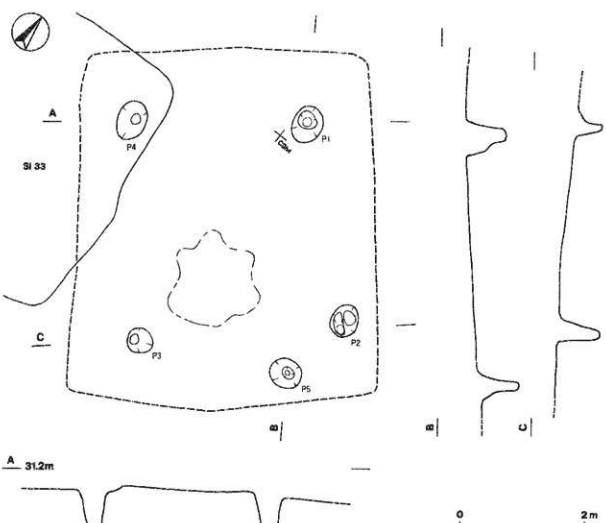
**所見**　本跡の時期は，出土遺物から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第56図 1 | 壺 土師器 | A 13.0<br>B 14.9<br>C 5.5 | 体部・底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面上位ハケ目調整，下位ヘラ削り。内面ナデ。体部外面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>明赤褐色<br>普通 | P143　50%<br>PL25<br>炉内 |
| 2 | 台付壺 土師器 | A 16.3<br>B 32.6<br>D 9.8 | 体部・脚台部一部欠損。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。体部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部はS字状で，外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整後，上位から中位はヘラ削り，内面ナデ。脚台部外面上位ハケ目調整，内面横ナデ。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P144　70%<br>PL26<br>南西コーナー部<br>覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第56図3 | 炉石 | (21.9) | 11.6 | 6.2 | (1980) | 安山岩 | 炉内 | Q20　PL23 |

**第34号住居跡（第57図）**




**第57図　第34号住居跡実測図**

**位置**　調査区の南部，C 3 h4 区。

**重複関係**　西部を第33号住居に掘り込まれている。

**規模と平面形**　覆土が薄く，床質から規模と平面形を推定した。長軸［5.79］m，短軸［4.79］m の長方形と推定される。

**長軸方向**　N－38°－W

**床**　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径40～57cm前後の円形で，深さ45～73cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南東壁際に位置するP5は径50cmの円形で，深さ60cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**所見**　本跡は出土遺物がなく，時期を限定することはできないが，前期（4世紀後半）と考えられる。第33号住居に掘り込まれていることから，それよりは古い。

### 第35号住居跡（第58図）

**位置**　調査区の南部，C 3 h1 区。

**重複関係**　東コーナー部を第33号住居に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸［6.18m］，短軸［5.85m］の方形である。

**主軸方向**　N－31°－W

**壁**　壁高は7～18cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　中央部に硬化面の高まりがみられるが，ほぼ平坦である。全体的によく踏み固められている。

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P5は径52～70cm前後の円形で，深さ78～95cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際に位置するP5は径25cmの円形で，深さ22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

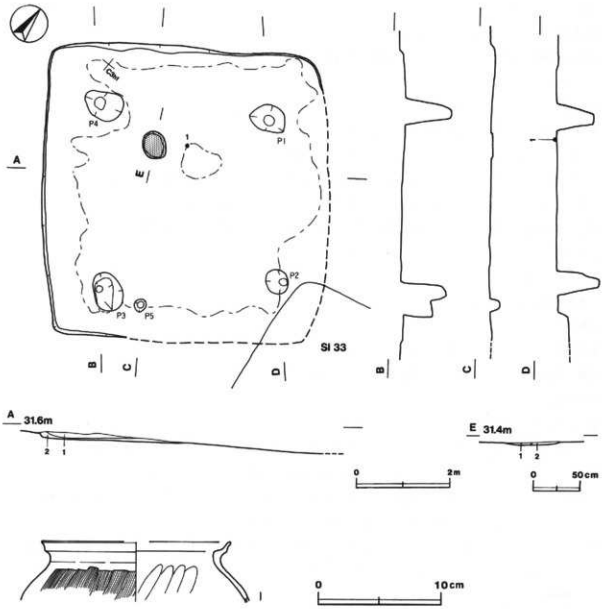
**土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量

**遺物**　土師器片57点が出土している。第58図1の土師器台付甕は，中央部の床面から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。第33号住居に掘り込まれていることから，それよりは古い。

第35号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 1 | 台付甕 土師器 | A 15.0 B (4.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部上位は内傾する。口縁部はS字状で，外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目調整，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通 | 5% PL43 PL26 中央部床面 |




**第58図　第35号住居跡・出土遺物実測図**

**第36号住居跡**（第59図）

**位置**　調査区の南部，C 2 h9 区。

**規模と平面形**　一辺4.15m ほどの方形である。

**主軸方向**　N－45°－E

**壁**　壁高は22～36cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。全面に多量の炭化材が内側に向かって傾斜した状態でみられる。

**炉**　北東部に位置し，長径55cm，短径45cmの楕円形で，床面を 4 cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けている。

**炉土層解説**

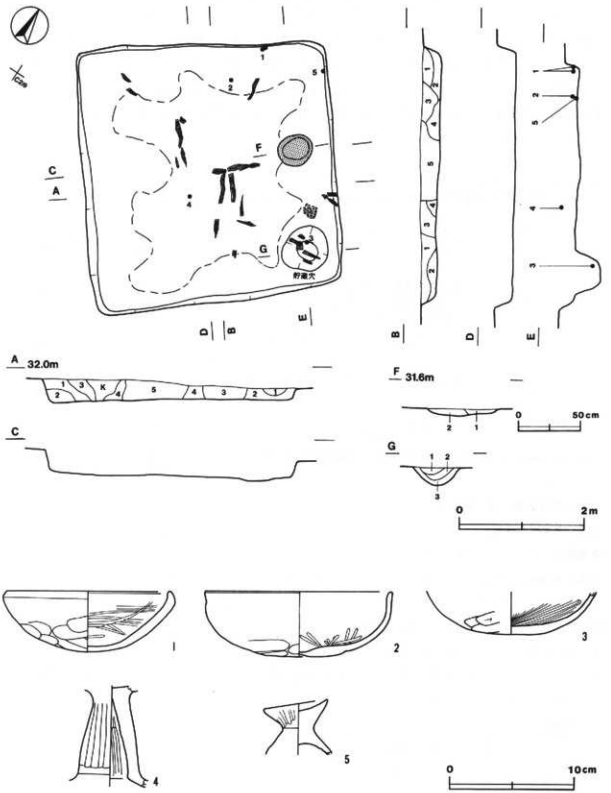
1　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

2　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さ27cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量




**第59図　第36号住居跡・出土遺物実測図**

**覆土**　5層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・砂粒微量

**遺物**　土師器片102点が出土している。第59図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は北壁際の覆土中層から，2の坏は北部の覆土中層から，3の坏は貯蔵穴の覆土下層から出土している。4の高坏は中央部の覆上上層から出土している。5のミニチュア土器台は，北コーナー部の床面から出土している。

**所見**　床面に炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して中期（5世紀中葉）と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図<br>1 | 坏<br>土師器 | A　13.2<br>B　4.9 | 口縁部一部欠損，丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 雲母・長石・石英・白色粒子<br>明褐色<br>普通 | P146　90%<br>PL26<br>北壁際覆土中層 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A　15.0<br>B　5.3<br>C　1.7 | 底部から口縁部にかけての破片。底部中央に指痕はどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P147　30%<br>北部覆土中層 |
| 3 | 坏<br>土師器 | B（3.5） | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P148　30%<br>貯蔵穴覆土下層 |
| 4 | 高　坏<br>土師器 | B（8.2） | 脚部片。脚部はエンタシス状を呈する。 | 脚部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P149　10%<br>中央部覆上上層 |
| 5 | ミニチュア台<br>土師器 | A　5.2<br>B（4.4） | 脚部一部欠損。脚部はハの字状に開く。坏部は皿状を呈する。 | 坏部外面ヘラナデ，内面指頭によるナデ。脚部内・外面指頭による唱いナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P150　80%<br>PL26<br>北コーナー部床面 |

**第38号住居跡**（第60図）

**位置**　調査区の南部，C 2 d8 区。

**重複関係**　南部を第39号住居に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸4.14m，短軸（3.42）m で長方形と推定される。

**主軸方向**　N－17°－W

**壁**　壁高は4～8㎝で，外傾して立ち上がる。

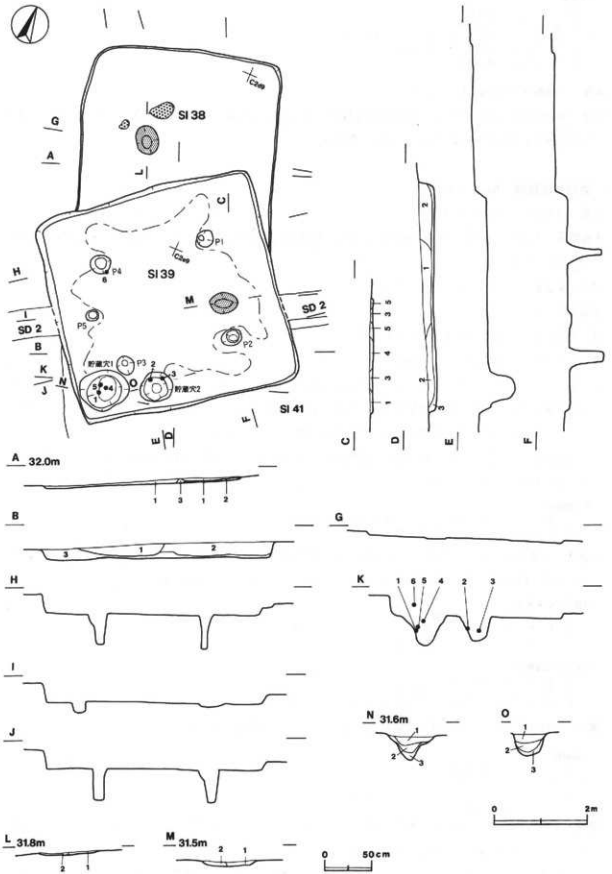
**床**　ほぼ平坦である。中央部に粘土塊がみられる。

**炉**　中央部からやや西側に位置し，長径60cm，短径46cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

**覆土**　5層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。




第60図　第38・39号住居跡実測図

土層解説
1 黒　　色　ローム粒子微量
2 黒 褐 色　ローム粒子微量
3 黒 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
4 黒 褐 色　ローム中ブロック・粒子少量
5 黒 褐 色　ローム粒子少量

**遺物**　土師器片13点が出土している。

**所見**　遺物が細片で図示できないため時期を限定できないが，住居跡の形態から古墳時代と考えられる。第39号住居に掘り込まれていることから，それよりは古い。

### 第39号住居跡（第60・61図）

**位置**　調査区の南部，C２e8区。

**重複関係**　本跡が，第38号住居跡の南部，第41号住居跡の北部を掘り込んでいる。本跡の中央部が第２号溝に掘り込まれている。

**規模と平面形**　一辺4.80mの方形である。

**主軸方向**　N－62°－E

**壁**　壁高は29～38cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。

**ピット**　５か所（P１～P５）。P１～P４は径40cm前後の円形で，深さ62～70cm前後であり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南西壁寄りに位置するP５は径23cmの円形で，深さ25cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**炉**　東部に位置し，長径60cm，短径45cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

炉土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

**貯蔵穴**　２基確認された。貯蔵穴１は，南コーナー部で確認され，長径105cm，短径83cmの楕円形で，深さは51cmである。貯蔵穴２は，南東部で確認され，径70cmの円形で，深さは46cmである。

貯蔵穴１土層解説
1 黒 褐 色　焼土小ブロック少量
2 暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量
3 褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量

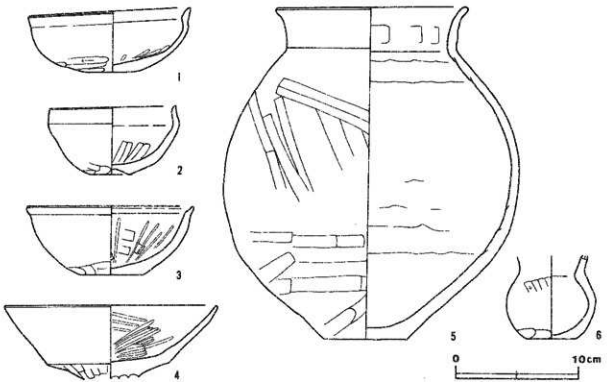
貯蔵穴２土層解説
1 黒 褐 色　ローム粒子少量
2 黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
3 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

**覆土**　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒　　色　ローム粒子微量
2 黒 褐 色　ローム粒子微量
3 黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片393点，流れ込んだ縄文土器片４点が出土している。第61図に示した土器はいずれも土師器である。１の坏は，貯蔵穴１の覆土中層から斜位の状態で出土している。２・３の椀は，貯蔵穴２の覆土中層から，ともに斜位の状態で出土している。４の高坏，５の甕は，貯蔵穴１の覆土中層から，ともに横位の状態で出土している。６のミニチュア土器甕は，西部の覆土中層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して中期（5世紀中葉）と考えられる。




**第61図　第39号住居跡出土遺物実測図**

第39号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第61図 1 | 坏 土師器 | A 12.8<br>B 5.0<br>C 3.2 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P153 98%<br>PL26<br>貯蔵穴1覆土中層 |
| 2 | 椀 土師器 | A 10.0<br>B 5.5<br>C 3.2 | 完形。底部に指頭はどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P154 100%<br>PL26<br>貯蔵穴2覆土中層 |
| 3 | 椀 土師器 | A 13.2<br>B 5.6<br>C 5.0 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・白色粒子<br>橙色<br>普通 | P155 95%<br>PL26<br>貯蔵穴2覆土中層 |
| 4 | 高坏 土師器 | A 17.0<br>B (5.9) | 坏部片。坏部は外傾して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P156 45%<br>PL26<br>貯蔵穴1の覆土中層 |
| 5 | 甕 土師器 | A 15.2<br>B 26.9<br>C 6.6 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は外反する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ。体部外面中位ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面上位・下位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P157 98%<br>PL26<br>体部外面に煤付着　貯蔵穴1の覆土中層 |
| 6 | ミニチュア甕 土師器 | B (6.6)<br>C 4.0 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P158 75%<br>西部の覆土中層 |

**第41号住居跡**（第62・63図）

**位置**　調査区の南部，Ｃ２ｆ９区。

**重複関係**　北西部を第39号住居に，東部を第42号住居に掘り込まれている。

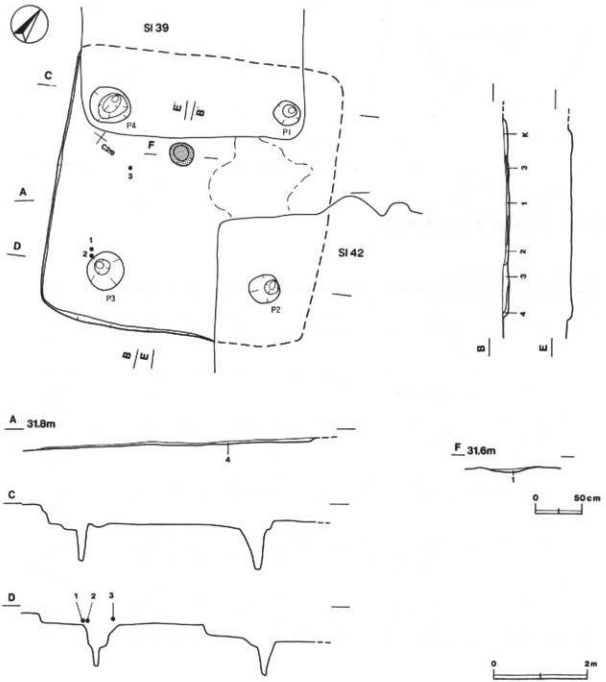
**規模と平面形**　長軸［6.20］m，短軸［5.67］mの長方形と推定される。

**主軸方向**　N－26°－W

**壁**　壁高は15～19cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，東部がよく踏み固められている。

**ピット**　4か所（P1～P4）。P1～P4は径48～80cmの円形で，深さ78～92cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。




**第62図　第41号住居跡実測図**

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，径50cmの円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けてわずかに赤変している。

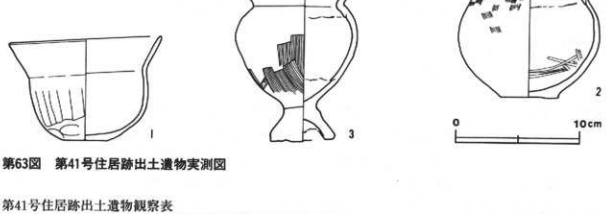
**炉土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量

**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物**　土師器片136点が出土している。第63図1の土師器鉢と2の土師器甕は，南部の覆土下層から出土している。3の土師器小形台付甕は，西部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




**第63図　第41号住居跡出土遺物実測図**

第41号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第63図 1 | 鉢 土師器 | A 12.2<br>B 8.4<br>C 3.6 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P159　90%<br>PL26<br>南部覆土下層 |
| 2 | 甕 土師器 | A [11.6]<br>B 10.1<br>C 4.6 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目調整，内面ヘラ磨き。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P160　70%<br>PL26<br>南部覆土下層 |
| 3 | 小形台付甕 土師器 | A 8.4<br>B 12.2<br>D 5.2 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整，内面ナデ。内面上位・下位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P161　80%<br>PL27<br>西部覆土下層 |

## 第42号住居跡（第64・65図）

**位置**　調査区の南部，C2f0区。

**重複関係**　本跡が，第41号住居跡の東コーナー部と第43号住居跡の南部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸5.76m，短軸5.64mの方形である。

**主軸方向**　N－37°－W

**壁**　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，出入り口付近から竈前面にかけてよく踏み固められている。

**竈**　北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130

cm，両袖部幅135cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**

1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5 褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 黒　褐　色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量
7 褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
8 暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・小ブロック少量
9 褐　　色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
10 黒　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量

**ピット**　5か所（P1～P5）。P1～P4は径36～40cmの円形で，深さ31～61cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南東壁寄りに位置するP5は径30cmの円形で，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴**　東コーナー部で確認され，長軸80cm，短軸55cmの長方形で，深さは41cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1 黒　褐　色　ローム粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子中量
3 黒　褐　色　ローム粒子少量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

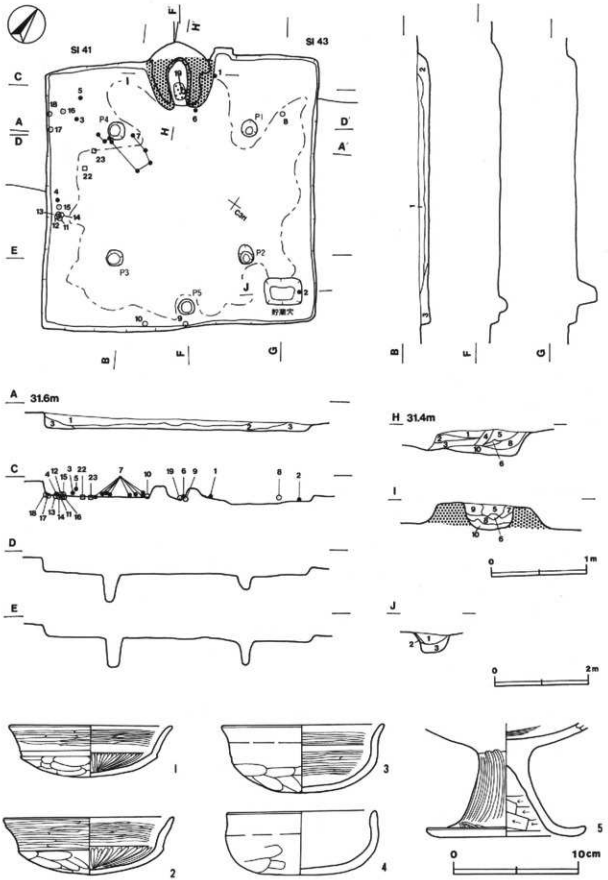
1 黒　　色　ローム粒子微量
2 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
3 黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

**遺物**　土師器片242点，土製品14点（土錘），石製品2点（紡錘車），石器1点（支脚）が出土している。第64・65図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は竈東袖脇の床面から，2の坏は東コーナー部の床面から出土している。3の坏は，西部の覆土下層から出土している。4の坏は，南西壁際の床面から出土している。5の高坏は，西コーナー部の覆土中層から出土している。6の直口壺は，竈の東袖前面の床面から出土している。7の甑は，西部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。8～21は土錘である。8は，北部の覆土下層から出土している。9・10は，南壁際の床面から出土している。11～15は，南西壁際の床面から出土している。16～18は，西部の床面から出土している。19は，竈内から出土している。20・21は覆土中から出土している。22・23の紡錘車は，西部の床面から出土している。

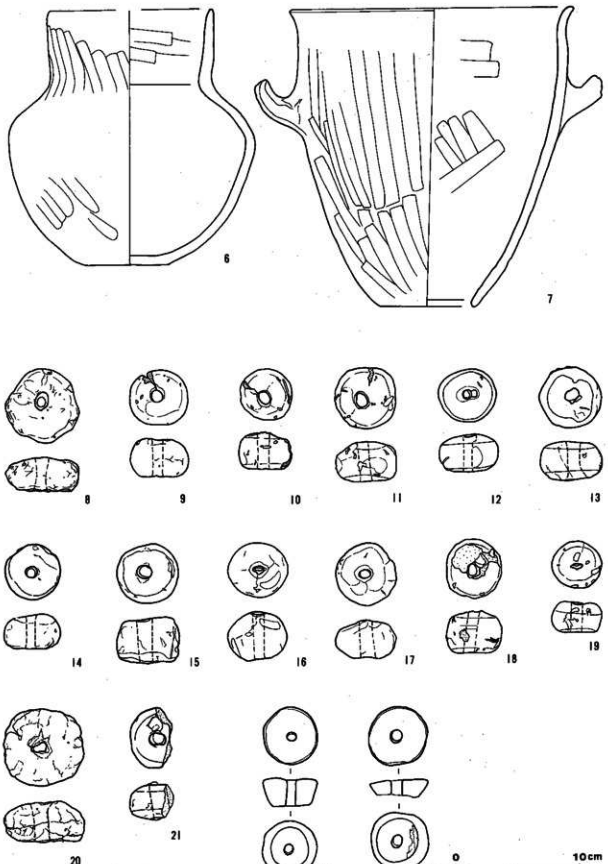
**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して後期（6世紀中葉）と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図 1 | 坏 土師器 | A 12.2<br>B 8.4 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P162 99%<br>PL27<br>竈東袖脇床面 |
| 2 | 坏 土師器 | A 13.5<br>B 4.6 | 体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P163 97%<br>PL27<br>東コーナー部床面 |
| 3 | 坏 土師器 | A 12.4<br>B 5.5 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P164 97%<br>PL27<br>西部覆土下層 |
| 4 | 坏 土師器 | A 11.8<br>B 5.2 | 口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色 | P165 90%<br>PL27<br>南西壁際床面 |
| 5 | 高　坏 土師器 | B（9.2）<br>D 12.8 | 坏部一部欠損。脚部はラッパ状を呈し，裾部は大きく開く。 | 坏部内部ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。裾部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。 | 砂粒・雲母・長石・石英<br>橙色<br>普通 | P166 60%<br>PL27<br>西コーナー部覆土中層 |




第64図　第42号住居跡・出土遺物実測図(1)




第65図　第42号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図<br>6 | 底 口 壺<br>土 師 器 | A 13.0<br>B 20.6<br>C 6.8 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，肩部がやや張り，頸部から口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石によい橙色<br>普通 | P167 85%<br>PL27<br>竈東柱間の床面 |
| 7 | 甕<br>土 師 器 | A 22.3<br>B 24.0<br>C 7.5 | 口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。体部上位に角状の把手をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P169 90%<br>PL28<br>西部床面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図8 | 土錘 | 3.5 | 2.9 | 0.8 | 70.0 | 北部覆土下層 | DP5 PL27 |
| 9 | 土錘 | 4.7 | 3.1 | 1.0 | (55.3) | 南壁際床面 | DP6 PL27 |
| 10 | 土錘 | 4.3 | 3.0 | 0.7 | 40.0 | 南壁際床面 | DP7 PL27 |
| 11 | 土錘 | 5.0 | 3.2 | 1.1 | 67.4 | 南西壁際床面 | DP8 PL27 |
| 12 | 土錘 | 4.7 | 3.0 | 0.8 | 49.8 | 南西壁際床面 | DP9 PL27 |
| 13 | 土錘 | 5.0 | 3.2 | 1.2 | 53.5 | 南西壁際床面 | DP10 PL27 |
| 14 | 土錘 | 4.5 | 2.8 | 0.8 | 49.0 | 南西壁際床面 | DP11 PL27 |
| 15 | 土錘 | 5.0 | 3.8 | 1.2 | 76.8 | 南西壁際床面 | DP12 PL27 |
| 16 | 土錘 | 4.8 | 4.0 | 0.8 | 66.4 | 西部床面 | DP13 PL27 |
| 17 | 土錘 | 5.0 | 3.1 | 1.0 | 57.7 | 西部床面 | DP14 PL27 |
| 18 | 土錘 | 4.8 | 3.4 | 1.1 | (58.2) | 西部床面 | DP15 PL27 |
| 19 | 土錘 | 4.0 | 2.5 | 1.0 | 32.7 | 竈内 | DP16 PL27 |
| 20 | 土錘 | 6.4 | 3.3 | 1.2 | 101.6 | 覆土中 | DP17 PL27 |
| 21 | 土錘 | 4.9 | 3.1 | 1.4 | (35.9) | 覆土中 | DP18 |

| 図版番号 | 種別 | | 計測値 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図22 | 紡錘車 | | 4.6 | 2.3 | 0.8 | 59.3 | 滑石 | 西部床面 | Q22 PL27 |
| 23 | 紡錘車 | | 4.7 | 1.5 | 0.9 | (41.4) | 滑石 | 西部床面 | Q23 PL27 |

### 第43号住居跡（第66・67図）

**位置**　調査区の南部，C 2 d 0 区。

**重複関係**　本跡は，南部を第42号住居に，北西部を第40号住居に，中央部を第２号溝に掘り込まれているが，床面までは達していない。

**規模と平面形**　長軸5.15m，短軸4.91mの方形である。

**主軸方向**　N－23°－W

**壁**　壁高は12～32cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，炉の周辺がよく踏み固められている。

**ピット**　４か所（P1～P4）。P1～P4は径43～52cmの円形で，深さ66～87cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

**炉**　中央部からやや北西寄りに位置し，長径90cm，短径45cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

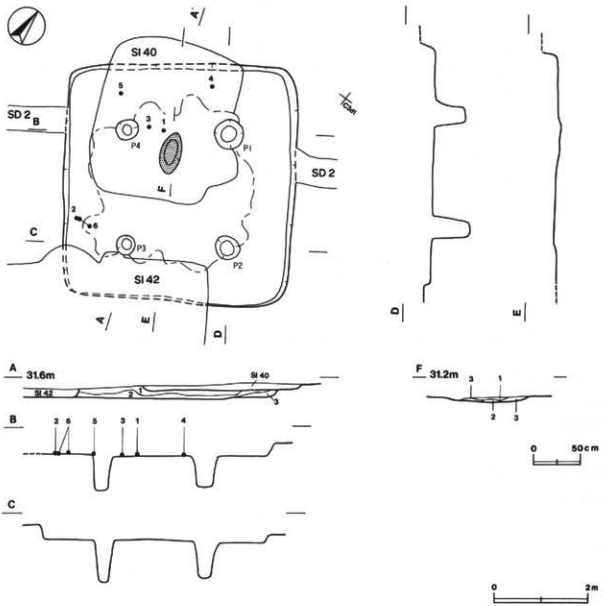
**炉土層解説**
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

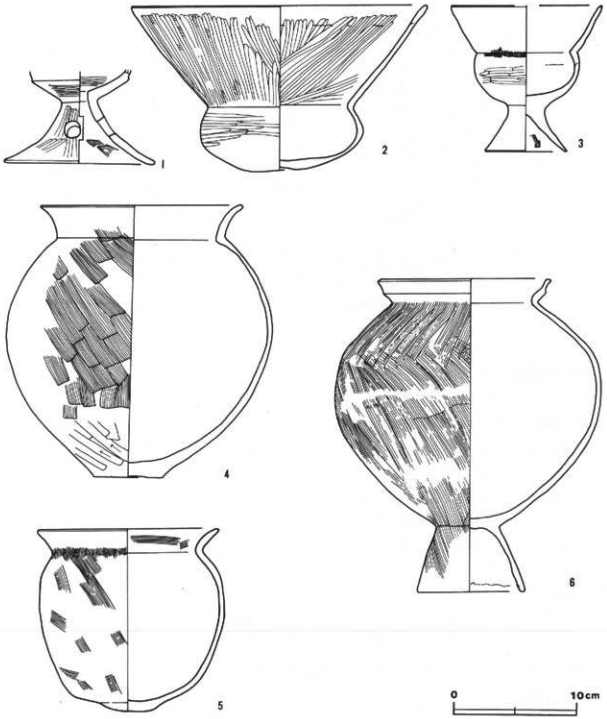
**土層解説**
1　黒　褐　色　炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**遺物**　土師器片70点が出土している。第67図1の土師器器台，3の土師器台付坩は，北西部付近の床面から正位・横位の状態で，それぞれ出土している。2の土師器坩，6の土師器台付甕は，南西部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。4の土師器甕は北部の床面から，5の土師器甕は西部の床面から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して前期（4世紀後半）と考えられる。




第66図　第43号住居跡実測図




**第67図　第43号住居跡出土遺物実測図**

第43号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図<br>1 | 器台<br>土師器 | B（7.6）<br>D 12.1 | 器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，中位に3孔が空けられている。器受部は皿状を呈し，端部がつまみ上げられている。中央に単孔がある。 | 器受部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整。 | 砂粒・雲母・白色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P170　70%<br>北西部付近床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図<br>2 | 坩<br>土師器 | A 23.4<br>B 13.3<br>C 4.0 | 口縁部・体部一部欠損．底部中央に指頭ほどのくぼみがある。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は大ぶりで外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。口縁部内面に輪積み痕。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P171 85%<br>PL28<br>南西部床面 |
| 3 | 台付坩<br>土師器 | A [12.2]<br>B 11.8<br>D 6.6 | 口縁部一部欠損．脚台部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部ハケ目調整。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。脚台部外面ナデ，内面ハケ目調整。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・長石<br>橙色<br>普通 | P172 60%<br>PL28<br>北西部付近床面 |
| 4 | 甕<br>土師器 | A 16.1<br>B 22.0<br>C 5.4 | 口縁部・体部一部欠損．やや突出した平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から上位ハケ目調整，下位ヘラ削り，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | P173 90%<br>PL28<br>北部床面 |
| 5 | 甕<br>土師器 | A 14.5<br>B 14.7<br>C 3.5 | 体部一部欠損．やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ハケ目調整後，ナデ。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P168 90%<br>PL28<br>体部外面に煤付着<br>西部床面 |
| 6 | 台付甕<br>土師器 | A 13.9<br>B 25.2<br>D 8.7 | 口縁部・体部一部欠損。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。体部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部はS字状で，外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面頸部のハケ目調整，内面ナデ。脚台部外面ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P174 80%<br>PL28<br>体部外面に煤付着<br>南西部床面 |

(2) 平安時代

**第3号住居跡**（第68・69図）

**位置** 調査区の北西部，B 1 b9 区。

**規模と平面形** 長軸2.65m，短軸2.52m の方形である。

**主軸方向** N－5°－E

**壁** 壁高は24～34cmで，外傾して立ち上がる。

**床** ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

**竈** 北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。袖模は，焚口部から煙道部まで72cm，両袖部幅73cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。火床面から赤く焼けた石製支脚が出土している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 極赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量

**貯蔵穴** 北東コーナー部で確認され，長軸68cm，短軸54cmの楕円形で，深さは47cmである。

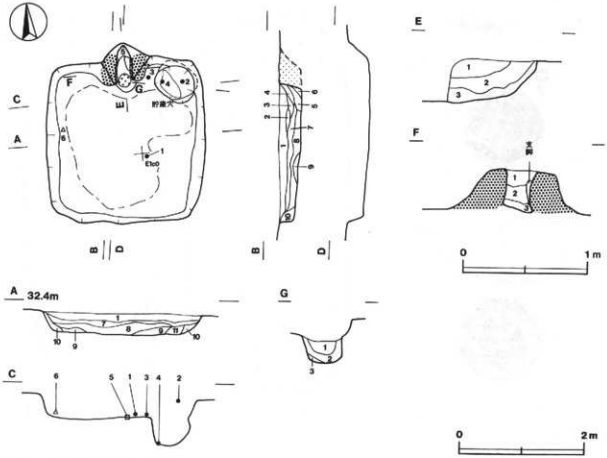
貯蔵穴土層解説

1 黒 色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子微量

**覆土** 11層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。3～6層は，竈からの流れである。

土層解説

1 黒褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
5 褐色 ローム粒子多量，砂粒・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7 黒色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
8 暗褐色 炭化物中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
11 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量



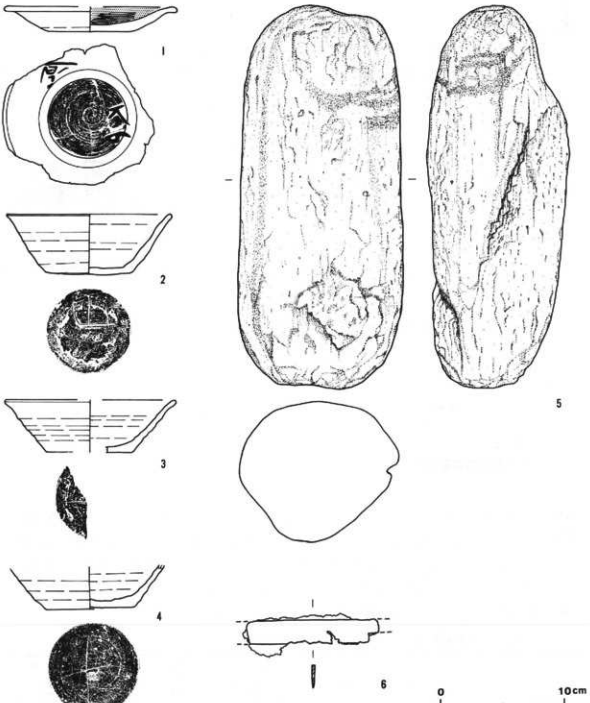

**第68図　第３号住居跡実測図**

**遺物**　土師器片139点，須恵器片44点，石器１点（支脚），鉄製品１点（刀子）が出土している。第69図１の土師器皿は，中央部の覆土下層から出土している。２の須恵器坏は，北東コーナー部の覆土上層から逆位の状態で出土している。３の須恵器坏は竈東袖脇の覆土下層から，４の須恵器坏は貯蔵穴の底面から正位の状態で，それぞれ出土している。５の石製支脚は竈内から，６の刀子は西部の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀中葉と考えられる。

第３号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第69図<br>1 | 皿<br>土師器 | A［14.0］<br>B　2.0<br>C　6.5 | 平底。体部は大きく外傾し，口縁部は外反する。 | 口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P18　70%<br>PL29<br>中央部覆土下層<br>体部外面墨書<br>「厨」底部「大子」 |
| 2 | 坏<br>須恵器 | A　13.4<br>B　4.9<br>C　6.8 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は弱く外反する。 | 口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。 | 砂粒・石英・白色粒子<br>灰色<br>普通 | P19　90%<br>PL29<br>北東コーナー部<br>覆土上層　底部<br>外面刻書 |
| 3 | 坏<br>須恵器 | A［13.6］<br>B　4.2<br>C［7.0］ | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は弱く外反する。 | 口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・長石・赤色粒子<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P20　25%<br>竈東袖脇覆土下層<br>底部外面刻書 |
| 4 | 坏<br>須恵器 | B（3.4）<br>C　7.1 | 口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・長石<br>灰白色<br>普通 | P21　60%<br>PL29<br>貯蔵穴底面底部<br>外面刻書 |




**第69図　第3号住居跡出土遺物実測図**

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第69図5 | 支脚 | 30.7 | 13.0 | 11.4 | 6580 | 安山岩 | 竈内 | Q2 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第69図6 | 刀子 | (11.0) | 1.9 | 0.2 | (18.0) | 西部覆土下層 | M1　刀身　PL29 |

**第11号住居跡**（第70図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｇ５区。

**規模と平面形**　長軸［3.60］m，短軸3.52mの隅丸方形と推定される。

**長軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ

**壁**　東壁は，削平のため確認できなかった。壁高は17～23cmで，外傾して立ち上がる。

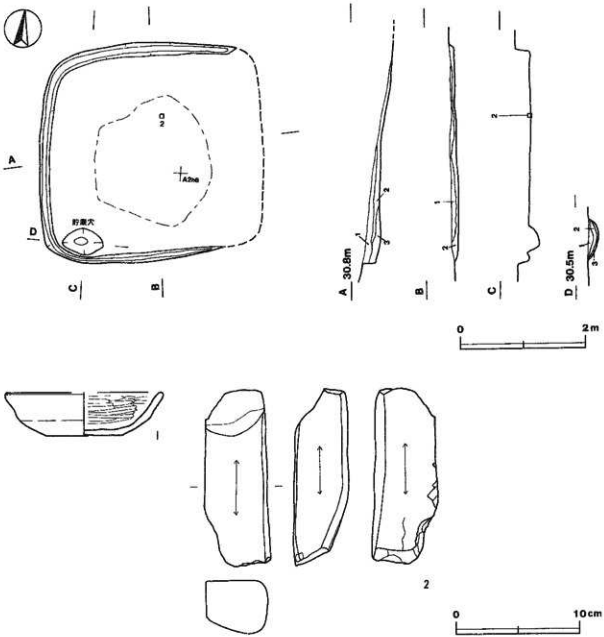
**壁溝**　確認した壁下のすべてに巡っている。上幅10～14cm，下幅４～８cm，深さ５cm前後であり，断面形はＵ字形をしている。

**床**　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

**貯蔵穴**　南西コーナー部で確認され，長軸70cm，短軸44cmの楕円形で，深さは20cmである。

**貯蔵穴土層解説**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒 | 褐 | 色 | 炭化粒子中量，ローム粒子微量 |
| 2 | 暗 | 褐 | 色 | ローム中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 3 | 暗 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量 |




**第70図　第11号住居跡・出土遺物実測図**

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量

**遺物**　土師器片56点，石器1点（砥石）が出土している。第70図1の土師器坏は，貯蔵穴の覆土中から出土している。2の砥石は，中央部付近の床面から出土している。

**所見**　竈は削平のため確認できなかった。時期は，出土土器から判断して10世紀と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第70図 1 | 坏 土師器 | A [12.4] B 3.5 C 6.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・赤色粒子に富い黄褐色 普通 | P46　30% 貯蔵穴覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第70図 2 | 砥石 | (14.2) | 5.4 | 4.5 | (486.0) | 砂岩 | 中央部付近床面 | Q 8　PL29 |

## 第16号住居跡（第71図）

**位置**　調査区の中央部，A 3 j 2 区。

**規模と平面形**　長軸3.90m，短軸3.54mの隅丸長方形である。

**主軸方向**　N－79°－E

**壁**　壁高は8～24cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部にわずかに硬化面がみられる。

**竈**　東壁中央部を壁外に45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで93cm，両袖部幅97cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

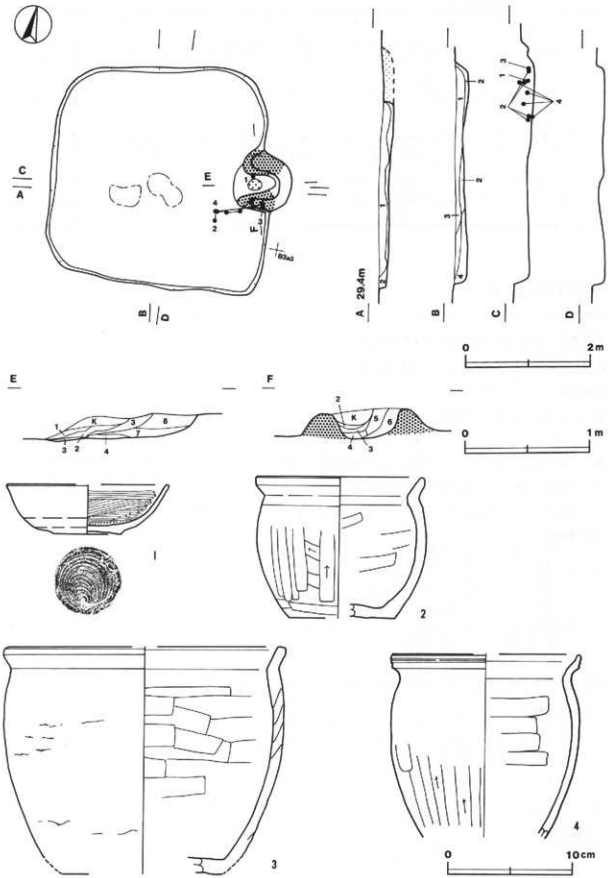
竈土層解説
1　暗赤褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
4　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量

**覆土**　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

**遺物**　土師器片105点，流れ込んだ縄文土器片16点，須恵器片2点が出土している。第71図1の土師器坏は，竈の火床面から出土している。2・4の土師器甕は，竈の南袖前面の床面から，ともに出土している。3の土師器甕は，竈南袖内から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前半と考えられる。




第71図　第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図 1 | 坏 土師器 | A [12.8] B 4.0 C 5.4 | 体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P73 60% PL29 竈火床面 |
| 2 | 甕 土師器 | A 13.4 B 11.4 C [8.5] | 底部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・赤色粒子にぶい赤褐色 普通 | P74 60% PL29 竈内袖前面の床面 |
| 3 | 甕 土師器 | A [21.6] B 18.4 C [12.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。体部内外上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・長石明赤褐色 普通 | P75 30% 竈内袖内 |
| 4 | 甕 土師器 | A [15.0] B (14.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く外傾する。端部はわずかにつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石にぶい橙色 普通 | P76 60% PL29 竈内袖前面の床面 |

## 第23号住居跡（第72図）

**位置**　調査区の北東部，A 3 h8 区。

**重複関係**　第24号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　一辺3.26m ほどの方形である。

**主軸方向**　N－19°－W

**壁**　壁高は 8～18cm で，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から竈前面にかけてよく踏み固められている。

**竈**　北壁中央部を壁外に48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，両袖部幅118cmである。竈右袖の内側に補強材として安山岩が使用されている。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量
9　暗　褐　色　焼土小ブロック・粒子中量
10　暗　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量

**貯蔵穴**　竈の東側で確認され，長径80cm，短径53cmの楕円形で，深さ73cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

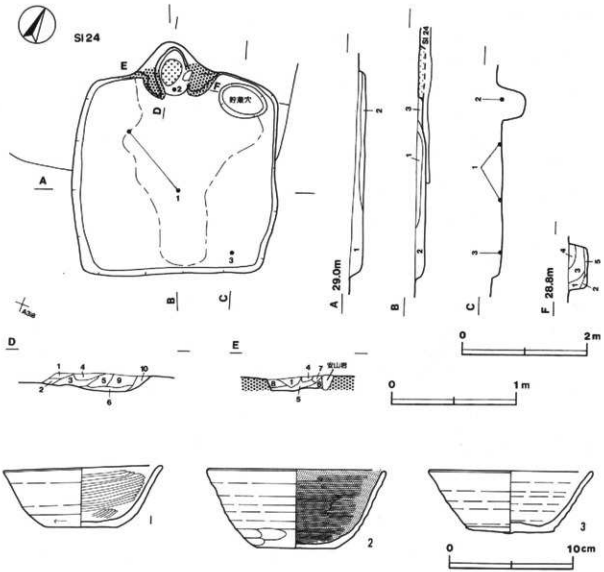
**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・粒子微量
3　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物**　土師器片99点，須恵器片14点，流れ込んだ縄文土器片17点が出土している。第72図 1 の土師器坏は，中

央部と北西部の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器椀は，竈内から出土している。3の須恵器坏は，南東コーナー部の床面から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。




**第72図　第23号住居跡・出土遺物実測図**

第23号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第72図 1 | 坏 土師器 | A 12.5<br>B 5.0<br>C 5.8 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面下位ヘラ削り。 | 砂粒・長石<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P108　40%<br>中央部床面 |
| 2 | 椀 土師器 | A 14.2<br>B 8.4<br>C 6.2 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P107　60%<br>PL29<br>竈内 |
| 3 | 坏 須恵器 | A 13.3<br>B 5.0<br>C 7.0 | 口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・長石<br>灰色<br>普通 | P109　690%<br>PL29<br>南東コーナー部<br>床面 |

**第29号住居跡**（第73図）

**位置**　調査区中央部，Ａ３h1区。

**規模と平面形**　黒色土中に構築されているため，床質から規模を推定した。長軸［3.57］m，短軸［3.41］mの方形と推定される。

**主軸方向**　N－18°－W

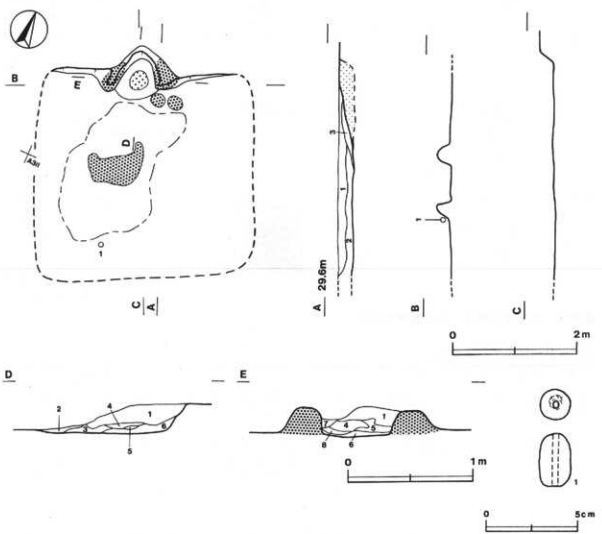
**壁**　北壁のみ確認できた。壁高は24～27cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦である。中央部付近がよく踏み固められている。中央部と竈東袖前に粘土塊がみられる。

**竈**　北壁中央部を壁外に43cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで83cm，両袖部幅132cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，粘土中ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・小ブロック中量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
8　黒　　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量




**第73図　第29号住居跡・出土遺物実測図**

**覆土**　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒　　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂粒・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　土師器片114点，須恵器片4点，土製品1点（管状土錘），流れ込んだ縄文土器片100点が出土している。第73図1の管状土錘は，南部の覆土中層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器等から判断して平安時代と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 種　　別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径（cm） | 長さ（cm） | 孔径（cm） | 重量（g） | | |
| 第73図1 | 管状土錘 | 1.6 | 2.8 | 0.3 | 8.4 | 南部の覆土中層 | DP4　PL29 |

## 第37号住居跡（第74図）

**位置**　調査区の南部，D3a4区。

**規模と平面形**　長軸4.08m，短軸3.60mの長方形である。

**主軸方向**　N－71°－E

**壁**　壁高は7～17cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から竈前面にかけてよく踏み固められている。中央部から西部にかけての床面から比較的大きめの炭化材が内側に向かって出土している。

**竈**　東壁中央部やや南寄りを壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで74cm，両袖部幅83cmである。火床部は，わずかにくぼみ，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**
1　黒　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・粒子少量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量

**貯蔵穴**　南東コーナー部で確認され，径78cmの円形で，深さは20cmである。

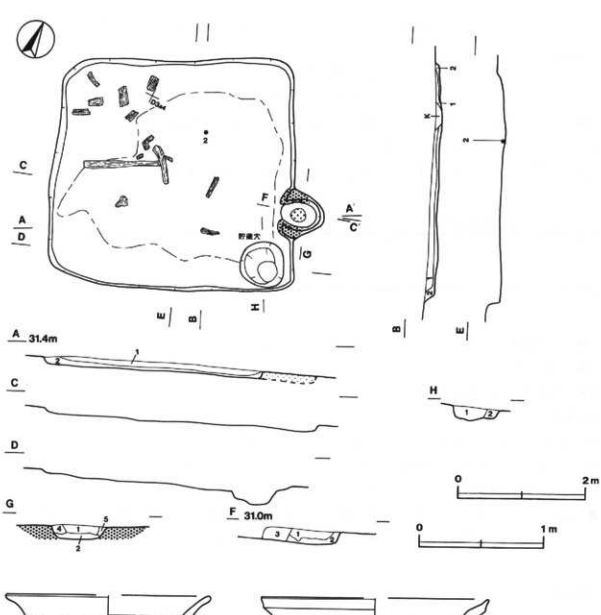
**貯蔵穴土層解説**
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　極暗褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　黒　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化材微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量

**遺物**　土師器片75点が出土している。第74図1の土師器坏は，貯蔵穴の覆土中から出土している。2の土師器甕は，中央部の床面から出土している。

**所見**　床面に炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。時期は，遺構の形態や出土土器等から判断して10世紀前半と考えられる。




**第74図　第37号住居跡・出土遺物実測図**

第37号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図 1 | 坏 土師器 | A [16.2] B (2.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P151 10% 貯蔵穴覆土中 |
| 2 | 甕 土師器 | A [18.4] B (7.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は外傾し，端部はわずかにつまみ上げられている。 | 口縁部から体部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通 | P152 5% 中央部床面 |

**第40号住居跡**（第75図）

**位置**　調査区の南部，C 2 d0 区。

**重複関係**　本跡が，第43号住居跡の北西部と第２号溝を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸3.38m，短軸2.84mの長方形である。

**主軸方向**　N－73°－E

**壁**　壁高は６～15cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

**竈**　東壁の中央やや南寄りの部分を壁外に48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅93cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

**覆土層解説**

1　黒　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化材微量
2　暗赤褐色　ローム中ブロック・小ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
3　黒　褐　色　焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土小ブロック・粒子少量
5　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

**貯蔵穴**　北西コーナー部で確認され，径45cmの円形で，深さは24cmである。

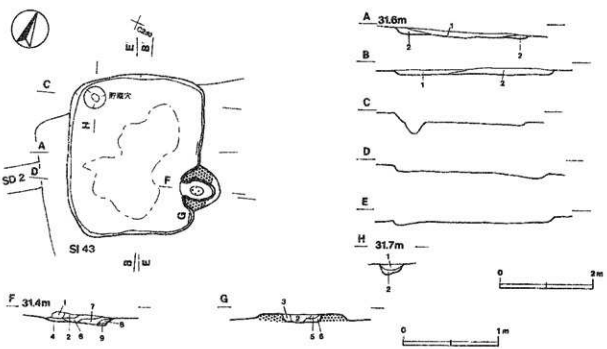
**貯蔵穴土層解説**

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

**覆土**　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　　色　焼土粒子少量，炭化材微量
2　黒　　色　ローム粒子・炭化材少量




第75図　第40号住居跡実測図

**遺物**　土師器片36点，鉄片１点が出土している。

**所見**　遺物が細片で図示できないが，本跡の時期は，須恵器片がみられないことや住居跡の形態等から判断して，10世紀と考えられる。

表２　ニガサワ遺跡住居跡一覧表

| 住居跡番号 | 位置 | 主軸方向（長軸） | 平面形 | 規模(m)（長軸×短軸） | 壁高(cm) | 床面 | 内部施設 | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新田風例(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 壁溝 | 大穴 | 小穴 | ピット | 炉・竈 | 貯蔵穴 | | | |
| 1 | A 1 i8 | N-32°-W | 長方形 | 6.18 × 5.58 | 24～34 | 平坦 | 全周 | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・甕・手捏土器），鉄滓単 | |
| 2 | A 2 i1 | N-12°-W | 方 形 | 5.86 × 5.52 | 20～32 | 平坦 | 全周 | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・壺・甕・台付甕） | |
| 3 | B 1 h9 | N-5°-E | 方 形 | 2.65 × 2.52 | 24～34 | 平坦 | － | － | － | － | 竈1 | 1 | 人為 | 土師器（壺），須恵器（坏），石製支脚，刀子 | |
| 4 | B 2 a3 | N-65°-E | 長方形 | 4.82 × 3.96 | 22～38 | 平坦 | － | － | － | － | － | － | 自然 | 土師器（甕），縄文土器片 | |
| 5 | A 2 e9 | N-30°-W | 楕方形 | 6.27 × 5.69 | 10～20 | 平坦 | － | － | － | － | － | － | 自然 | 土師器（高坏・坩・甕），縄文土器片 | |
| 6 | B 2 f1 | N-77°-W | － | 6.78 × (3.04) | 10 | 平坦 | － | 2 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・台付甕） | |
| 7 | B 2 h3 | N-19°-W | 方 形 | 8.90 × 8.61 | 15～35 | 平坦 | － | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（坩・ミニチュア甕・手捏土器） | |
| 8 | B 2 i7 | N-66°-E | 隅丸方形 | 5.07 × 4.75 | 22～25 | 平坦 | － | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（坩・甕），紡石 | |
| 9 | B 2 h8 | N 38°-W | 方 形 | 4.42 × 4.22 | 26～62 | 平坦 | － | 4 | － | 1 | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（高坏・坩・小型甕・甕・ミニチュア鉢） | |
| 10 | B 2 h9 | N 20°-W | 長方形 | 5.60 × (4.94) | 10～50 | 平坦 | － | 4 | － | － | － | 1 | 自然 | 土師器（甕），紡石 | |
| 11 | A 2 g5 | N 83°-E | 隅丸円 | (3.60) × 3.52 | 17～23 | 平坦 | － | － | － | － | － | 1 | 自然 | 土師器（坏），紡石 | |
| 12 | A 3 e1 | N-74°-E | 長方形 | 3.39 × 2.62 | 19 | 平坦 | － | － | － | 2 | － | － | 自然 | 土師器片，縄文土器片 | 第7号集合遺構→本跡 |
| 13 | A 3 j4 | N-33°-W | 方 形 | 6.34 × 6.10 | 28～46 | 平坦 | － | 4 | － | 1 | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（高坏・坩・甕・鉢），紡石，砥石 | |
| 14 | B 2 b0 | N 18°-W | 方 形 | 5.38 × 5.17 | 22～34 | 平坦 | | | | － | － | － | 自然 | 土師器（高坏・坩） | |
| 15 | A 3 j6 | N-8°-W | 長方形 | (3.90) × [3.44] | 8～10 | 平坦 | － | － | － | － | 炉1 | | 自然 | 土師器（壺・甕・手捏土器） | |
| 16 | A 3 j2 | N 79°-E | 楕方形 | 3.90 × 3.54 | 8～24 | 平坦 | | － | － | － | 竈1 | － | 自然 | 土師器（坏・甕），須恵器片 | |
| 17 | B 3 h3 | N-0° | 方 形 | 6.81 × 6.58 | 10～38 | 平坦 | － | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 不明 | 土師器（甕・台付甕） | |
| 18 | B 3 c2 | N-25°-W | 方 形 | 6.33 × 6.22 | 25～42 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（高坏・坩・甕・甕・小型甕・ミニチュア甕・手捏土器），紡錘状土製 | SI19→本跡 |
| 19 | B 3 b4 | N-18°-W | 隅丸方形 | 5.08 × 4.87 | 36～50 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・壺・甕・台付甕），紡石，砥石 | 本跡→SI18 |
| 20 | B 3 c6 | N-26°-W | 隅丸方形 | 4.73 × 4.70 | 47～59 | 平坦 | － | － | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（高坏・坩・甕・台付甕），紡石 | |
| 21 | B 3 e6 | N-22°-W | 方 形 | 5.45 × 5.42 | 36～52 | 平坦 | | | － | | 炉1 | － | 自然 | 土師器（坏・坩），紡石 | |
| 22 | A 3 g5 | N 8°-W | 隅丸方形 | 7.05 × 6.84 | 18～30 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | 2 | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・坩・甕），鐘 | |
| 23 | A 3 h8 | N-18°-W | 方 形 | 3.26 × 3.24 | 8～18 | 平坦 | － | － | － | － | 竈1 | 1 | 自然 | 土師器（坏・鉢），須恵器（坏） | SI24→本跡 |
| 24 | A 3 g8 | N 7°-W | 方 形 | 4.96 × 4.89 | 16～20 | 平坦 | － | 4 | － | | 炉1 | | 自然 | 土師器（高坏・器台・壺・台付甕・ミニチュア甕） | 本跡→SI23・SK11 |
| 25 | H 3 g5 | N-8°-E | 方 形 | 5.78 × 5.67 | 12～36 | 平坦 | － | 4 | － | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（坏），縄文土器片，赤色土器片 | |
| 26 | B 2 e9 | N 24°-W | 方形 | 5.92 × 5.92 | 3～23 | 平坦 | － | 4 | 1 | 2 | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（高坏），縄文土器片 | |
| 27 | B 3 j9 | N-10°-W | 方 形 | 8.44 × 8.15 | 22～46 | 平坦 | 北壁全周 | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（器台・壺・台付甕・手捏一括），須恵器，紡石 | |
| 28 | A 3 i3 | N-6°-W | 方 形 | 5.07 × 4.94 | 28～56 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器片，縄文土器片 | 本跡→SK 2 |
| 29 | A 3 h1 | N-18°-W | 方形 | (3.57) × 3.41 | 24～57 | 平坦 | － | － | － | － | 竈1 | － | 自然 | 土師器片，須恵器片，剪紙上鋏 | |
| 30 | C 3 d9 | N-12°-W | 方 形 | 5.12 × 4.94 | 25～36 | 平坦 | － | － | － | － | － | 1 | 自然 | 土師器（坏・高坏・坩・甕） | 本跡→SK15 |
| 31 | C 3 e2 | N-23°-W | 方形 | 5.22 × (3.87) | 7～35 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（甕） | |
| 32 | C 3 f2 | N-57°-E | 方 形 | 4.57 × 4.26 | 8～27 | 平坦 | － | － | － | 1 | － | 1 | 自然 | 土師器（坏・器台） | |
| 33 | C 3 h3 | N-16°-W | 方 形 | 4.40 × 4.32 | 12～26 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | 1 | 自然 | 土師器（壺・台付甕），紡石 | SI34・35→本跡 |
| 34 | C 3 h4 | N-38°-W | 楕方形 | (5.79) × (4.79) | － | 平坦 | － | 4 | 1 | － | － | － | | | 本跡→SI33 |
| 35 | C 3 h1 | N-31°-W | 方形 | (6.18) × (5.46) | 7～18 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | － | 自然 | 土師器（台付甕） | 本跡→SI33 |
| 36 | C 2 h9 | N-45°-E | 方 形 | 4.15 | 22～38 | 平坦 | － | － | － | － | 炉1 | 1 | 人為 | 土師器（坏・高坏・ミニチュア器台） | |
| 37 | D 3 a4 | N 71°-E | 長方形 | 4.06 × 3.60 | 7～17 | 平坦 | － | － | | － | 竈1 | 1 | 自然 | 土師器（坏・甕） | |
| 38 | C 2 d6 | N 17°-W | 楕方形 | 4.14 × (3.42) | 4～8 | 平坦 | － | － | － | － | 炉1 | － | 人為 | 土師器片 | SI39→本跡 |
| 39 | C 2 e8 | N-62°-E | 方 形 | 4.46 | 29～38 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 炉1 | 2 | 自然 | 土師器（坏・甕・高坏・ミニチュア甕） | SI38・40→本跡→SD2 |
| 40 | C 2 d0 | N 73°-E | 長方形 | 3.38 × 2.84 | 6～13 | 平坦 | － | － | － | － | 竈1 | 1 | 自然 | 土師器片，鉄片 | SI43→SD 2→本跡 |

| 住居跡番号 | 位置 | 主軸方向（長軸） | 平面形 | 規模(cm)（長径×短径） | 壁高(cm) | 床面 | 炉 | | | | | 覆土 | 内土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 埋甕 | 土器片 | 焼土 | ピット | 石・礫 | 自然木 | | |
| 41 | C 2 f 9 | N-26°-W | 楕円形 | 5.20×3.67 | 15～19 | 平坦 | － | 4 | － | － | 多用 | － | 自然 | 土師器（鉢・甕・小形有台鉢） | 本跡→SI39→SI42 |
| 42 | C 2 f 10 | N-37°-W | 方 形 | 5.78 × 5.64 | 12～22 | 平坦 | － | 4 | 1 | － | 礫1 | 1 | 自然 | 土師器(坏・高坏・直口壺・甕・鉢・鉢蓋・土錘) | SI41・43→本跡 |
| 43 | C 2 e 10 | N-23°-W | 方 形 | 5.15 × 1.91 | 12～32 | 平坦 | － | 4 | | － | 炉1 | － | 自然 | 土師器（器台・坏・甕・台付甕） | 本跡→SD2→SI45・SI46 |

## 2　集石遺構

今回の調査で，集石遺構７か所を確認した。以下，確認した集石遺構の状態と出土遺物について記載する。

### 第１号集石遺構（第76図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｈ0 区。

**確認状況**　黒色帯を32cmほど掘り下げた所で確認した。

**規模と平面形**　径112cmの不整円形に広がっている。

**遺物**　礫340点が出土している。礫の石材は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長３～14cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。礫の分布はやや東部に集中し，上層から底面付近まで密に集石されている。

**所見**　遺構に伴う出土土器はみられなかったが，周辺から縄文時代早期の土器が出土しているので，縄文時代早期の調理場遺構と考えられる。

### 第２号集石遺構（第76・77図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｈ8 区。

**確認状況**　黒色帯を30cmほど掘り下げた所で確認した。

**規模と平面形**　長径108cm，短径102cmの円形に広がっている。

**遺物**　礫88点，縄文土器片34点が出土している。礫の石材は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長４～23cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。礫の集石状況は密で，中央部に比較的大きな礫が置かれている。第77図１は深鉢の口縁部片で，貝殻条痕文が施されている。２・３は深鉢の胴部片で，２は斜格子文が，３は貝殻条痕文が施されている。

**所見**　出土遺物から縄文時代早期の調理場遺構と考えられる。

### 第３号集石遺構（第76図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｇ4 区。

**確認状況**　表土除去後の遺構確認面で確認した。

**規模と平面形**　長径141cm，短径92cmの楕円形に広がっている。

**覆土**　３層からなる。

**土層解説**

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

**遺物**　礫38点が出土している。礫の材質は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長４～17cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。礫の集石状況は疎らである。

**所見**　遺構に伴う土器はみられなかったが，縄文時代の調理場遺構と考えられる。

**第４号集石遺構**（第76図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｉ６区。

**確認状況**　表土除去後の遺構確認面で確認した。

**規模と平面形**　長径138cm，短径107cmの楕円形に広がっている。

**覆土**　単一層である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

**遺物**　礫50点が出土している。礫の材質は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長５～19cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けていた。礫の集石状況は密である。

**所見**　遺構に伴う土器はみられなかったが，縄文時代の調理場遺構と考えられる。

**第５号集石遺構**（第76・77図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｊ５区。

**確認状況**　表土除去後の遺構確認面で確認した。

**規模と平面形**　長径88cm，短径70cmの楕円形に広がっている。

**遺物**　礫36点，縄文土器片２点が出土している。礫の材質は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長３～30cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。中央部に最大長30cmの平石２点が置かれている。第77図４・５は深鉢の胴部片で，内・外面外面に条痕文が施されている。

**所見**　出土遺物から縄文時代早期の調理場遺構と考えられる。

**第６号集石遺構**（第76図）

**位置**　調査区の北部，Ａ２ｄ８区。

**確認状況**　表土除去後の遺構確認面で確認した。

**規模と平面形**　長径131cm，短径102cmの楕円形に広がっている。

**覆土**　２層からなる。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

**遺物**　礫85点が出土している。礫の材質は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長５～15cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。礫は南部に集中している。

**所見**　遺構に伴う土器はみられなかったが，縄文時代の調理場遺構と考えられる。

**第７号集石遺構**（第76図）

**位置**　調査区の北部，Ａ３ｄ１区。

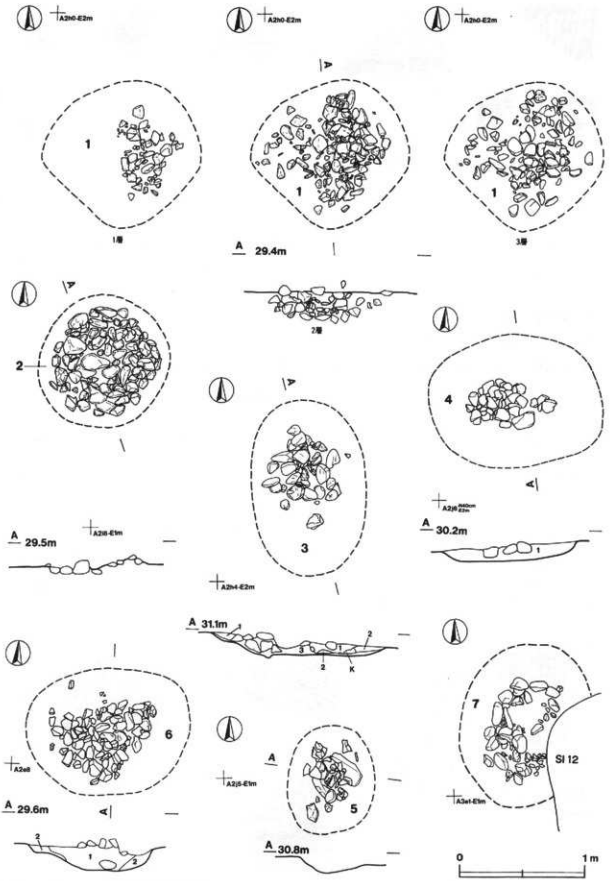
**重複関係**　第12号住居に南東部を掘り込まれている。

**確認状況**　表土除去後の遺構確認面で，確認した。

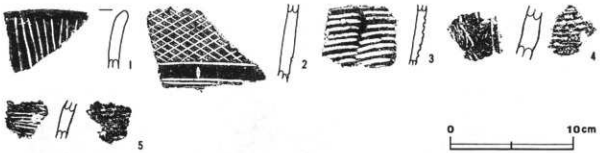
**規模と平面形**　長径85，短径52cmの楕円形に広がっている。

**遺物**　礫88点が出土している。礫の材質は安山岩，砂岩，凝灰岩である。礫は最大長３～19cmで，ほとんどが破砕し火熱を受けている。礫の集石状況はやや密である。

**所見**　遺構に伴う土器はみられなかったが，縄文時代の調理場遺構と考えられる。




第76図　第１～７号集石遺構実測図




第77図　第２・５号集石遺構出土遺物実測図

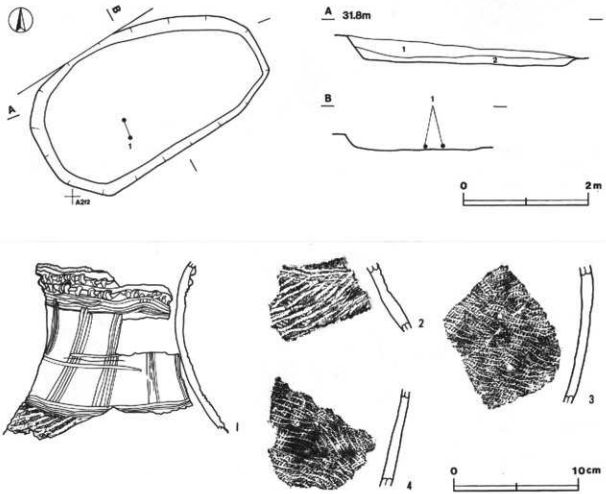
## 3　土　　坑

今回の調査では，土坑17基を確認した。ここでは，土坑の形状，規模及び出土遺物に特徴があるものについて文章で記載し，それ以外の土坑については一覧表に記載する。

**第１号土坑**（第78図）

**位置**　調査区の北西部，Ａ２ｅ２区。

**規模と平面形**　北西部が調査区域外に延びている。確認できたのは，長径3.88m，短径（2.24）ｍの範囲で，




第78図　第１号土坑・出土遺物実測図

深さ26cmである。

**長径方向**　N－64°－E

**壁面**　緩やかに外傾して立ち上がる。

**底面**　ほぼ平坦である。

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

**遺物**　縄文土器片1点，弥生土器片10点が出土している。第78図1は弥生土器広口壺の口縁部破片で，中央部の覆土下層から出土している。2～4は弥生土器片の拓影図である。2は胴部から頸部にかけての破片で，胴部と頸部の境は3条の沈線で区画され，胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。3・4は胴部片で，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して，弥生時代後期と考えられる。性格は不明である。

第1号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴　及　び　文　様 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第78図<br>1 | 広口壺<br>弥生土器 | B（13.9） | 胴部から口縁部にかけての破片。口縁部に2条の隆帯が巡り，隆帯上に指圧による押圧が施されている。頸部には櫛歯状工具による縦の区画が施され，頸部と胴部との境に3条の沈線が巡る。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>灰黄褐色<br>普通 | P175　10%<br>PL29<br>中央部覆土下層 |

**第16号土坑（第79図）**

**位置**　調査区の中央部，B3i1区。

**規模と平面形**　長径1.54m，短径1.49mの円形で，深さ22cmである。

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　ほぼ平坦である。

**覆土**　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

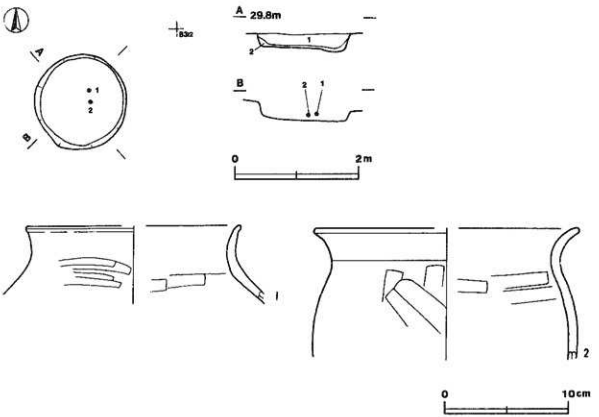
**土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム小ブロック・粒子微量

**遺物**　土師器片100点が出土している。第79図1・2は土師器甕で，覆土中層から出土している。

**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して，古墳時代中期（5世紀）と考えられる。性格は不明である。

第16号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第79図<br>1 | 甕<br>土師器 | A［17.0］<br>B（6.3） | 口縁部の破片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部上位内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・長石<br>にぶい褐色<br>普通 | P186　5%<br>覆土中層 |
| 2 | 甕<br>土師器 | A［21.0］<br>B（10.7） | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ヘラ削り。 | 砂粒・長石<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P187　5%<br>覆土中層 |




**第79図　第16号土坑・出土遺物実測図**

表3　ニガサワ遺跡土坑一覧表

| 土坑番号 | 位置 | 長径方向（長軸方向） | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な遺物 | 備考 重複関係（旧→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A 2 e2 | N－64°－E | 楕円形 | 3.88 × (2.24) | 26 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片，弥生土器片，土師器片 | |
| 2 | A 3 h3 | N－22°－W | 楕円形 | 1.12 × 0.78 | 50 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | SI28→本跡 |
| 3 | A 3 c3 | N－28°－E | 楕円形 | 0.91 × 0.76 | 36 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器片，土師器片 | |
| 4 | A 3 d4 | N－60°－E | 長方形 | 1.82 × 0.62 | 26 | 垂直 | 平坦 | 人為 | | |
| 5 | A 3 d4 | N－60°－E | 長方形 | 1.62 × 0.55 | 36 | 垂直 | 平坦 | 人為 | | |
| 6 | A 3 g3 | N－58°－E | 楕円形 | 1.28 × 1.20 | 45 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器片，土師器片 | |
| 7 | A 3 h3 | N－22°－W | 楕円形 | 1.08 × 0.94 | 18 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片，土師器片 | |
| 8 | A 3 h4 | － | 円形 | 0.79 | 12 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 9 | A 3 f7 | N－52°－E | 楕円形 | [2.04] × 1.55 | 4 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片 | |
| 10 | A 3 g9 | N－21°－W | 楕円形 | 1.92 × 1.61 | 31 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片，土師器片 | |
| 11 | A 3 h7 | N－54°－E | 長方形 | 2.42 × 0.70 | 19 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | SI24→本跡 |
| 12 | B 2 f0 | － | 円形 | 1.50 | 37 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片 | |
| 13 | C 3 e4 | N－14°－W | 長方形 | 1.68 × 0.94 | 28 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 14 | C 3 h7 | N－53°－E | 楕円形 | 1.43 × 1.14 | 24 | 外傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 15 | C 3 d7 | N－78°－E | 不整長方形 | 2.70 × 0.95 | 23 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | SI30→本跡 |
| 16 | B 3 i1 | － | 円形 | 1.54 × 1.49 | 22 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片 | |
| 18 | B 2 b6 | N－43°－W | 楕円形 | 1.44 × 1.32 | 33 | 垂直 | 皿状 | 自然 | 縄文土器片，土師器片 | |

## 4　溝

今回の調査では，溝２条を確認した。以下，その特徴や主な遺物について記載する。

### 第１号溝（遺構全体図，第80・81図）

**位置**　調査区の西部，Ｂ２b6～Ｃ３c1区。

**規模と形状**　全長52.4mである。上幅0.56～1.24m，下幅0.18～0.50m，深さ0.64mで，断面形はU字形である。

**方向**　Ｃ３c1区から北西（Ｎ－24°－Ｗ）にほぼ直線的に延びる。

**覆土**　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

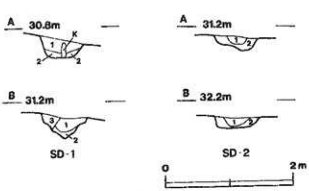
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・小ブロック・焼土少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**遺物**　土師器片84点が出土している。第81図１は土師器台付甕の台部片で，覆土中層から出土している。

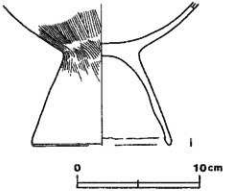
**所見**　本跡の時期は，出土土器から判断して，古墳時代と考えられる。

第１号溝出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第81図 1 | 台付甕 土師器 | B〔11.4〕 D〔11.1〕 | 脚台部から体部にかけての破片。脚台部はハの字状に開き，端部を内側に折り返す。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部外面ハケ目調整，内面ナデ。脚台部外面上位ハケ目調整，下位ナデ。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通 | P185 5% PL29 覆土中層 |




第80図　第１・２号溝断面図




第81図　第１号溝出土遺物実測図

### 第２号溝（遺構全体図，第80図）

**位置**　調査区の南西部，Ｃ２f7～Ｃ３c2区。

**重複関係**　本跡が第39・43号住居跡の中央部を掘り込み，第40号住居に掘り込まれているので，第39・43号住居跡より新しく，第40号住居より古い。

**規模と形状**　西部が調査区域外に延びているため，確認できた部分は25.8mである。上幅0.50～0.80m，下幅0.20～0.48m，深さ0.18mで，断面形は逆台形である。

**方向**　Ｃ２f7区から北東（Ｎ－53°－Ｅ）にほぼ直線的に延びる。

**覆土**　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

**遺物**　土師器片12点が出土している。

**所見**　時期を限定できる遺物はないが，重複関係から本跡は，古墳時代（中期～後期）と考えられる。

## 5　遺構外出土遺物

遺構外からは，旧石器時代から奈良・平安時代にかけての遺物が出土している。ここでは，出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。

### (1)　縄文土器

第82・83図10～35は縄文土器片の拓影図である。

10～14は早期中葉の土器である。10は深鉢の胴部片で，斜格子目文が施されている。三戸式と考えられる。11は深鉢の口縁部片，12～14は深鉢の胴部片で，沈線文が施されている。田戸下層式と考えられる。

15～20は早期後葉の土器で，胎土に繊維を含んでいる。15・16は深鉢の口縁部片で，微隆起線で区画され，交点に円形刺突文が施されている。鵜ヶ島台式と考えられる。17～20は条痕文系土器である。17は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミ，口縁部に貝殻条痕文が施されている。18～20は胴部片で，内・外面とも貝殻条痕文が施されている。

21～24は前期前葉の土器で，胎土に繊維を含んでいる。21は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文が施されている。22～24は深鉢の胴部片で，22はRLの単節縄文，23はRの無節縄文，24はRの無節縄文が羽状に施されている。黒浜式と考えられる。

25～32は前期後葉の土器である。25～27は深鉢の口縁部片で，25・26は口唇部にキザミ，口縁部に半截竹管による爪形文，27は口唇部に補修孔が，口縁部に半截竹管による爪形文が施されている。28～30は深鉢の胴部片で，波状貝殻文が施されている。浮島Ⅱ式と考えられる。31は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミ，口縁部には平行沈線と貝殻腹縁文が，32は深鉢の胴部片で，細い沈線による区画内に貝殻腹縁文が施されている。興津式と考えられる。

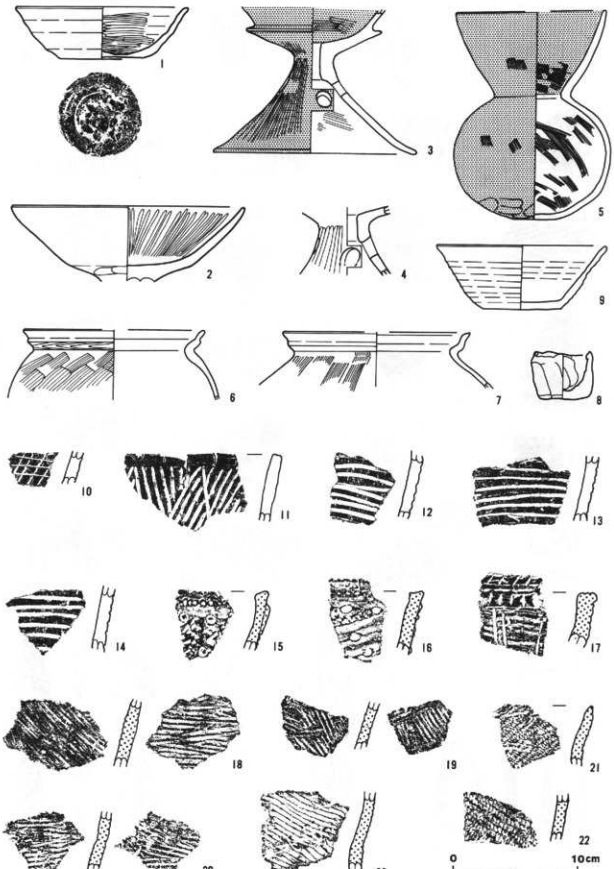
33～35は中期の土器である。33は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文が，34・35は深鉢の胴部片で，34はRLの単節縄文が，35はLRの単節縄文がそれぞれ施されている。

### (2)　弥生土器

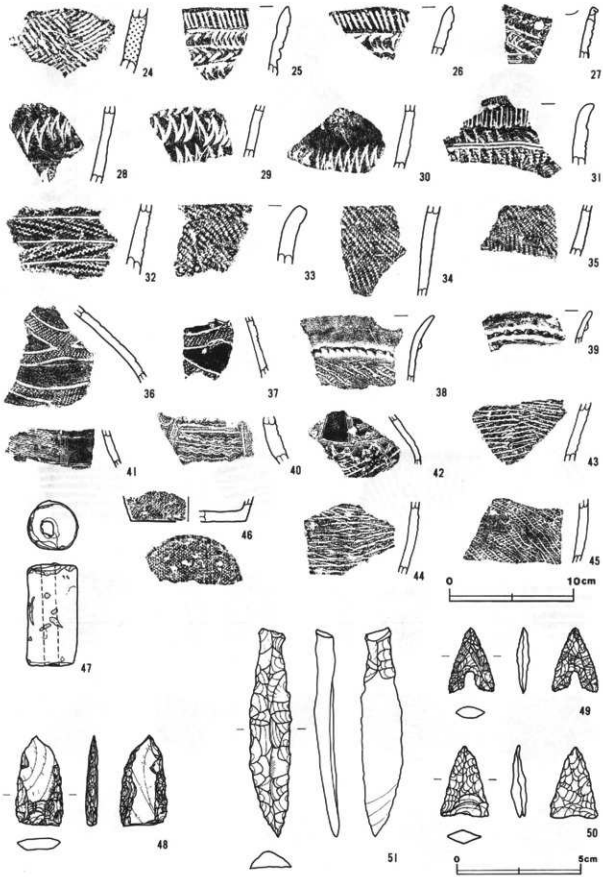
第83図36～46は弥生土器片の拓影図である。

36・37は弥生時代中期の土器である。36・37は壺の肩部片で，地文の縄文が底辺の長い三角形によって区画され，内部が磨り消されている。

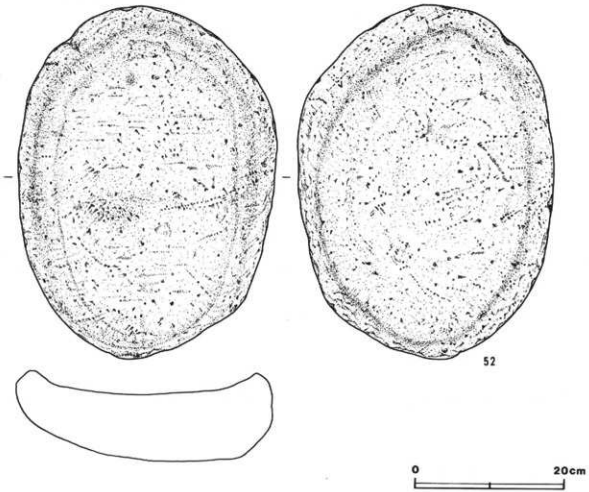
38～46は弥生時代後期の土器である。38～41は口縁部片で，38は口縁部に指頭による押圧が1条あり，下位に附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。39は口縁部に指頭による押圧のある隆帯が1条ある。40・41は櫛歯状工具による縦区画で分割され，区画内には波状文が施されている。42は頸部片で，櫛歯状工具による波状文と連弧文が施されている。43～45は胴部片で，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。46は底部片で，胴部に附加条一種（附加2条）の縄文が施され，底部には布目痕が認められる。




第82図　遺構外出土遺物実測図(1)




第83図　遺構外出土遺物実測図(2)




**第84図　遺構外出土遺物実測図(3)**

遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第82図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 13.8<br>B 4.2<br>C 6.7 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・雲母・赤色粒子<br>橙色<br>普通 | P176<br>PL30<br>表採 | 80% |
| 2 | 高坏<br>土師器 | A 18.6<br>B (6.0) | 脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり口縁部に至る。坏部下位に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P177<br>表採 | 50% |
| 3 | 器台<br>土師器 | B (11.7)<br>D 16.4 | 脚部・器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き中位に4孔が空けられている。器受部は内彎気味に立ち上がり，下位に突帯をもつ。器受部底部中央に単孔をもつ。 | 器受部内・外面ヘラ磨き，脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整後，ナデ。器受部内・外面，脚部外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P178<br>PL30<br>表採 | 60% |
| 4 | 器台<br>土師器 | B ( 5.6) | 脚部片。脚部は外傾して下方に開く。4孔が空けられている。器受部底部中央に単孔をもつ。 | 脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P179<br>表採 | 30% |
| 5 | 坩<br>土師器 | A [12.0]<br>B 16.9<br>C 3.3 | 口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し，中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ハケ目調整後，ナデ。体部外面中位ハケ目調整後，ナデ，下位ヘラ削り。内面ハケ目調整。口縁部内・外面，体部外面赤彩。 | 砂粒・雲母・長石<br>橙色<br>普通 | P180<br>PL30<br>表採 | 70% |
| 6 | 台付甕<br>土師器 | A [14.4]<br>B ( 5.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部はS字状で，端部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・長石・赤色粒子<br>にぶい橙色<br>普通 | P181<br>PL30<br>表採 | 5% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第82図 7 | 台付鉢 土師器 | A 14.8<br>B (4.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部はS字状で、端部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整、内面ナデ。 | 砂粒・長石・赤色粒子<br>浅黄橙色<br>普通 | P182<br>表採 | 5% |
| 8 | 手捏土器 土師器 | A 4.6<br>B 3.8<br>C 4.2 | 完形。鉢形。平底。体部はほぼ直立し、口縁部に至る。 | 口縁部、体部内・外面指頭によるナデ。 | 砂粒・長石<br>明褐色<br>普通 | P183<br>PL30<br>表採 | 100% |
| 9 | 坏 須恵器 | A 13.6<br>B 5.2<br>C 6.6 | 口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。 | 砂粒・長石・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P184<br>PL30<br>表採 | 60% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 長さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第83図47 | 管状土錘 | 4.0 | 8.2 | 1.3 | 158.7 | 表採 | DP19 | PL30 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | | |
| 第83図48 | 剥片刃形石器 | 7.3 | 3.9 | 0.9 | 29.6 | 頁岩 | 表採 | Q24 | PL30 |
| 49 | 石鏃 | 2.6 | 1.8 | 0.5 | 1.36 | チャート | 表採 | Q25 | PL30 |
| 50 | 石鏃 | 2.9 | 1.9 | 0.7 | 2.62 | チャート | 表採 | Q26 | PL30 |
| 51 | 石匙 | 8.3 | 1.7 | 0.7 | 10.6 | 頁岩 | 表採 | Q27 | PL30 |
| 第84図52 | 石皿 | 47.2 | 34.3 | 11.7 | 17.5kg | 安山岩 | 表採 | Q28 | PL30 |

## 第4節　まとめ

ニガサワ遺跡の調査から得られた成果を各時代ごとに整理し，まとめとする。

### 1　旧石器時代から縄文時代まで

旧石器時代の遺物は，彫刻刀形石器1点が表土から出土している。石質は頁岩である。

縄文時代の遺構は，集石遺構7基が北西部で確認された。いずれも礫の石材は安山岩，砂岩，凝灰岩などで，火熱を受けて赤変している。遺物は第2・5号集石遺構から縄文時代早期の条痕文系土器（三戸式・田戸下層式）片が出土しており，縄文時代早期の調理場遺構と考えられる。竪穴住居跡は確認されなかったが，石鏃，石匙，石皿及び縄文時代早期から中期までの土器片が表土や後世の遺構から出土しており，縄文時代の人々が採集や生活の場として利用していたことが想像される。

### 2　弥生時代

確認された遺構は土坑1基のみである。土器片は表土や後世の遺構から少量出土している。ほとんどの遺物は弥生時代後期の十王台式土器である。その他弥生時代中期に比定される，福島県いわき市に所在する竜門寺遺跡から出土した，竜門寺式土器と極めて似ている土器片が2点出土している。

### 3　古墳時代

本跡の中心となる時期で，竪穴住居跡36軒を確認した。3期に分けることができる。

第Ⅰ期（4世紀）

第1・2・4・6～10・13・17・19・20・22・24・27・31～35・41・43号住居跡の22軒が該当し，調査区全体に散在する。住居跡の施設をみると，4か所の主柱穴を持つ住居跡は18軒で，その内7軒が出入り口ピットを有する。貯蔵穴を持つ住居跡は18軒で，出入り口部から入って手前の右コーナー部に75%が設置されている。炉を持つ住居跡は18軒で，すべて地床炉である。規模をみると床面積が30㎡を超える大形住居跡[1]は9軒で，特に，調査区の西部に位置する第7号住居跡と南東部に位置する第27号住居跡の2軒は76・68㎡で，際だって大形である。20～30㎡の中形の住居跡が8軒，20㎡未満の小形の住居跡が5軒である。主軸方向はN－0°～30°－Wまでの範囲に72%の住居跡が含まれる。

出土遺物は，高坏・器台・坩・甕・甕・ミニチュア土器・手捏土器などである。第1・7・9・24・27号住居跡からは，ミニチュア土器または手捏土器が出土しており，祭祀との関連が考えられる。特に，第27号住居跡からは，南西コーナー部に，床面から5㎝の高さに粘土で作った棚状の施設が確認され，その施設の上からは，手捏土器5個が，東西に等間隔に並べられた状態で出土している。棚状施設の前面からは焼土塊が確認され，火を焚いたものと思われる。第13号住居跡からは，口縁部が波状を呈した甕が1点出土している。成形技法は，口縁部内・外面をハケ目調整した後に，棒状工具あるいは指頭により，口縁端部を内側から等間隔に押圧することによって成形している。当財団が調査した茨城町南小割遺跡からも類似した甕が出土している。また，本跡からは東海系のS字状口縁の台付甕が出土している。第2・9・20・27・31・35号住居跡からは，口縁部片が，第33・43号住居跡からはほぼ完形のS字状口縁の台付甕が出土している。いずれも赤塚編年[2]のD類に属するものと思われる。当財団が平成5年度に調査した常北町上入野遺跡からも同類のS字状口縁の台付甕が出土している。

第Ⅱ期（5世紀）

第5・14・15・18・21・25・26・30・36・39号住居跡が該当する。第36・39号住居跡は南部に，それ以外の住居跡は中央部から東側に位置している。住居跡の施設をみると，主柱穴を持つ住居跡は4軒である。炉を持つ住居跡は7軒で，すべて地床炉である。炉の位置をみると，第25号住居跡は中央部から東寄りに，第36・39号住居跡は北東壁寄りに設置されている。床面積は平均27.3㎡で，第Ⅰ期の平均32.0㎡に比べ小形化していることから，居住空間を意識して炉を設置していると考えられる。住居跡の主軸方向はN－35°－W～N－78°－Eまでの広範囲で規則性はみられない。

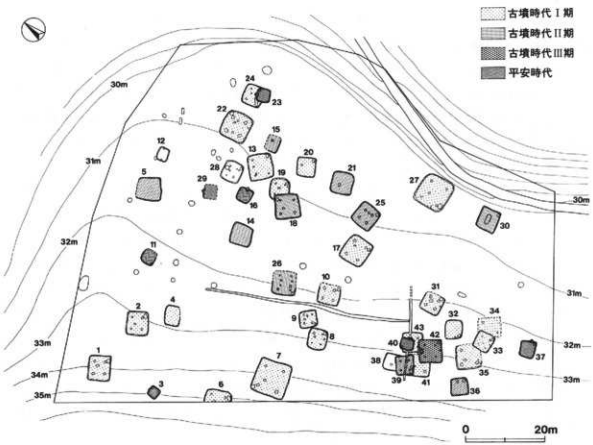
出土遺物は，坏・高坏・坩・壺・甕などである。第18号住居跡からは，東壁際から6個の高坏が，人為的に積み重ねられた状態で出土している。いずれの高坏も脚部がエンタシス状を呈し，脚部と坏部の外面は丁寧なヘラ磨きが施されている。祭祀行為との関連が考えられる。

第Ⅲ期（6世紀）

調査区の南部に位置する第42号住居跡が該当する。平面形は方形で，床面積は33㎡の大形住居跡である。北壁中央部に竈が付設されている。土錘が集中して出土していることから，漁労との関係も考えられる。

## 4　平安時代

竪穴式住居跡7軒を確認した。2期に分けることができる。（第16号住居跡は平安時代と考えたが，遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。




**第85図　ニガサワ遺跡集落変遷図**

第Ⅰ期（9世紀中葉）

第3・23号住居跡が該当する。床面積は6㎡と10㎡で古墳時代のものと比べてかなり小形である。柱穴は2軒とも確認されなかった。竈は2軒とも北壁中央に付設されている。第3号住居跡は調査区の北西部，第23号住居跡は北東部に位置し，両者の距離は80mほどで，主軸方向は，前者がN－5°－W，後者がN－19°－Wと差があることなどから，この2軒は別のグループである可能性も考えられる。

遺物は，土師器（坏・甕），須恵器（坏）が出土している。第3号住居跡から「厨」「大子」と墨書された土師器坏が出土している。那賀郡衙との関係が考えられる。

第Ⅱ期（10世紀）

第11・16・37・40号住居跡が該当する。住居跡の床面積は4軒とも20㎡未満と小形である。住居の掘り込みも浅く柱穴も確認されなかった。竈の付設位置は，第11号住居跡は削平のため確認されなかったが，第16号住居跡は東壁の中央部に，調査区の南部に位置する第37・40号住居跡は，東壁の中央部から南寄りの位置である。主軸方向も差がないことから，これらの住居跡は同時期に存在していたものと考えられる。

以上をまとめると，今回の調査で，旧石器時代から平安時代までの人々の生活の痕跡を確認することができた。旧石器・縄文時代には，狩猟や生活の場として利用され，古墳時代の4世紀後半に集落が形成され，5世紀中葉まで継続する。住居跡からミニチュア土器，手捏土器，高坏，器台，坩などが出土していることから，

祭祀との関連がうかがえる。しかし，それ以後は古墳時代の6世紀中葉，平安時代の9世紀中葉から10世紀にかけて，わずかに住居が構築されたにすぎない。

註

(1) 竪穴住居跡の大きさは，床面積30㎡以上を大形，30㎡未満20㎡以上を中形，20㎡未満を小形とした。

(2) 赤塚次郎「「S字甕」覚書'85」「年報　昭和60年度」財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1986年

参考文献


・財団法人いわき市教育文化事業団「竜門寺遺跡」「いわき市埋蔵文化財調査報告」第11冊　1985年3月

・茨城県教育財団「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書　南小割遺跡　権現堂遺跡　横塚古墳後原遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第129集　1998年3月

・茨城県教育財団「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告Ⅰ　上入野遺跡　青木遺跡　後側遺跡　前側遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第108集　1996年3月

・茨城県教育財団「一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　神谷森遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第66集　1991年3月

・茨城県教育財団「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告Ⅰ　原口遺跡　北前遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第83集　1993年3月

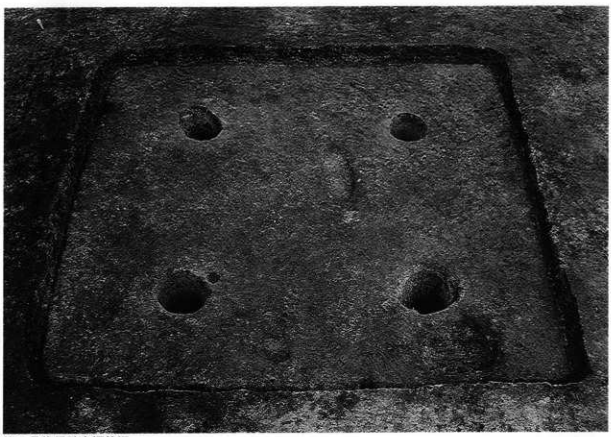
・樫村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」「研究ノート」5号　茨城県教育財団　1996年6月

# 写 真 図 版

調査前風景

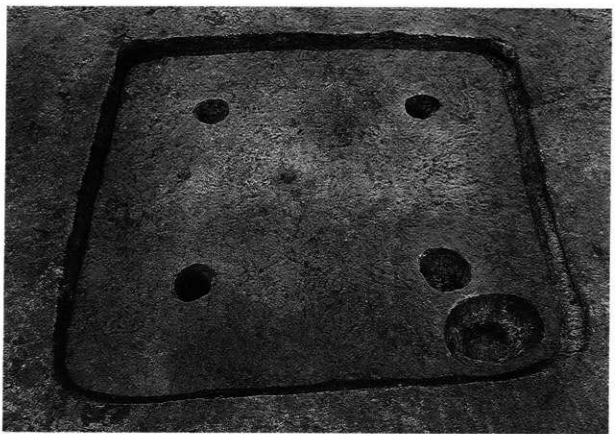
遺構確認状況

遺構完掘全景



第 1 号住居跡完掘状況

第 1 号住居跡遺物出土状況



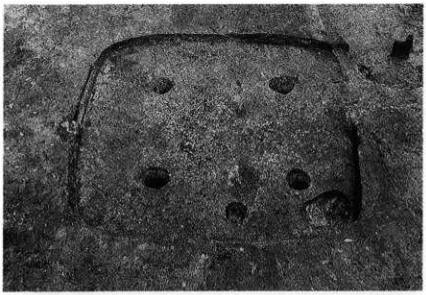
第 2 号住居跡宪掘状況

第 2 号住居跡遺物出土状況

第 7 号住居跡完掘状況

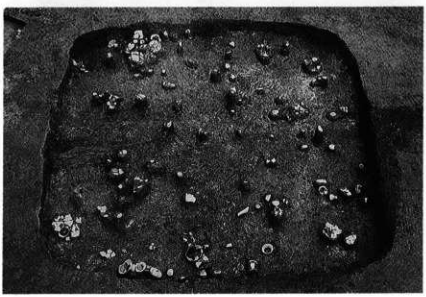
第18号住居跡遺物出土状況

第25号住居跡宛掘状況

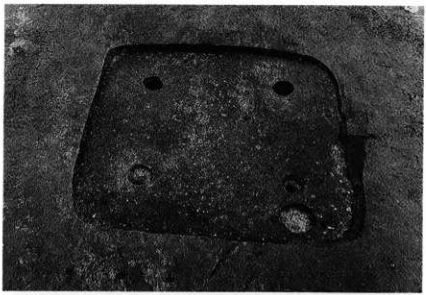


第 8 号住居跡完掘状況

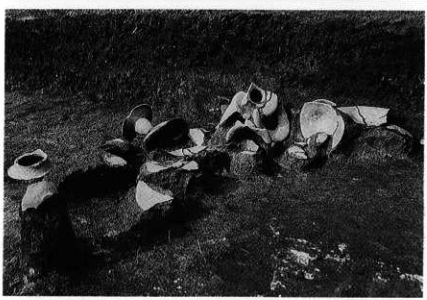
第 9 号住居跡完掘状況



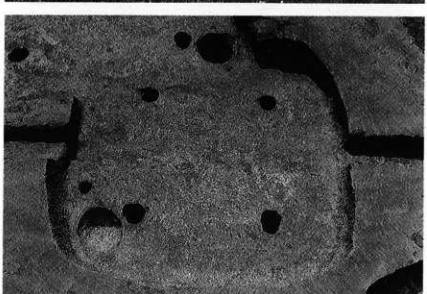
第13号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡完掘状況

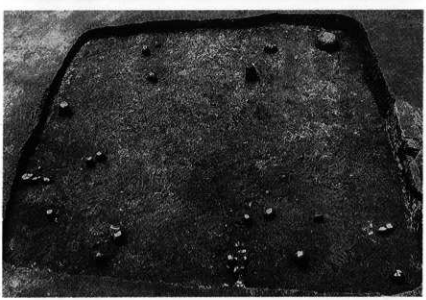


第18号住居跡遺物出土状況

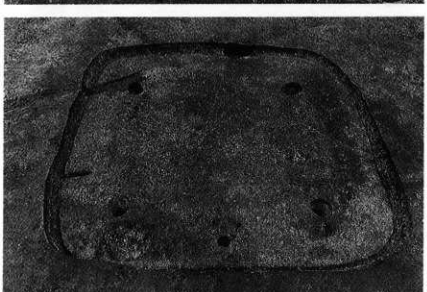


第19号住居跡完掘状況

第20号住居跡完掘状況

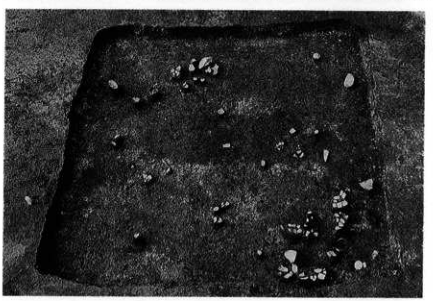


第25号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡完掘状況

第27号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡遺物出土状況

第33号住居跡完掘状況

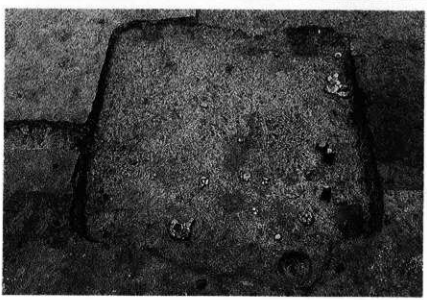
第35号住居跡完掘状況

第39号住居跡完掘状況

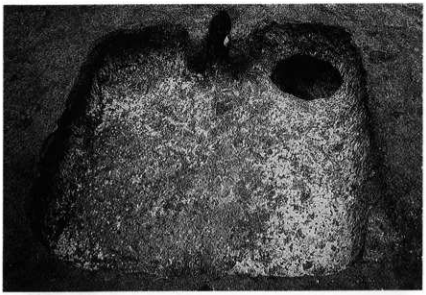
第42号住居跡完掘状況

第42号住居跡遺物出土状況

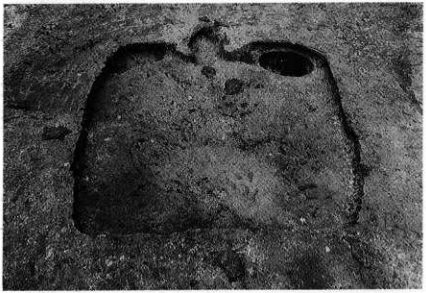
第43号住居跡完掘状況



第43号住居跡遺物出土状況



第 3 号住居跡完掘状況



第23号住居跡完掘状況

第37号住居跡遺物出土状況

第 1 号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第 2 号住居跡遺物出土状況

第 9 号住居跡遺物出土状況

第13号住居跡遺物出土状況

第39号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第42号住居跡竈遺物出土状況

第43号住居跡遺物出土状況

第16号住居跡遺物出土状況

第１号集石遺構

第２号集石遺構

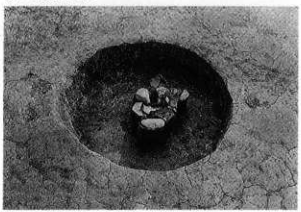
第３号集石遺構

第４号集石遺構

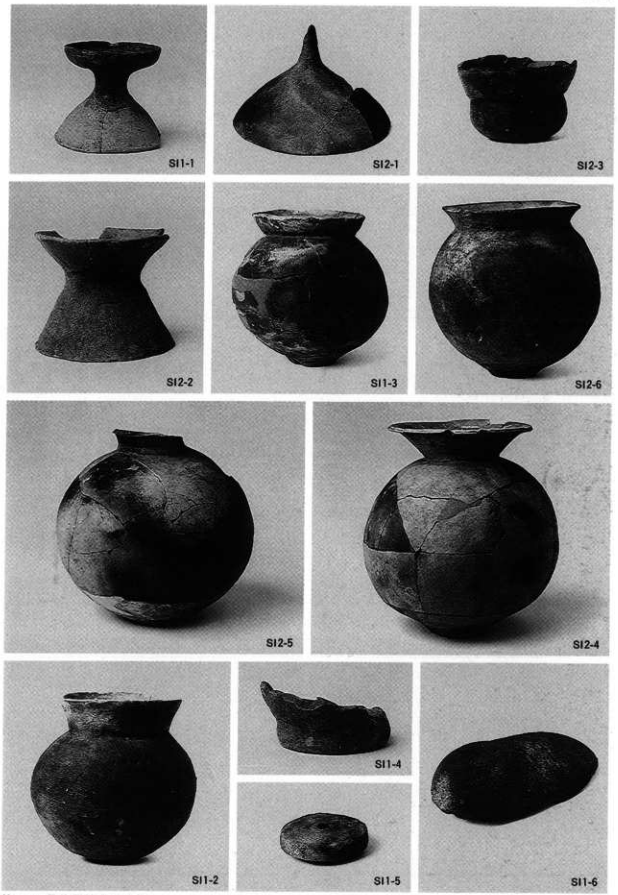
第５号集石遺構

第６号集石遺構

第７号集石遺構



第16号土坑遺物出土状況




第1・2号住居跡出土遺物

第2・4・5号住居跡出土遺物

第５～９号住居跡出土遺物

SI13-1

SI13-2

SI13-5

SI9-6

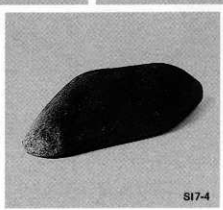
SI9-7

SI9-9

SI9-8

SI13-23

SI8-4

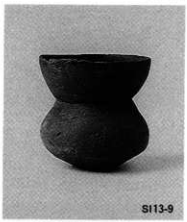

SI7-4

SI10-2

第7～10・13号住居跡出土遺物

SI13-3

SI13-8

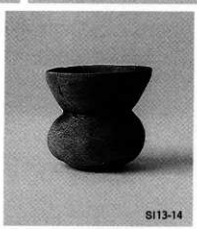

SI13-9

SI13-4

SI13-10

SI13-11

SI13-6


SI13-14

SI13-15

SI13-19

SI13-12

SI13-13

第13号住居跡出土遺物

SI14-4

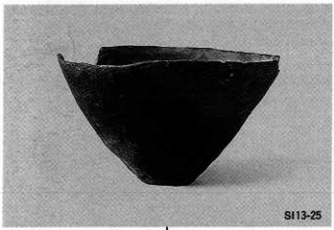
SI15-2

SI13-20

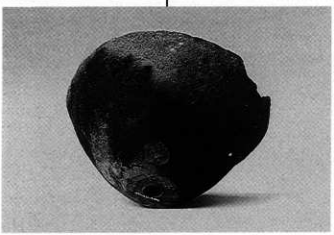
SI13-21

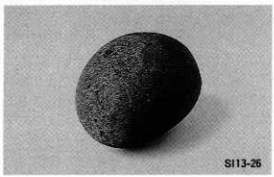
SI13-24

SI15-1


SI13-25

SI13-22




SI13-26

第13～15号住居跡出土遺物

SI18-1

SI18-2

SI18-3

SI18-4

SI18-5

SI18-7

SI18-6

SI18-9

SI18-10

SI18-13

SI17-2

SI15-4

第15・17・18号住居跡出土遺物

SI20-1

SI19-1

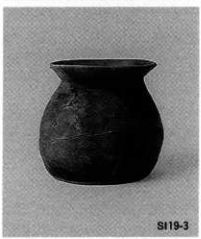
SI20-2

SI18-16

SI20-3

SI18-15

SI18-17


SI19-3

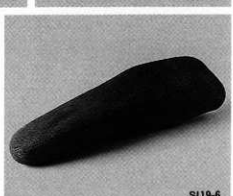
SI18-14

SI18-18

SI18-19

SI18-20

SI19-5


SI19-6

第18～20号住居跡出土遺物

SI24-1

SI22-1

SI24-2

SI22-2

SI22-3

SI20-4

SI24-4

SI24-3

SI24-6

SI20-6

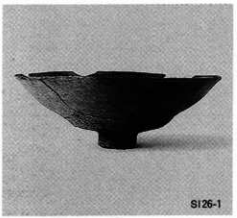
SI21-4

第20～22・24号住居跡出土遺物

SI25-1

SI25-2

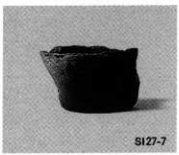
SI27-1


SI26-1

SI27-2

SI27-3

SI27-6


SI27-7

SI27-12

SI27-8

SI27-9

SI27-13

SI27-10

SI27-11

第25～27号住居跡出土遺物

SI30-1

SI30-2

SI30-5

SI30-3

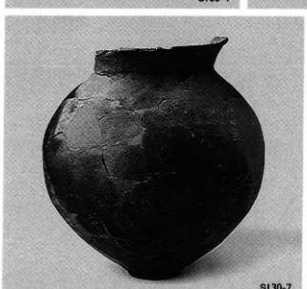
SI32-1

SI30-6

SI30-4

SI33-1

SI33-3


SI30-7

SI30-8

第30・32・33号住居跡出土遺物

SI36-1

SI39-1

SI39-2

SI39-3

SI39-4

SI36-5

SI41-1

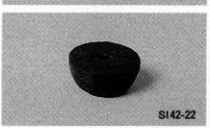
SI41-2

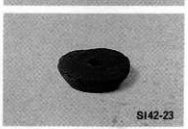
SI35-1

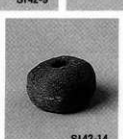
SI33-2

SI39-5

第33・35・36・39・41号住居跡出土遺物



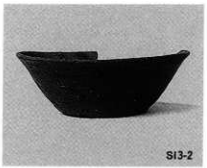





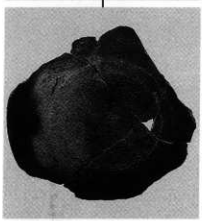
第41・42号住居跡出土遺物

第42・43号住居跡出土遺物

SI3-1


SI3-2

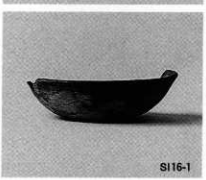
SI16-2



SI3-4

SI16-4

SI23-2

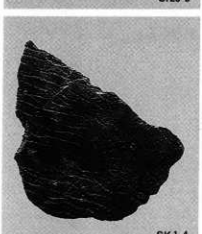

SI16-1

SK1-1

SI23-3

SD1-1

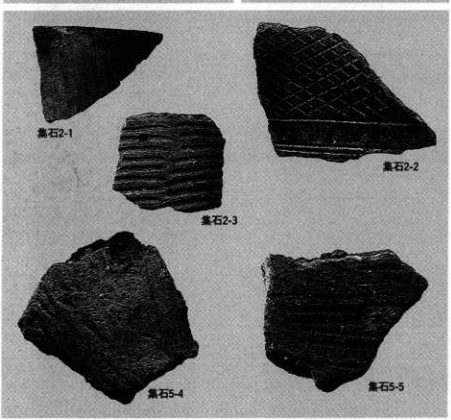
SI11-2


SK1-4

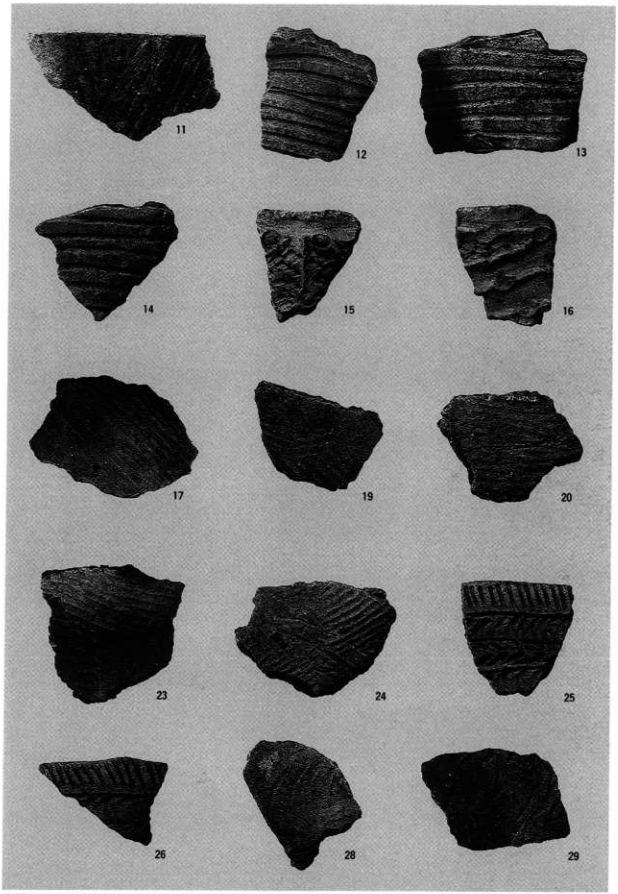
SI29-1

SI3-6

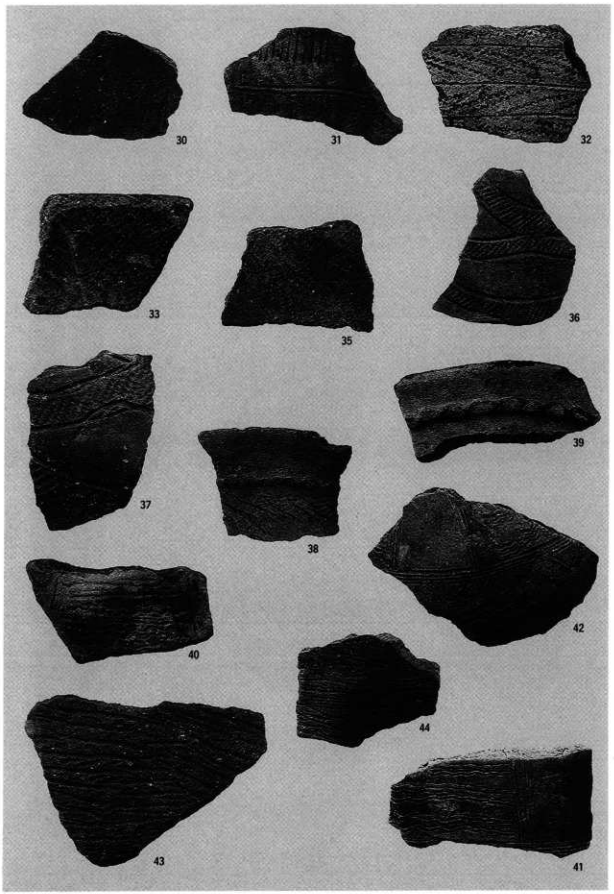
第3・11・16・23・29号住居跡・第1号土坑・第1号溝出土遺物



第2・5号集石遺構・遺構外(1) 出土遺物




遺構外出土遺物(2)




遺構外出土遺物(3)

茨城県教育財団文化財調査報告第169集

十万原地区市街地開発事業
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

ニガサワ遺跡

平成12（2000）年3月16日 印刷
平成12（2000）年3月21日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有) 山川軽印刷所
〒310-0912 水戸市見川2丁目63-14
TEL 029-221-3480